



河合塾グループ 医系専門予備校

メディカル ラボ®

私立医学部31大学 入試分析会 (一般選抜)

2024年12月17日（火）～2025年1月9日（木）

医系専門予備校メディカルラボ

本部教務副統括 尾木 歩



医系専門予備校メディカルラボの授業は
全てプロ講師による1対1指導



年間を通じて担任が学習面・生活面をフォロー
寄り添いながら医学部合格までサポート

医系専門予備校
合格者数

No.1 ※1

2024年度入試 合格実績

医学部
歯学部

1,402名 ※2

うち
医学部
医学科

1,226名 ※2

※1. 「株式会社東京商工リサーチ」調べ ※2. 医学部・歯学部最終合格者数(2024年4月27日現在)

※3. 合格者数は医学部・歯学部の最終合格者数です。(イベント参加者や模試のみの受験者は含まれません)



●国立大学 170

旭川医科2 / 北海道3 / 弘前4 / 東北1 / 秋田4 / 山形3 / 筑波6 / 群馬5 / 千葉6 / 東京1 / 東京医科
歯科5 / 新潟5 / 富山5 / 金沢2 / 福井5 / 山梨2 / 信州1 / 岐阜6 / 浜松医科15 / 名古屋3 / 三重5
/ 滋賀医科3 / 神戸3 / 鳥取3 / 島根2 / 岡山5 / 広島9 / 山口7 / 徳島7 / 香川3 / 愛媛8 / 高知5 /
九州4 / 佐賀1 / 長崎4 / 熊本3 / 大分3 / 宮崎5 / 鹿児島4 / 琉球2

●公立大学 40

札幌医科1 / 福島県立医科3 / 横浜市立9 / 名古屋市立12 / 京都府立医科4 / 大阪公立5 / 奈良県立医
科3 / 和歌山県立医科3

●省庁大学 13

防衛医科13

●私立大学 1003

岩手医科42 / 東北医科薬科19 / 自治医科2 / 獨協医科38 / 埼玉医科13 / 国際医療福祉55 / 杏林
37 / 慶應義塾5 / 順天堂27 / 昭和21 / 帝京41 / 東京医科37 / 東京慈恵会医科12 / 東京女子医
科27 / 東邦42 / 日本26 / 日本医科28 / 北里56 / 聖マリアンナ医科33 / 東海41 / 金沢医科4
1 / 愛知医科67 / 藤田医科62 / 大阪医科薬科28 / 関西医科30 / 近畿36 / 兵庫医科41 / 川崎医
科31 / 久留米18 / 産業医科9 / 福岡38

1. 2024年度入試結果
2. 私立医学部入試の現状
3. 私立医学部入試分析と対策

1. 2024年度入試結果

河合塾全統記述模試偏差値による合否度数分布

大学名	岩手医科		東北医科薬科						自治医科		獨協医科		埼玉医科	
募集区分	医一般		医一般枠		医 A 方式東北		医 B 方式東北		医		医		医	
定員	73		40		35		20		123		62		80	
合否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否
77.5～														
75.0～					1				2					
72.5～		2		2	2	1						1	2	3
70.0～	4	3	1	2	2	1		1	4	11	1	1	1	1
67.5～	5	2	10	5	4	9	3	3	22	13	5	3		2
65.0～	17	6	16	15	11	31	11	12	30	65	17	5	3	7
62.5～	37	21	18	29	10	27	12	19	48	69	21	21	3	16
60.0～	24	36	17	50	8	32	5	15	21	121	26	41	15	37
57.5～	15	84	9	46	4	35	2	19	15	100	18	63	15	57
55.0～	6	86	4	45	2	27		16	7	89	10	66	13	69
52.5～	5	102	1	52		27		12		74	1	75	4	88
50.0～		65		41		16		11		60	1	70		65
50.0未満	2	224		87		27		15		120	4	158	3	244
平均偏差値	62.2	52.5	63.3	55.1	64.6	58.3	64.3	58.0	64.1	57.1	61.3	53.0	59.2	51.7

河合塾全統記述模試偏差値による合否度数分布

大学名	国際医療福祉		杏林		慶應義塾		順天堂					
募集区分	医		医		医		医－テ併用		医 A 方式		医 B 方式	
定員	105		89		66		12		64		5	
合否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否
77.5～					2	2	1	2				
75.0～	6	3		1	14	2	1	4	5			
72.5～	12	7		2	21	24	1	14	9	9		
70.0～	36	11	3	1	19	51	5	12	30	25	1	1
67.5～	70	42	9	7	6	56	4	23	29	79	3	6
65.0～	64	106	26	21	1	53	1	20	21	114	1	12
62.5～	38	148	34	41	1	45	1	14	7	125	1	11
60.0～	12	162	22	62	1	29		6	7	121		6
57.5～	2	132	13	95	1	18		8		69		6
55.0～		102	7	84		9		7		65		3
52.5～		87	1	82	1	6		3	1	37		2
50.0～		60	1	84		5		2		33		
50.0未満	2	96	3	183		17		2		46		1
平均偏差値	67.5	59.0	62.8	54.0	72.3	65.0	70.9	66.1	68.8	61.3	68.1	63.0

河合塾全統記述模試偏差値による合否度数分布

大学名	昭和				帝京		東京医科		東京慈恵会医科		東京女子医科		東邦	
募集区分	医Ⅰ期		医Ⅱ期		医		医		医		医		医	
定員	83		18		86		74		105		67		70	
合否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否
77.5～									2					
75.0～	2		1			2	2		1				1	1
72.5～	1	3		1		1	1	4	8	8		1	2	3
70.0～	12	3	1	1	3	3	5	3	25	26			5	2
67.5～	23	27		8	13	10	11	19	28	38		1	17	18
65.0～	34	41	2	14	27	36	24	46	19	69	2		45	50
62.5～	17	74	1	31	22	68	25	83	5	79	3	3	25	88
60.0～	12	93	2	44	13	102	5	98	3	63	5	13	14	105
57.5～	6	65	1	36	4	125	5	95	1	44	12	15	5	110
55.0～	2	81	2	26		113	1	80		31	11	21	3	107
52.5～		49		22		125		58	1	24	4	32	1	73
50.0～		51		16		92		54		18		33	2	53
50.0未満	1	64		22	2	241		93		27		108		101
平均偏差値	65.7	58.0	63.7	58.3	64.4	54.6	65.6	57.3	69.0	61.5	58.5	50.5	65.0	57.3

河合塾全統記述模試偏差値による合否度数分布

大学名	日本				日本医科						北里		聖マリアンナ医	
募集区分	医 N 1 期		医 N 2 期		医－テ併前グロ		医前期		医後期		医		医	
定員	90		15		10		62		27		73		85	
合否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否
77.5～														
75.0～					1		1				1		1	
72.5～		2		1	1	1	8	5		2	1	1		4
70.0～	1	3		4	1	1	27	17	5	3	3	1	1	2
67.5～	5	1			1	6	37	37	3	8	8	4		9
65.0～	18	15		7		8	17	80	5	28	19	18	9	18
62.5～	24	26	6	13	1	8	10	81	3	32	26	33	19	55
60.0～	10	49	1	15		1	1	72	2	41	24	47	14	87
57.5～	6	71		34		2		43	1	25	9	76	14	114
55.0～	2	73		27		1		26		17	5	66	12	114
52.5～	2	70	1	23		2	2	30		11		69	2	136
50.0～		51		26		1		23		13		52		119
50.0未満	3	121	1	47		1		32		7	1	138	2	283
平均偏差値	62.5	54.3	60.5	54.8	70.4	63.6	68.6	61.0	66.6	60.5	63.6	54.0	61.0	53.6

河合塾全統記述模試偏差値による合否度数分布

大学名	東海		金沢医科				愛知医科		藤田医科		大阪医科薬科	
募集区分	医一般		医前期		医後期		医		医		医	
定員	60		72		10		65		83		83	
合否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否
77.5～											1	
75.0～		3				1	1		2			2
72.5～	1	1		3		1	1	2	4	2	3	4
70.0～	1	3		1			2	5	12	4	18	4
67.5～	7	4	2	4		1	14	11	26	7	20	22
65.0～	16	20	6	3	1	6	41	14	34	27	24	43
62.5～	26	32	14	22	4	14	50	47	32	75	25	73
60.0～	15	67	16	39	1	16	27	75	20	86	10	86
57.5～	4	80	17	67	1	20	17	109	7	100	3	89
55.0～	5	93	13	78		35	5	109	2	99	1	75
52.5～	1	67	5	95		31	1	101	1	82		65
50.0～		71	1	79		24		80	1	71		43
50.0未満	1	204	2	274		78		170		120	1	72
平均偏差値	63.3	53.7	60.0	51.5	63.0	53.0	63.9	54.6	65.5	55.9	66.4	57.7

河合塾全統記述模試偏差値による合否度数分布

大学名	関西医科				近畿				兵庫医科				川崎医科	
募集区分	医－テ併		医		医前 A		医後期		医 A		医 B		医	
定員	13		57		55		5		74		10		45	
合否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否
77.5～														
75.0～	2		1	2										
72.5～	3	2	6	6	3	3			2					
70.0～	3	3	15	15	1	2	1		4	3			1	
67.5～	12	19	24	55	11	10	1	2	17	9	1	1	1	3
65.0～	12	16	26	77	22	32	1	1	30	28		2	4	1
62.5～	6	23	16	113	29	58	1	8	45	60	5	6	19	10
60.0～		23	6	106	7	86		25	32	78		14	18	24
57.5～		24	3	94	1	83	1	20	5	90	2	13	16	34
55.0～		14		91		64		15	2	90	1	17	6	31
52.5～	1	5	1	79		72		16		97		12	10	57
50.0～		7		52		39		8		72		15	5	51
50.0未満		9		102		128		26		138		14	3	177
平均偏差値	67.8	60.9	67.2	58.7	65.3	55.8	65.9	55.2	64.3	55.2	62.4	55.4	59.4	50.7

河合塾全統記述模試偏差値による合否度数分布

大学名	久留米				産業医科				福岡	
募集区分	医前期		医後期		医－テA		医B		医系統別	
定員	75		5		60		5		65	
合否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否
77.5～										
75.0～						1				
72.5～	1	3		2	4			2		3
70.0～	3	1			1	2			2	
67.5～	9	3		1	7	6	1	6	4	4
65.0～	20	10		3	10	15	2	8	20	13
62.5～	22	23		2	8	37	2	27	23	39
60.0～	19	33		11	3	46	2	29	23	42
57.5～	8	49		15	1	51		29	12	78
55.0～	5	49		16		40		22	3	69
52.5～	5	79		16		22	1	19		113
50.0～		40		11		20		14		62
50.0未満	3	143		27	2	36		24		254
平均偏差値	62.4	53.0	データなし	54.3	65.3	57.6	63.2	57.6	63.0	52.3

合格最低点

※備考に記載のない場合は、繰上合格者も含む総合格者の合格最低点

大学名	区分	英語	数学	理科①	理科②	小論文	面接	その他	合計	合格最低点	得点率	備考
岩手医科	一般枠	100	100	75	75	なし	50	-	400	275	69%	
東北医科薬科	一般枠	100	100	100	100	段階評価	段階評価	-	400	非公表	非公表	
自治医科	一般	25	25	25	25	なし	○	25	125	非公表	非公表	2次試験英・数各12.5点
獨協医科	一般枠	100	100	100	100	段階評価	○	-	400	非公表	非公表	
埼玉医科	一般前期	100	100	100	100	段階評価	○	-	400	229	57%	1次合格最低点
国際医療福祉	一般	200	150	100	100	段階評価	段階評価	-	550	非公表	非公表	
杏林	一般	100	100	75	75	○	○	-	350	非公表	非公表	
慶應義塾	一般	150	150	100	100	○	○	-	500	319	64%	1次合格最低点
順天堂	一般A方式	200	100	100	100	○	○	-	500	338	68%	1次合格最低点
昭和	一般I期	100	100	100	100	20	100	-	520	240	60%	1次合格最低点（400点中）
帝京	一般	100	100	100	-	○	○	-	300	217	72%	英語＋数・理・国から2科目の300点
東京医科	一般	100	100	100	100	60	40	-	500	336	67%	
東京慈恵会医科	一般	100	100	100	100	25	30	25	480	-	49%	正規合格最低点
東京女子医科	一般	100	100	100	100	○	○	○	400	211	53%	適性試験／入学者最低点
東邦	一般枠	150	100	75	75	なし	○	○	400	284	71%	基礎学力試験／正規合格最低点
日本	N方式第1期	100	100	100	100	なし	30	120	550	347.06	63%	2次試験英・数各60点
日本医科	一般前期	300	300	200	200	○	○	-	1000	非公表	非公表	
北里	一般	150	150	100	100	○	○	-	500	312	62%	正規合格最低点
聖マリアンナ医科	一般前期	100	100	100	100	50	50	○	500	非公表	非公表	適性検査
東海	一般	100	100	100	-	○	○	-	300	非公表	非公表	理科1科目
金沢医科	一般前期	100	100	75	75	60	110	-	520	208	59%	面接110点には調査書等の評価を含む 1次合格最低点（350点中）

合格最低点

※備考に記載のない場合は、繰上合格者も含む総合格者の合格最低点

大学名	区分	英語	数学	理科①	理科②	小論文	面接	その他	合計	合格最低点	得点率	備考
愛知医科	一般	150	150	100	100	段階評価	段階評価	-	500	288	58%	
藤田医科	一般前期	200	200	100	100	なし	40	-	640	334	56%	1次合格最低点（600点中）
大阪医科薬科	一般前期	100	100	100	100	段階評価	段階評価	-	400	260	65%	正規合格最低点
関西医科	一般前期	100	100	100	100	なし	段階評価	-	400	269	67%	正規合格最低点
近畿	一般前期	100	100	100	100	段階評価	段階評価	-	400	250	63%	
兵庫医科	一般A	150	150	100	100	50	100	-	650	397	61%	正規合格最低点
川崎医科	一般	100	100	75	75	段階評価	100	-	450	223.5	64%	1次合格最低点（350点中）
久留米	一般前期	100	100	100	100	50	50	-	500	323	65%	正規合格最低点
産業医科	一般A	200	200	100	100	50	○	300	950	653	69%	共通テスト300点
福岡	一般	100	100	100	100	○	50	-	450	269	67%	1次合格最低点（400点中）

2. 私立医学部入試の現状

2025年度 私立大学医学部 一般選抜入試スケジュール

月	火	水	木	金	土	日
1/13	1/14	1/15	1/16	1/17	1/18	1/19
					共通テスト①	共通テスト②
1/20	1/21	1/22	1/23	1/24	1/25	1/26
共通テスト 自己採点	愛知医科	岩手医科 国際医療福祉	杏林 帝京①	帝京②	東北医科薬科 帝京③ 関西医科（前）	近畿（前） 川崎医科
1/27	1/28	1/29	1/30	1/31	2/1	2/2
自治医科（学） 獨協医科（前①）	自治医科（面） 獨協医科（前②）	兵庫医科	金沢医科（前①）	北里 金沢医科（前②）	東京女子医科 日本（N1） 日本医科（前） 久留米	東海① 福岡
2/3	2/4	2/5	2/6	2/7	2/8	2/9
順天堂 東海②	埼玉医科（前） 東邦 藤田医科（前）	東京医科	聖マリアンナ医科（前）	昭和（I）		慶應義塾 産業医科（B）
2/10	2/11	2/12	2/13	2/14	2/15	2/16
大阪医科薬科（前）	東京慈恵会医科					

2025年度 私立大学医学部 一般選抜入試スケジュール

月	火	水	木	金	土	日
2/17	2/18	2/19	2/20	2/21	2/22	2/23
					近畿（後）	東邦（統一）
2/24	2/25	2/26	2/27	2/28	3/1	3/2
	国公立前期	国公立前期	獨協医科（後）	日本医科（後）	埼玉医科（後） 昭和（Ⅱ） 関西医科（後）	
3/3	3/4	3/5	3/6	3/7	3/8	3/9
藤田医科（後）	日本（N2） 金沢医科（後）		聖マリアンナ医科（後）		久留米（後）	
3/10	3/11	3/12	3/13	3/14	3/15	3/16
大阪医科薬科（後）		国公立後期	国公立後期			
3/17	3/18	3/19	3/20	3/21	3/22	3/23

2025年度入試 私立大学医学部 難易度予想（一般前期）

偏差値	河合塾ボーダーライン（合格可能性50%）
72.5	慶應義塾大学
70.0	順天堂大学（A/B方式）／東京慈恵会医科大学／日本医科大学／関西医科大学
67.5	自治医科大学／昭和大学（I期）／東京医科大学／東邦大学 大阪医科大学／産業医科大学（B方式）
65.0	東北医科大学／国際医療福祉大学／杏林大学／帝京大学／東海大学 日本大学（N1期）／藤田医科大学／近畿大学
62.5	岩手医科大学／獨協医科大学／埼玉医科大学／北里大学／聖マリアンナ医科大学 金沢医科大学／愛知医科大学／兵庫医科大学（A/B）／久留米／福岡大学
60.0	東京女子医科大学／川崎医科大学

※河合塾予想ボーダーライン一覧（2024年11月）より抜粋

2025年度入試 配点（一般前期1次試験）

大学名	区分	英語	数学	理科①	理科②	配点パターン
岩手医科	一般枠	100	100	75	75	英数重視
東北医科薬科	一般枠	100	100	100	100	均等
自治医科	一般	25	25	25	25	均等
獨協医科	一般枠	100	100	100	100	均等
埼玉医科	一般前期	100	100	100	100	均等
国際医療福祉	一般	200	200	100	100	英数重視
杏林	一般	100	100	75	75	英数重視
慶應義塾	一般	150	150	100	100	英数重視
順天堂	一般A方式	200	100	100	100	英語重視
昭和	一般I期	100	100	100	100	均等
帝京	一般	100	100	100	-	均等
東京医科	一般	100	100	100	100	均等
東京慈恵会医科	一般	100	100	100	100	均等
東京女子医科	一般	100	100	100	100	均等
東邦	一般枠	150	100	75	75	英数重視
日本	N方式第1期	100	100	100	100	均等

2025年度入試 配点（一般前期1次試験）

大学名	区分	英語	数学	理科①	理科②	配点パターン
日本医科	一般前期	300	300	200	200	英数重視
北里	一般	150	150	100	100	英数重視
聖マリアンナ医科	一般前期	100	100	100	100	均等
東海	一般	100	100	100	-	均等
金沢医科	一般前期	100	100	75	75	英数重視
愛知医科	一般	150	150	100	100	英数重視
藤田医科	一般前期	200	200	100	100	英数重視
大阪医科薬科	一般前期	100	100	100	100	均等
関西医科	一般前期	150	150	100	100	英数重視
近畿	一般前期	100	100	100	100	均等
兵庫医科	一般A	150	150	100	100	英数重視
川崎医科	一般	100	100	75	75	英数重視
久留米	一般前期	100	100	100	100	均等
産業医科	一般	200	200	100	100	英数重視
福岡	一般	100	100	100	100	均等

後期試験

大学名	出願期間	1次試験	2次試験	募集人員	2024年度 合格者数
獨協医科	1/16-2/14	2月27日	3月10日	15	20
埼玉医科	2/3-2/18	3月1日	3月9日	20	23
昭和	2/3-2/20	3月1日	3月8日	18	23
日本	1/6-2/25	3月4日	3月17日	15	21
日本医科	2/1-2/20	2月28日	3月9日	33	非公表
聖マリアンナ医科	2/17-2/27	3月6日	3月14日	10	非公表
金沢医科	1/14-2/17	3月4日	3月12日	10	13
藤田医科	1/21-2/25	3月3日	3月14日	10	12
大阪医科薬科	12/11-2/28	3月10日	3月18日	15	17
関西医科	2/1-2/15	3月1日	3月11日	5	6
近畿	2/1-2/13	2月22日	3月8日	5	7
久留米	2/6-2/25	3月8日	3月16日	5	5

共通テスト利用

小：小論文／面：面接／適：適性検査／書：提出書類／総：総合問題／口：口頭試問

大学名	区分	募集人員	共テ	2次
東北医科薬科	共テ利用	5	4-6	面
埼玉医科	共テ利用	10	4-6	小、面
国際医療福祉	共テ利用	15	5-7	英、小、面
杏林	共テ利用	15	3-5	小、面
順天堂	独自併用	12		英、理、理、小、面
	共テ利用前期	10	5-7	小、面
	共テ利用後期	5		英、小、面
帝京	共テ利用（3科目方式）	8	2/3-3	英、小、面
	共テ利用（5科目方式）		3/4-5	
東京医科	共テ利用	9	5-7	小、面
日本医科	グローバル特別選抜	10	1-1	英、数、理、理、小、面
聖マリアンナ医科	共テ利用	5	4-6	適、小、面
東海	神奈川県・静岡県地域枠	8	3-5	小、面
	共テ利用	10		
愛知医科	共テ利用	15	4-6	面
	愛知県地域特別枠	5	4-6	

共通テスト利用

小：小論文／面：面接／適：適性検査／書：提出書類／総：総合問題／口：口頭試問

大学名	区分	募集人員	共テ	2次
藤田医科	共テ利用	10	5-7	書、面
大阪医科薬科	共テ利用	10	4-6	小、面
関西医科	共テ利用前期	12	5-7	面
	併用	13		英、数、理、理、面
	共テ利用後期	5	3-5	面
近畿	共テ利用前期	5	3-5	小、面
	共テ利用中期	3	3-4	小、面
	共テ利用後期	2	2/3-3	小、面
産業医科	A方式	60	5-7	英、数、理、理、小、面
	C方式	5		小、面
福岡	共テ利用	10	4-6	書、面

2025年度入試変更点（一般選抜）

大学名	区分	項目	2025年度	2024年度	変更点
東北医科薬科	一般	募集人員	一般枠 40名, 修学資金枠 35名	一般枠 40名, 修学資金枠 55名	募集人員の変更(総合型選抜の新規実施に伴うもの)
獨協医科	一般(後期)	1次会場	東京会場(五反田T0Cビル)	栃木会場(ライトキューブ宇都宮)	1次試験会場の変更
国際医療福祉	一般	1次配点	600点(英語200点, 数学200点, 理科200点(各100点×2))	550点(英語200点, 数学150点, 理科200点(各100点×2))	1次配点の変更(数学: 150点→200点に)
杏林	一般 (群馬県地域枠)	選抜方式	新規実施 ◆群馬県地域枠〔専願〕 【募集人員】未定 【現浪】制限なし 【居住条件】なし 【出願要件】 ・医師国家試験合格後, 群馬県が指定する医療機関等に10年間勤務する意志のある者。	—	群馬県地域枠の新規実施
慶應義塾	一般	1次日程 2次日程	1次: 2025/2/9(日) 2次: 2025/3/1(金)	1次: 2024/2/19(月) 2次: 2024/3/1(金)	試験日程の変更(1次試験が2月中旬→2月上旬に)
昭和大学	—	校名変更	昭和医科大学(Showa Medical University)	昭和大学(Showa University)	校名の変更
	一般(Ⅰ期)	1次会場	東京会場(五反田T0Cビル), 本学(旗の台キャンパス)	横浜会場, 大阪会場, 福岡会場	地方試験会場の廃止
帝京	共通テスト利用	選抜方式	3科目方式(高得点3科目の合計で合否を判定)への出願が必須。追加で5科目方式(高得点5科目の合計で合否を判定)への出願が可能。5科目方式のみの出願は不可。	3科目方式(高得点3科目の合計で合否を判定)	選抜方式に5科目方式を追加
		1次科目 1次配点	「英語R + L」 英語R: 英語L = 1: 1	「英語Rのみ」または「英語R + L」 英語R: 英語L = 4: 1	英語(リスニング)の利用方法変更, 配点比変更

2025年度入試変更点（一般選抜）

大学名	区分	項目	2025年度	2024年度	変更点
東京医科	一般 共通テスト利用 学校推薦型 特別	募集人員	一般70名、共通テスト利用9名 学校推薦型：一般公募20名以内、全国ブロック別6名以内、 英語検定試験利用3名以内 ※地域枠は申請中 学士選抜：2名以内	一般74名、共通テスト利用10名以内 学校推薦型：一般公募20名以内、全国ブロック別6名以内	募集人員の変更
東京女子医科	一般	2次日程	いずれか1日を受験者が選択	いずれか1日を大学が指定	試験日程の指定方法の変更(大学が指定→受験者が選択)
東邦	特別	選抜方式	新規実施 ◆統一入試 【募集人員】3名以内 【現浪】制限なし 【出願要件】 ・英語資格検定試験でCEFRのB1以上のスコアをもつ者(出願 受付開始日から遡って2年以内に受験した試験結果) 【選抜方法】 1次：筆記試験〔英語、数学(Ⅰ・A・Ⅱ・B(数列)・Ⅲ・C(ベクトル、平面上の曲線と複素数平面))、理科(物理、化学、生物から2科目)〕 2次：筆記試験〔数学(Ⅰ・A・Ⅱ・B(数列)・Ⅲ・C(ベクトル、平面上の曲線と複素数平面))、理科(物理、化学、生物から2科目)〕、基礎学力〔論理的思考力・数理解析能力等〕、面接 【試験日／試験会場】 1次：2/23(日・祝)／ベルサール東京日本橋 2次：3/5(水)／大森キャンパス	—	特別選抜の新規実施
	一般	1次会場	パシフィコ横浜ノース	本学(大森キャンパス)、パシフィコ横浜ノース	1次試験会場の変更(本学会場の廃止)
日本	一般 学校推薦型 〔埼玉県地域枠〕	選抜方式	一般選抜3名、学校推薦型2名	一般選抜5名	一般選抜→一般選抜と学校推薦型選抜へ変更
	一般 〔N全学統一方式第1期〕	募集人員	80名	90名	募集人員の変更

2025年度入試変更点（一般選抜）

大学名	区分	項目	2025年度	2024年度	変更点
聖マリアンナ医科	共通テスト利用	選抜方式	新規実施 ◆大学入学共通テスト利用選抜 【募集人員】約5名 【選抜方法】 1次：大学入学共通テスト ・国語：「国語(近代以降の文章)」110点 ・外国語：「英語(リーディング)」100点, 「英語(リスニング)」100点 ・数学：「数学Ⅰ, 数学A」100点, 「数学Ⅱ, 数学B, 数学C」100点 ・理科：「物理」「化学」「生物」「地学」から2科目選択(各100点×2) ※既卒生は「旧数学Ⅰ・数学A」「旧数学Ⅱ・数学B」の選択可 2次：適性検査, 小論文, 面接	—	大学入学共通テスト利用選抜の新規実施
東海	一般	1次会場	福岡(パピヨン24)	福岡(福岡県中小企業振興センター)	1次試験会場の変更
金沢医科	一般前期	1次会場	名古屋(TKPガーデンシティPREMIUM名古屋駅前)	名古屋(TKPガーデンシティPREMIUM名古屋新幹線口)	1次試験会場の変更
愛知医科	一般 共通テスト利用	募集人員	一般 約70名 共通テスト利用15名	一般 約65名 共通テスト利用(前期)約15名, (後期)約5名	募集人員の変更
	共通テスト利用	選抜方式	—	共通テスト利用(後期)	共通テスト利用(後期)の廃止
	一般	1次会場	東京(ベルサール高田馬場)	東京(東京流通センター)	1次試験会場の変更

2025年度入試変更点（一般選抜）

大学名	区分	項目	2025年度	2024年度	変更点
藤田医科	一般前期 共通テスト利用	募集人員	一般(前期)85名(一般枠80名, 愛知県地域枠5名) 共通テスト利用10名	一般(前期)83名(一般枠78名, 愛知県地域枠5名) 共通テスト利用(前期)10名, (後期)5名	募集人員の変更
	共通テスト利用	試験科目	英語, 数学2科目, 国語, 理科2科目, 情報	英語, 数学2科目, 国語, 理科2科目	試験科目の変更(情報の追加)
		選抜方式	－	共通テスト利用(後期)	共通テスト利用(後期)の廃止
大阪医科薬科	一般 学校推薦型 〔指定校制〕	募集人員	一般66名, 学校推薦型(指定校制推薦入試)4名	一般68名, 学校推薦型(指定校制推薦入試)2名	募集人員の変更
関西医科	学校推薦型 特別 一般 共通テスト利用	募集人員	学校推薦型18名(特別枠10名, 一般枠8名), 特色5名 一般(前期)55名, 共通テスト(前期)12名, 共通テスト・一般併用13名, 一般(後期)5名, 共通テスト(後期)2名	学校推薦型20名(特別枠10名, 一般枠10名), 特色7名 一般(前期)53名, 共通テスト(前期)12名, 共通テスト・一般併用13名, 一般(後期) & 共通テスト(後期)を合わせて5名	募集人員の変更
	一般前期	1次配点	500点 (英語150点, 数学150点, 理科200点(各100点))	400点 (英語100点, 数学100点, 理科200点(各100点))	1次配点の変更 (英語: 100点→150点に, 数学: 100点→150点に)
		地域枠	一般(前期)〔専願〕で実施	学校推薦型で実施	地域枠の実施区分の変更(学校推薦型→一般(前期)に)
	一般前期 共通テスト・一般併用	1次会場	東京(ベルサール汐留)	東京(ベルサール新宿グランドコンファレンスセンター)	1次試験会場の変更

2025年度入試変更点（一般選抜）

大学名	区分	項目	2025年度	2024年度	変更点
近畿	—	その他	新キャンパス(大阪府堺市／泉北高速鉄道泉ヶ丘駅前) ※2025年11月予定	大阪狭山キャンパス(大阪府大阪狭山市)	キャンパスの移転
	地域枠	選抜方式 募集人員	大阪府地域枠2名, 和歌山県地域枠1名, 静岡県地域枠10名	大阪府地域枠3名, 奈良県地域枠2名, 和歌山県地域枠2名, 静岡県地域枠10名	奈良県地域枠の廃止 大阪府地域枠および和歌山県地域枠の募集人員変更(各1名減)
	一般前期	1次会場	東京(TKP市ヶ谷カンファレンスセンター), 名古屋(名古屋コ ンベンションセンター), 広島(広島県JAビル)	東京(大手町プレイスカンファレンスセンター), 名古屋(TKP 名古屋駅前カンファレンスセンター), 広島(TKP広島本通駅 前カンファレンスセンター)	1次試験会場の変更
	一般後期	1次会場	東京(TKP東京駅大手町カンファレンスセンター)	東京(TKPガーデンシティPREMIUM田町)	1次試験会場の変更
兵庫医科	一般 A	募集人員	一般選抜 A 約68名(一般枠 約65名, 兵庫県推薦入学制度枠3名)	一般選抜 A 約70名(一般枠 約67名, 兵庫県推薦入学制度枠3名)	募集人員の変更
	一般 B	1次配点	200点(数学100点, 理科(1科目)100点)	250点(数学150点, 理科(1科目)100点)	1次配点の変更(数学: 150点→100点に)
	一般 A 一般 B	1次会場	神戸会場(神戸国際展示場)	大阪会場(ATCホール)	1次試験会場の変更
		2次配点	面接・調査書80点	一般 A : 面接・調査書100点 一般 B : 面接40点, 調査書40点	1次配点の変更(面接と調査書の合計で80点に)
川崎医科	地域枠 〔長崎県地域枠〕	募集人員	4名	6名	募集人員の変更
福岡	一般(系統別日程) 共通テスト利用(Ⅰ期)	募集人員	一般(系統別日程)60名, 共通テスト利用(Ⅰ期)10名	一般(系統別日程)65名, 共通テスト利用(Ⅰ期)5名	募集人員の変更

3. 私立医学部入試分析と対策

出題傾向分類【英語】

【1】問題の難度によるグループ分け

※一般選抜前期日程の出題傾向

問題の難度：易

埼玉医科 日本 川崎医科 福岡

問題の難度：標準

東北医科薬科 岩手医科 東京医科 聖マリアンナ医科 東海

問題の難度：難

自治医科 国際医療福祉 慶應義塾 順天堂 東京慈恵会医科 日本医科

大学の偏差値に比して、問題が難しい

岩手医科 国際医療福祉 金沢医科 愛知医科 近畿

大学の偏差値に比して、問題が易しい

東北医科薬科 東京医科 日本 大阪医科薬科 関西医科

【2】問題形式・出題分野によるグループ分け

解答時間に対して問題量が多い

岩手医科 獨協医科 自治医科 国際医療福祉 慶應義塾 順天堂 東邦 北里 金沢医科

解答時間に対して問題量が少ない

杏林 兵庫医科 川崎医科 福岡

記述量が多い

慶應義塾 日本医科 聖マリアンナ医科 藤田医科 大阪医科薬科 関西医科 兵庫医科 産業医科

文法語法の出題比率が高い

東北医科薬科 杏林 日本 愛知医科 川崎医科 福岡

文法語法の出題比率が低い

自治医科 順天堂 東京慈恵会医科 金沢医科 関西医科 産業医科

医療系長文の出題比率が高い

東北医科薬科 岩手医科 国際医療福祉 東京慈恵会医科 兵庫医科

英作文が出題される

慶應義塾 順天堂 東京慈恵会医科 東京女子医科 日本医科 東海 藤田医科 大阪医科薬科 関西医科 兵庫医科 久留米 産業医科

出題傾向分類【数学】

【1】問題の難度によるグループ分け

※一般選抜前期日程の出題傾向

問題の難度：易

埼玉医科 帝京 東京医科 東邦 日本 金沢医科

問題の難度：難

慶應義塾 順天堂 東京慈恵会医科 日本医科 大阪医科薬科 関西医科

大学の偏差値に比して、問題が難しい

岩手医科 杏林 東京女子医科 近畿 川崎医科

大学の偏差値に比して、問題が易しい

自治医科 昭和 東京医科 東邦

【2】問題形式・出題分野によるグループ分け

解答時間に対して問題量が多い

自治医科 埼玉医科 国際医療福祉 杏林 慶應義塾 順天堂 東京医科 東京慈恵医科 日本 日本医科 関西医科 久留米 産業医科

解答時間に対して問題量が少ない

福岡

「場合の数・確率」を出題する

岩手医科 東北医科薬科 自治医科 獨協医科 埼玉医科 国際医療福祉 順天堂 昭和 東京医科 東京慈恵会医科 東邦 日本 東海 金沢医科 愛知医科 藤田医科 兵庫医科 川崎医科 久留米 産業医科 福岡

「データの分析」を出題する

聖マリアンナ医科 東海 愛知医科 関西医科 兵庫医科 福岡

『整数問題』を出題する

岩手医科 自治医科 埼玉医科 東京医科 東京慈恵会医科 東邦 北里 聖マリアンナ医科 東海 愛知医科 藤田医科 関西医科 久留米 産業医科 福岡

数学Ⅲ(新課程)が半分以上を占める

獨協医科 杏林 慶應義塾 順天堂 日本医科 愛知医科 大阪医科薬科 関西医科 兵庫医科

証明問題を出題する

順天堂 東京慈恵会医科 北里

出題傾向分類【化学】

【1】問題の難度によるグループ分け

※一般選抜前期日程の出題傾向

問題の難度：易

岩手医科 杏林 日本 北里 金沢医科 産業医科

問題の難度：標準

東北医科薬科 自治医科 獨協医科 埼玉医科 国際医療福祉 昭和 東京女子医科
東邦 聖マリアンナ医科 東海 愛知医科 藤田医科 大阪医科 兵庫医科 川崎医
科 久留米 福岡

問題の難度：難

慶應義塾 順天堂 帝京 東京医科 東京慈恵会医科 日本医科 関西医科 近畿

大学の偏差値に比して、問題が難しい

帝京 東京医科

大学の偏差値に比して、問題が易しい

自治医科 国際医療福祉 日本 大阪医科

【2】問題形式・出題分野によるグループ分け

記述形式で記述量が少ない

福岡

記述形式で記述量が標準的

昭和 聖マリアンナ医科 愛知医科 藤田医科 大阪医科薬科 関西医科 久留米
産業医科

記述形式で記述量が多い

慶應義塾 東京慈恵会医科 日本医科 近畿

マークシート形式

岩手医科 東北医科薬科 自治医科 獨協医科 埼玉医科 国際医療福祉 杏林 順
天堂(一部記述) 帝京(一部記述) 東京医科 東京女子医科(一部記述) 東邦 日本
北里 東海(一部記述) 金沢医科 川崎医科

解答時間に対して問題量が多い

岩手医科 東北医科薬科 自治医科 獨協医科 埼玉医科 国際医療福祉 慶應義
順天堂 帝京 東京医科 東京慈恵会医科 東京女子医科 日本医科 北里 東海
愛知医科 藤田医科 大阪医科薬科 近畿 兵庫医科 川崎医科

解答時間に対して問題量が少ない

聖マリアンナ医科

出題傾向分類【物理】

【1】問題の難度によるグループ分け

※一般選抜前期日程の出題傾向

問題の難度：易

東京女子医科 福岡

問題の難度：標準

岩手医科 東北医科薬科 自治医科 獨協医科 埼玉医科 杏林 順天堂 昭和 帝
京 東京医科 東邦 日本 日本医科 北里 聖マリアンナ医科 東海 金沢医科
愛知医科 藤田医科 大阪医科薬科 近畿 兵庫医科 川崎医科 久留米 産業医
科

問題の難度：難

国際医療福祉 慶應義塾 東京慈恵会医科 関西医科

大学の偏差値に比して、問題が難しい

近畿 川崎医科

大学の偏差値に比して、問題が易しい

自治医科 順天堂 東京医科 日本医科 久留米

【2】問題形式・出題分野によるグループ分け

解答時間に対して問題量が多い

東北医科薬科 自治医科 獨協医科 埼玉医科 国際医療福祉 杏林 慶應義塾 順
天堂 東京医科 東京慈恵会医科 東邦 日本 北里 愛知医科
関西医科 兵庫医科 産業医科

解答時間に対して問題量が少ない

なし

グラフの描画，描図，論述問題を出題する

慶應義塾（論述） 昭和（論述） 東京慈恵会医科（論述） 藤田医科（論述） 関
西医科（グラフ・論述） 兵庫医科（グラフ） 久留米（グラフ）

数値計算が頻出

自治医科 埼玉医科 杏林 慶應義塾 東京医科 東邦 日本 日本医科 聖マリア
ンナ医科 金沢医科 兵庫医科 久留米

小問集合を出題する

自治医科 獨協医科 国際医療福祉 杏林 慶應義塾 順天堂 北里 聖マリアンナ
医科 大阪医科薬科

問題集ではあまり見かけない目新しい設定の問題が頻出

慶應義塾 昭和 東京慈恵会医科 関西医科 近畿 産業医科

出題傾向分類【生物】

【1】問題の難度によるグループ分け

※一般選抜前期日程の出題傾向

問題の難度：易

金沢医科 川崎医科

問題の難度：標準

岩手医科 東北医科薬科 自治医科 獨協医科 埼玉医科 国際医療福祉 杏林 順天堂 昭和 帝京 東京女子医科 東邦 日本 聖マリアンナ医科 大阪医科薬科 関西医科 久留米 福岡

問題の難度：難

慶應義塾 東京医科 東京慈恵会医科 日本医科 北里 東海 愛知医科 藤田医科 近畿 兵庫医科 産業医科

大学の偏差値に比して、問題が難しい

北里 愛知医科 藤田医科 兵庫医科

大学の偏差値に比して、問題が易しい

順天堂 大阪医科薬科

【2】問題形式・出題分野によるグループ分け

解答時間に対して問題量が多い

岩手医科 東北医科薬科 自治医科 埼玉医科 慶應義塾 東京医科 東京慈恵会医科 東邦 北里 東海 愛知医科 藤田医科 兵庫医科 産業医科 福岡

解答時間に対して問題量が少ない

川崎医科

論述問題が頻出

慶應義塾 順天堂 昭和 帝京 東京慈恵会医科 聖マリアンナ医科 東海 愛知医科 藤田医科 大阪医科薬科 近畿 兵庫医科 久留米 産業医科

描図問題が頻出

昭和 聖マリアンナ医科 愛知医科 藤田医科 大阪医科薬科

計算問題が頻出

岩手医科 獨協医科 埼玉医科 国際医療福祉 杏林 昭和 帝京 東京医科 東京慈恵会医科 東邦 日本 北里 聖マリアンナ医科 東海 金沢医科 藤田医科 関西医科 兵庫医科 久留米 福岡

正誤問題が頻出

岩手医科 自治医科 国際医療福祉 杏林 帝京 東京医科 日本 北里 金沢医科 関西医科 兵庫医科 川崎医科

小問集合のみ出題

自治医科

教科書にない新しい内容の問題が出題されやすい

慶應義塾 藤田医科 産業医科

出題傾向分類【小論文】

【1】種類によるグループ分け ※一般選抜前期日程の出題傾向

課題文型

獨協医科 慶應義塾 東京医科 東京慈恵会医科 北里 東海 金沢医科 愛知医科 兵庫医科 川崎医科 産業医科 福岡

テーマ型

国際医療福祉 杏林 昭和 帝京 東京女子医科 大阪医科薬科 近畿 久留米

図表・グラフ読み取り型

東北医科薬科 昭和 聖マリアンナ医科 金沢医科 兵庫医科

特殊型

埼玉医科（和文と英文） 順天堂（絵や写真） 日本医科

なし

岩手医科 自治医科 東邦 日本 藤田医科 関西医科

【2】試験時間・字数などによるグループ分け

試験時間 60分未満

帝京（30分） 東海（45分） 大阪医科薬科（30分） 近畿（40分） 川崎医科（50分） 福岡（50分）

試験時間 70分以上

順天堂A方式（70分） 東京慈恵会医科（90分） 北里（90分） 産業医科（120分）

字数 ～600字

東北医科薬科（600字） 獨協医科（600字） 埼玉医科（300～500字程度）
国際医療福祉（600字） 慶應義塾（600字） 昭和（600字） 帝京（300字）
東京医科（600字） 日本医科（600字） 東海（500字） 金沢医科（400字）
愛知医科（600字） 大阪医科薬科（400字） 近畿（400字） 福岡（700字）

字数 600字～

杏林（800字） 順天堂A方式（800字） 東京慈恵会医科（1800字） 東京女子医科（800字） 北里（1000字程度） 聖マリアンナ医科（1000字） 兵庫医科（700字程度） 川崎医科（800字） 久留米（800字） 産業医科（1000字程度）

1次試験時に実施

埼玉医科 国際医療福祉 順天堂A方式 東京女子医科 大阪医科薬科 兵庫医科 川崎医科 福岡

出題傾向分類【面接】

※一般選抜前期日程の出題傾向

個人面接

岩手医科（15分） 東北医科薬科（15分） 自治医科（1次：30分／2次：20分） 獨協医科（10分） 埼玉医科（10～15分） 杏林（10～20分） 順天堂（20～30分） 昭和（10分） 帝京（10分） 東京医科（10分） 東京女子医科（10分） 日本（10～20分） 日本医科（15分） 北里（10～20分） 聖マリアンナ医科（15～20分） 東海（15分） 愛知医科（10～20分） 大阪医科薬科（10分） 関西医科（10分） 近畿（10分） 兵庫医科（10分） 川崎医科（10分） 久留米（10分） 産業医科（15分）

グループ面接

福岡（30～40分）

グループ討論

自治医科（2次：20分） 東邦（15分） 日本医科（30分） 金沢医科（20分） 福岡（30～40分）

Multiple Mini Interview

国際医療福祉（25分×2回） 慶應義塾（10分×2回） 東京慈恵会医科（7分×6回） 東邦（3分×4回） 藤田医科（10分×2回+3分×2回）

シチュエーション設定型の質問

獨協医科 帝京 東京医科 東京慈恵会医科 東邦 藤田医科 近畿

岩手医科大学

2024年度
入試分析

英語

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	社会・医療系 約250語	「風邪の原因菌が繁殖する場所」についての長文問題 (空所補充)	選択	★★☆☆
2	発音	—	発音、アクセント	選択	★★☆☆
3	文法	—	空所補充	選択	★★☆☆
4	会話文	—	「個体数が減少しているコウモリ」についての会話文問 題(空所補充)	選択	★★☆☆
5	読解	—	不適文削除	選択	★★☆☆
6	英作文	—	語句整序	選択	★★☆☆
7	読解	人文・医療系 約800語	「古代エジプトの外科手術」についての長文問題(同意 表現・指示語指摘・内容一致)	選択	★★☆☆

23年度からの変化はない。標準的であるため解答しやすいが、60分で大問7題もあるので素早く効率よく解答する必要がある。大問7の読解問題が10題あり配点比率が高いため、20分程度は時間を残しておきたい。鍵を握るのは大問5の不適文削除で、類題が出題される久留米大やセンター試験の過去

問で対策する。文法・語法・発音対策としては、オールインワン系の問題集を1冊完成する。大問7の読解対策としては、マーク式の読解問題集を演習する。空所補充中心の読解対策は、兵庫医科大学や愛知医科大学の過去問を利用するとよい。時間内に解答するため、過去問で時間配分の練習が必須だ。

数学

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 やや難化

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	数学と人間の活動、対数関数	A、Ⅱ 関数の最大値、整数解をもつ条件、実数解の最大	空所補充	★★☆☆
2	図形と方程式	Ⅱ 2円が外接する条件、共通内接線、共通外接線の交点、極線	空所補充	★★☆☆
3	確率	A 玉を取り出す確率	空所補充	★★☆☆

24年度は、珍しく数学Ⅲからの出題がなかった。例年、全体的に記述式で出題するのがふさわしいような問題で、難度の高いものや計算量の多いものも出題されている。国公立大の記述式の問題で練習しておいた方がよい。短時間

で効率よく得点するためには、典型的な解法が瞬時に浮かぶことと正確かつ迅速な計算力が必要だ。日頃から面倒がらずにきちんと計算することも重要。また、試験時間が英語と併せて120分のため、時間の使い方にも注意したい。

化学

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★☆☆☆ 易

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	理論	元素と単体、同位体、族と周期、定数・数値の温度依存性、気体密度、金属結晶格子、物質質量、還元剤	選択	★★☆☆
2	無機	水、炭素、窒素酸化物、塩酸、カルシウム塩、アルミニウム、金、気体の発生	選択	★★☆☆
3	有機	名称と構造、炭化水素、異性体数、アセトン、糖類の構造、タンパク質	選択	★★☆☆

大問3題。特徴の正誤組み合わせは23年度より1題減少して11題だが、理論8問、無機8問、有機6問の構成とレベルは同程度。物質質量計算とグラフ選択が各1題で知識問題が多いので、計算が不得意な受験生にも向いている。基本事項

が多く、無機や有機では各物質の構造や性質を問われる。用語の定義や物質の性質をまとめておこう。合成高分子化合物は出題頻度が低いが、基礎知識は押さえておこう。正誤対策に一問一答問題集や過去問が効果的だ。

生物

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	体内環境の維持	生物基礎 血液の循環	選択	★★☆☆
2	生殖と発生	生物 様々な誘導	選択	★★☆☆
3	生物と遺伝子、生命現象と物質	生物基礎、生物 体細胞分裂、遺伝子の複製	選択	★★☆☆
4	生物の環境応答	生物 筋収縮	選択	★★☆☆
5	生命現象と物質	生物 遺伝情報の発現の調節	選択	★★☆☆

23年度と同様に大問5題構成のマーク式。23年度で減少していた考察問題の割合が上昇した。近年は考察問題の割合が高いので、十分に対策を講じておきたい。24年度では計算問題の割合が低下したが、23年度のように多く出題される年度もあるので注意しておこう。「動物の反応と行動」

「発生」「体内環境」「遺伝情報とその発現」の4分野は頻出なので、この分野をまずは仕上げていく。一方、「生物の多様性と生態系」「生態と環境」「生物の進化と分類」の分野の出題は極端に少ない。

物理

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学	剛体のつり合い、慣性力	選択	★★☆☆
2	熱力学	気球	選択	★★☆☆
3	電磁気	交流回路(RC直列、LC並列)、共振	選択	★★☆☆

大問3題構成で、設問数は例年25問程度。力学と電磁気が必要で、残り1題を波動、熱力学、原子のいずれかが占める。典型問題中心の出題だが、難度は若干高め。よって、標準～発展レベルの問題集、例えば「名問の森」や

「重要問題集」を用いて、頻出のテーマを数多く演習しておくとうい。また、受験生が手薄になりがちな原子からの出題も見られるため、しっかりと準備をしておくこと。

岩手医科大学

2025年度 入試への 対策

【英語】

問題の難易度は標準的だが、大問が7題もあるため時間内に効率よく解答できるかどうかが鍵。大問2から6までに、発音・文法・会話文・語句整序が各4～5題ずつ出題されるため、オールインワン系の問題集（ネクストステージやグラマスターなど）を1冊仕上げておくとうい。大問5の不適文削除については久留米大医学部やセンター試験に類題があるためこれを利用して練習しておく。大問1の長文中空所補充はまず、メディカルラボの読解チェックテストのベーシックBで基礎力を身に付け、本学の過去問だけでなく、兵庫医科や愛知医科の過去問を利用して実践力を養うとうい。大問7の読解問題は各段落の要約内容について問われているため、「英語長文出題パターン演習1・2・3」で練習し、川崎医科大学や東北医科薬科大学の過去問で練習を積む。時間内に解答することが難しいため、必ず過去問を解いて時間配分を考えておく。

【数学】

短時間で得点するためには『チャート』や『プラチカ』などの標準的な参考書や問題集を使って、定型的な問題の解法が瞬時に頭に浮かぶようになるまで繰り返し練習することが重要である。同時に迅速かつ正確な計算力も養っておくべきである。特に、確率では具体的な数え上げ、一見変わった数列の問題練習、面積体積の積分の練習に取り組んでおく。大問に対する思考力を養うには、国公立大学の2次試験などの記述形式の問題で演習するとよい。また、問題の取捨選択等の時間を意識した練習も必要である。

【化学】

マーク形式。大問3題（理論・無機・有機）となっている。計算問題は少なめで、特に無機・有機の知識問題が多い。ただ高分子の出題が少なく、合成高分子の出題がない年度もある。まず過去問で傾向を知っておこう。『チャート式化学基礎・化学』、『マーク式基礎問題集化学基礎・化学[理論・無機][有機]』、一問一答集などで基本事項の定着を進めよう。日本大学、東北医科薬科大学、獨協医科大学などの正誤問題なども有効である。

【物理】

過去の入試（2016年度以前）は、定期テストに毛が生えた程度の基本問題が中心であったが、ここ数年はちゃんと入試問題らしくなってきた。そのため、しっかりとした準備をして入試に臨まなければならなくなった。具体的には、「名問の森」などの標準～発展レベルの問題集をしっかりと解き込み、典型問題をスラスラと解けるまでに仕上げてもらいたい。また、過去問は難易度がバラバラであるので、ここ2～3年の過去問を用いて、最新の難易度を確認しておくこと。さらに、同レベル、同形式の入試問題（獨協医科大学など）を用いて、さまざまなテーマに触れておくのもいいだろう。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりとした基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、計算を含め典型的な問題を短時間で確実に解く力をつけること。その際、「動物の反応と行動」、「発生」、「体内環境」、「遺伝情報とその発現」の4分野は頻出なのでこの分野をまずは仕上げていくとうい。

東北医科
薬科大学2024年度
入試分析

英語

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆ 標準

前年との難易度比較 やや易化

時間に対する分量 適量

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	医療・科学系 約750語	「感染症と睡眠との関係性」についての長文問題(内容一致・同意語選択・文補充)	選択	★★★☆☆
2	読解	科学系 約650語	「体内に吸収されるマイクロプラスチックとその影響」についての長文問題(同意語選択・内容一致・文補充)	選択	★★★☆☆
3	文法	—	誤り指摘	選択	★★★☆☆
4	英作文	—	語句整序	選択	★★★☆☆

読解量は増加したが、設問が内容一致中心となり、設問内容も易くなった結果、難度に大きな変化はない。誤り指摘は入試レベルの文法・語法の知識があれば7割程度は正解できるはず。語句整序は23年度とは出題形式が変わり、和文に下線が引かれその箇所での作文となった。和文に合わせて並べ替えれば、特別な知識がなくて

も正解できるため易しかったと思われる。読解対策としては700語前後の医療・科学系の英文を精読し、内容一致中心の設問に取り組む。誤り指摘と語句整序対策としては文法・語法の基本を学んだ後に、入試標準レベルの問題集を演習すれば十分に対応できる。

数学

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	微分法	Ⅱ 3次関数の極値、変曲点、面積	空所補充	★★★☆☆
2	確率	A ランダムウォーク	空所補充	★★★☆☆
3	平面上の曲線	C 極方程式で表された楕円の長軸・短軸、焦点、直線との交点	空所補充	★★★☆☆

毎年、出題単元が大きく変わっており、24年度は数学Ⅲの積分法の出題がなく、数学Cの極方程式が出題された。また、23年度は数え上げによる確率が出題されており、24年度は丁寧に場合分けをする確率が出題された。効率よく数えるだけでなく、丁寧に数える練習にも取り組んでおきたい。過去の出題範囲にとらわれず、多くの大学の過去問で

頻出内容を学習しておくこと。例年、計算量が多い問題が出題されるので、典型問題の解法がすぐに頭に浮かぶようにしておくとともに、正確かつ迅速な計算を行えるよう練習しておくことが重要だ。基本的な解法を習得した後、同じ誘導形式の他大学の過去問で練習するとよい。

化学

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆ 標準

前年との難易度比較 やや難化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	理論、無機	酸化還元、各金属の性質、酸化数変化、酸化還元の反応式と滴定、COD	空所補充・選択	★★★☆☆
2	理論	リン酸の電離平衡とpH計算	空所補充・選択	★★★☆☆
3	有機	芳香族化合物の分離操作、反応性、異性体、反応量、反応の収率	空所補充・選択	★★★☆☆
4	有機	核酸とタンパク質の構造、ペプチドの反応性、質量計算	空所補充・選択	★★★☆☆

大問4題。理論2題(無機1問あり)、有機2題。設問数は1問増の26問。近年、出題がなかった電離平衡、核酸を含む天然高分子化合物の出題があり、やや難化した。正しい組み合わせを選ばせる選択問題も多かった。内容に

よっては、概算などでスピードを上げるとよい。普段から計算問題と正誤問題の演習量を増やすことが合格の近道である。従来の出題分野だけでなく、出題が少ない無機化学、油脂や糖類の出題に気をつけておこう。

生物

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆ 標準

前年との難易度比較 難化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	生命現象と物質	生物 遺伝情報の発現	選択	★★★☆☆
2	体内環境の維持	生物基礎 免疫	選択	★★★☆☆
3	体内環境の維持	生物基礎 胃酸の分泌調節	選択	★★★☆☆

22年度は大問4題構成だったが、23年度、24年度ともに21年度までと同様に大問3題構成でマーク式。これまでは大問1題が他の大問と比較して極端に難しいという構成だったが、24年度はどの大問もある程度解きにくい問題だった。最初に全体を見渡し、各大問の中で解きにく

い問題を避けて、比較的解きやすい大問から手をつけるようにする。遺伝子に関する問題は創立以来、23年度を除いて毎年出題されているので、しっかりとした対策をしておきたい。

物理

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学	浮きの単振動	選択	★★★☆☆
2	電磁気	RC回路、コンデンサー内への導体板の挿入	選択	★★★☆☆
3	熱力学	2つの容器を用いた気体の状態変化	選択	★★★☆☆

大問3題構成で、例年、力学と電磁気は必出、隔年で波動、熱力学が出題されている。大問3については、他の大問に比べて比較的難度が高くなっている。また、設問数が多いため、時間内にすべての問題に手をつけるのは非常に難しい。まずは大問1・2の標準レベルの典型問題から取

り組み、時間が余ったら大問3に取り組むといった戦略で臨むとよいだろう。過去問演習を通じて、大問1・2と大問3の難度の差を実感し、どのような順番で問題を解けば、効率よく合格点を獲得できるのかをシミュレーションしておこう。

東北医科薬科大学

2025年度 入試への 対策

【英語】

読解対策として内容一致問題の多い問題集「英語長文出題パターン演習1・2・3」を演習するとよい。本学の入試ではほぼすべての段落についての設問があるため、問われていない段落であっても要約を心掛ける。その他に共通テスト対策問題集の論説文を中心に演習してもよい。大問3対策として「英文法・語法良問500 誤文訂正編」で演習する。文構造の理解も正解に繋がるため、「英文熟考」や「解釈技術70」も演習しておきたい。大問4対策としてはまず「ネクストステージ」などの熟語をしっかりと覚え、「英文法・語法500 整序作文編」を演習するとよい。最後に本学の過去問で、読解問題の選択肢の吟味の仕方、大問3の誤り指摘の解き方を学び、充分慣れてから受験日を迎えて欲しい。慣れさえすれば確実に高得点が取れるため、過去問演習は欠かせない。

【数学】

『チャート』や『プラチカ』等の標準的な参考書や問題集を使って、定型的な問題の解法を確実に身に付けておく。特に、数学Ⅲの積分や確率は頻出であり重点的に取り組んでおきたいが、どの単元が出題されても対応できるようにしておく必要がある。同大学の過去問だけでなくマーク形式・誘導形式の同じ形式の他大学の過去問演習も効果的である。

【化学】

マーク形式。第1問は理論で小問集合が多い。計算問題、知識問題のバランスがよい。合成高分子の割合は高くない。やや難易度の高い問題が出題されることがあるが、『ベストフィット化学基礎・化学』『エクセル化学〔総合版〕』などを繰り返し解いて、典型問題の出題パターンをおさえよう。また化学図録の化学者名や業績、ややマイナーな元素の性質・用途にも関心を持つとよい。出題形式に近い本学薬学部や岩手医科大学、共通テストなども活用しておこう。

【物理】

大問1，2は比較的取り組みやすい問題で構成されており、この2つの出来で合否が決まるといっても過言ではない。大問1，2にしっかりと対応できる力をつけるためには、「名問の森」のような標準レベルの問題集を解き込むとよいだろう。また、問題数が非常に多いため、素早く、正確に計算する力も養っておきたい。

【生物】

まずはしっかりとした基礎知識と読解力・考察力の両方が必要である。『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりとした基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に解く力をつけること。その上で、『生物実験・考察問題入門』などを使って実験考察問題にも慣れておきたい。また、問題の雰囲気独特なので、過去問については5年分以上取り組むことが望ましい。その中で時間の使い方に慣れていくとよい。

自治医科大学

2024年度 入試分析

英語

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★ やや難 前年との難易度比較 ↑ やや難化 時間に対する分量 多い

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	医療系 約500語	「ダンサーのけがの防止」についての長文問題(同意表現 選択・内容一致・同意語選択・空所補充)	選択	★★★☆☆
2	読解	社会系 約500語	「野球と国家の威信の関連性」についての長文問題(空 所補充・内容一致・同意表現選択)	選択	★★★☆☆
3	読解	人文・社会系 約450語	「南東ヨーロッパでのオスマン帝国の歴史」についての長 文問題(空所補充・内容一致)	選択	★★★☆☆

大問3題はすべて読解。23年度に変更された空所補充で複数の箇所の組み合わせを選ぶ問いや、後続する文を選ぶ設問は残った。23年度と比較して内容に関する問題が減少し、空所補充が増えたため、さらに難化した印象。空所補充対

策としては、語彙力の向上が必須。抽象的な内容の英文は具体的な内容にするなど工夫して勉強する。23年度と24年度が新形式の問題であるため、この2年分の過去問を必ず演習し、正解の根拠を理解する必要がある。

数学

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★ 標準 前年との難易度比較 ↓ やや易化 時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	複素数と方程式	Ⅱ 整式の除法	空所補充	★★☆☆☆
2	対数関数	Ⅱ 不等式	空所補充	★★☆☆☆
3	数学と人間の活動	A 不定方程式	空所補充	★★☆☆☆
4	指数関数	Ⅱ 対称式	空所補充	★★☆☆☆
5	2次関数	I 折れ線の最小	空所補充	★★☆☆☆
6	複素数平面	C 円周上の点までの距離の最大・最小	空所補充	★★☆☆☆
7	三角関数	Ⅱ 2変数関数の最大・最小	空所補充	★★☆☆☆
8	図形の性質	A メネラウスの定理	空所補充	★★☆☆☆
9	空間ベクトル	C 内積の最小	空所補充	★★☆☆☆
10	確率	A 確率の最大	空所補充	★★☆☆☆
11	三角関数	Ⅱ 不等式	空所補充	★★☆☆☆
12	複素数と方程式	Ⅱ 2次方程式の解と係数の関係	空所補充	★★☆☆☆
13	微分法	Ⅲ 最大・最小	空所補充	★★☆☆☆
14	積分法	Ⅲ 面積	空所補充	★★☆☆☆
15、16、17	微分法	Ⅱ 球に内接する円柱の体積の最大	空所補充	★★☆☆☆
18、19、20	数列	B 分数型漸化式	空所補充	★★☆☆☆
21、22、23、24、25	微分法、積分法	Ⅱ 3次関数の変曲点、接線、面積	空所補充	★★☆☆☆

24年度は1～14は答えがすべて1桁の整数となるように作られた小問、15～17、18～20、21～25がそれぞれ大問扱いの形式だった。ほぼすべての範囲から出題されるが、コロナ禍以降は数学Ⅲからの出題数が激減している。例年、小問は基本的な問題が中心で、わずかな時間で解答できる

問題が多い。そのため、確実に解ける問題を解いていくなど、要領よく処理していく必要がある。教科書傍用問題集などで短時間に多くの問題を解く練習をするとよい。また、大問は有名テーマが出題されているので、標準的な問題集に取り組んでおくと効果的だろう。

化学

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★ 標準 前年との難易度比較 → 変化なし 時間に対する分量 多い

分野	内容	出題形式	難易度
小問 25問	理論、無機、有機 原子、原子量、平均分子量、気体の圧力、凝固点降下、液性、熱量、結合エネルギー、電気分解、電離平衡、硫黄化合物、質量パーセント濃度、イオン化傾向、炭化水素、油脂、芳香族化合物、多糖類、ペプチド、核酸、合成ゴム	選択	★★★☆☆

小問集合25問。私立大医学部では最短の解答時間(理科2科目で80分)。小問を数問まとめた出題が続いており、24年度は6セット(23年度は5セット)だった。正誤問題では該当する選択肢の数を問う形式や、正解の組み合わせを選

ぶ形式があり、高い解答精度が要求される。試験時間が短いため、普段から解答スピードを上げよう。例年、合成高分子化合物まで一通り出題されるので、過去問を活用して形式と内容の特徴をつかんでおこう。

生物

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★ 標準 前年との難易度比較 → 変化なし 時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問集合	生物基礎、 生物 免疫、原核生物、光合成、窒素同化、細胞間結合、遺伝情報の発現、DNAの複製、ショウジョウバエの形態形成、ショウジョウバエの遺伝、花芽形成、ミツバチの行動、脳、生態系での物質生産、共生、標識再捕法、マイマイの個体数の変化、系統関係	選択	★★★☆☆

23年度と同様に小問25問構成のマーク式。生物、生物基礎の全範囲から出題されている。19年度以降は数題の小問で構成される問題も出題されている。出題のされ方が少し変化したとはいえ、通常の小問集合の問題と大差はない。

問題自体の難度が高いものはそう多くないが、1教科あたり40分の時間で25問を解くのはかなり大変と言える。過去問で時間配分感覚をつかむ訓練しておく必要がある。

物理

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★ 標準 前年との難易度比較 ↑ やや難化 時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
小問集合	電磁気、 原子、波動、 熱力学、力学	電力量、コンデンサーへの誘電体の挿入、RLC 直列交流回路、電磁誘導、半減期、中性子とヘリウムの衝突、光電効果、波の屈折、弦の共鳴、回折格子、気体がした仕事、気球、熱と仕事、合力、円運動、万有引力、小球の斜面との衝突	選択	★★★★☆

例年、小問集合25問で構成されており、高校物理の全分野からの出題となっている。共通テスト以前のセンター試験レベルの基本～標準レベルの問題が中心だが、24年度は交流回路、気球など、受験生が手薄になりがちな内容が出題され、戸惑った学生もいただろう。しかし、他の医学部と比較すると難度は低めな

ので、他大学の対策をしている受験生であれば十分に対応可能。一方、試験時間に対して問題数が多いため、手際よく問題を解き進めないと、時間内に解き終わることが難しい。過去問やセンター試験の過去問を用いて、短時間で多くの問題を処理する力を養い、満点近い点数を獲得する練習を行っておこう。

自治医科大学

2025年度 入試への 対策

【英語】

語彙レベルが高いので、まず「ターゲット1900」で土台を作り、「鉄緑会英単語・熟語 鉄壁」で更に語彙力を高める。文法の知識が必要な問題は皆無であるが、「エバーグリーン」を利用して基本的な知識はつけておく。文構造の把握力と英文解釈力は読解の基本として必要であるため、「英文熟考 上・下（新版）」は必ず演習する。読解対策としては「やっておきたい英長文500」「1日30分の英長文」「英語長文出題パターン演習2」で読解の基礎を確立した後に、「大学入試 レベル別英語長文ソリューション最新テーマ編 ハイレベル・トップレベル」で実践力をつける。最後に時間を意識して過去問を2年分演習する。

【数学】

ほぼ全ての単元から出題されるため、全単元の基本事項を確実に覚えることが必須条件である。教科書レベル程度の問題が多いので、『4STEP』等の教科書傍用問題集で短時間に集中して多くの問題を処理する練習を重ねるとよいであろう。解ける問題から解いていくなど、かなり要領よく処理していかないと時間切れになる。計算に非常に時間がかかるものもあるので、問題の取捨選択も鍛えておきたい。東邦大学や藤田医科大学の小問集合に取り組むことも有効である。

【化学】

マーク形式。問題数が多く、スピードが要求されるが、基本～標準レベルが中心である。知識と計算、高分子を含めた各分野からバランスよく出題される。教科書・参考書で知識を習得し『エクセル化学〔総合版〕』などで典型問題をおさえよう。過去問から効果的な時間短縮法を探っておこう。分子量の算出や立式のパターンを工夫したり、有効なまとめ方を見い出しておくといよい。問題によって、概算による計算法も使える。一問一答集を繰り返すことも有効である。

【物理】

多くの基本問題を短時間で正答する力をつけなければならない。そのためには、本学過去問やセンター試験の過去問を用いた演習が効果的である。設問によっては若干難易度が高いもの、計算が重たいものも含まれるため、解きやすい問題から確実に得点し、その後飛ばした問題に戻ってくるといった戦略も重要となってくる。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集を最初から最後まで繰り返し演習して、しっかりとした基礎力を身につけよう。問題数が多く時間配分が難しいので、過去問を用いてしっかり時間を計って演習し、スピードアップのための十分な対策をとること。また、センター試験時代の生物基礎・生物の問題で知識、計算問題を中心に演習したり、川崎医科大学や金沢医科大学の小問集合の問題を用いて演習するのも良いであろう。

獨協医科大学

2024年度 入試分析

英語 (前期:1/21)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1A	読解	人文系 約650語	「19世紀アメリカの偉大な詩人ホイットマン」についての長文問題(空所補充・内容一致)	選択	★★★☆☆
1B	読解	科学系 約750語	「魚の自意識」についての長文問題(空所補充・同意表現・内容一致)	選択	★★★☆☆
2A	会話文	—	「デジカメの返品を求める客とオペレーター」の会話文(内容一致・空所補充)	選択	★★★☆☆
2B	読解	社会・科学系 約400語	「海洋生物にまで影響を及ぼしている光の公害」についての長文問題(空所補充)	選択	★★★☆☆
3	英作文	—	語句整序	選択	★★★☆☆
4	文法	—	空所補充	選択	★★★☆☆

分量・難度ともに23年度と同じ。大問1Aは例年通り、文学に関する内容。医療・科学系の英文に慣れている受験生には難しく感じるかもしれない。一方、大問1Bは読みやすかった。60分で大問6題は多いため、解答する順序を工夫する

必要がある。まず、大問3・4対策として標準的な文法と語句整序の問題集の演習から始める。次に、大問1A対策として文学に関する内容の700語程度の英文を読み慣れておく。最後に、過去問で制限時間内に解答できるように練習する。

数学 (前期:1/21)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↑ やや難化

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	確率	A サイコロの確率	空所補充	★★★☆☆
2	空間ベクトル	C 空間と平面の交点、四面体の体積の最大	空所補充	★★★☆☆
3	極限	Ⅲ 点列で定められる四角形の面積比の極限	空所補充	★★★☆☆
4	微分法の応用、 積分法の応用	Ⅲ 極値、変曲点、2曲線で囲まれる面積の最大	空所補充	★★★☆☆

幅広い分野から出題されており、複数の分野にまたがった融合問題も多い。過去には、マーク式ではあまり出題されない数学的帰納法や平均値の定理も出題されたことがある。標準的な問題ばかりで難問はないが、計算量が多い。誘導された問題が多

いので、出題者の意図を的確にとらえることが重要になる。計算量も多く、完答するには時間的に厳しい。標準的な問題集で基本的な解法を習得した上で、総合的な問題の練習をするとい

化学 (前期:1/21)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問10問 (全分野)	分離法、同位体と原子量、分子結晶、理想気体、中和滴定、電気分解、17族元素、鉄化合物の沈殿、芳香族化合物の異性体、洗浄剤	空所補充・選択	★★★☆☆
2	理論	浸透圧(U字管)、平均分子量	空所補充・選択	★★★☆☆
3	無機	硫酸化合物、同素体、排ガスの処理方法(カルシウム塩)、硫酸の工業的製法空所補充・選択	空所補充・選択	★★★☆☆
4	有機	ジエステルの構造決定、異性体数	選択	★★★☆☆
5	有機	糖類(β-グルコサミン、キチン、キトサンなど)の構造と反応性	選択	★★★★☆

大問5題、2科目で120分。前期2日程は4日目、後期は1日目。大問5の糖類は23年度同様だが、見慣れないβ-グルコース誘導体だった(前期2日目ではペプチド、後期では陽イオン交換樹脂が出題)。どの日程も大問1が小問

集合10問で、他の大問も含めて知識と計算のバランスがよい内容だった。例年、出題量が多く迅速な解答力が必要となる。24年度から新設された後期は、前期と同形式だったので、全日程の過去問を把握して準備しておこう。

生物 (前期:1/21)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↑ 難化

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	生命現象と物質	生物 呼吸、発酵	選択	★★★★☆
2	生命現象と物質	生物 遺伝情報の発現	選択	★★★★☆
3	生物の環境応答	生物 植物の環境応答	選択	★★★☆☆
4	生態と環境	生物 個体群と生物多様性	選択	★★★☆☆
5	生物の進化と系統	生物 生物の進化、遺伝子頻度	選択	★★★☆☆

23年度と同様に大問5題構成のマーク式。23年度に減少した計算問題の割合が再び増加した。23年度と同様に考察問題の割合は少なめだった。21年度より2科目100分から120分が増えたが、しっかりと考える必要がある考察問題や計算問題も含ま

れる場合があるので、解答時間が十分とは言えない。過去問を演習するときには、時間配分を十分に考慮しながら演習していくとよい。遺伝子の分野、中でも「遺伝情報の発現」の内容は高頻度で出題されているので、十分な対策が求められる。

物理 (前期:1/21)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問集合	放物運動、RL回路、水面波の干渉、X線の発生	選択	★★★☆☆
2	波動	斜めのドップラー効果(血流測定)	選択	★★★☆☆
3	電磁気	コンデンサーへの導体板の挿入	選択	★★★☆☆
4	熱力学	液体中に沈められたシリンダー内の気体の状態変化	選択	★★★☆☆
5	力学	ばねに接続された2物体の運動、単振動	選択	★★★★☆

大問5題構成で、1題は小問集合。小問集合も含めると、高校物理の全分野から出題される。問題の難度は標準レベルのものが大半だが、24年度の大問5の単振動のように、やや難度が

高い問題が出題されることもある。試験時間に対する問題数が多いので、難度が高い問題は後に回し、まずは標準レベルの典型問題から確実に正答していくことを心がけよう。

獨協医科大学

2025年度 入試への 対策

【英語】

まず「ネクストステージ」や「英文法ファイナル標準編」を用いて、文法の知識を定着させる。語句整序は「英文法・語法500 整序作文編」を演習するとよい。大問2Bの空所補充対策としてはメディカルラボのチェックテストベーシックBやスタンダードBを利用するとよい。大問1の長文ではここ2年人文系が頻出であるため、「やっておきたい英長文500・700」や「英語長文出題パターン演習2・3」の人文社会系の問題を中心に演習するとよい。本学の特徴として問題量の多さが上げられるため、過去問を利用して時間内に解答する練習が欠かせない。その際大問1からではなく、短時間でできる大問3・4から解答し、大問1の人文系の英文を最後に取り組むことを勧める。というのも医学部受験生には馴染みのない内容が多く、思ったより時間がかかることがあるからだ。

【数学】

『チャート』や『チョイス』などの標準的な参考書や問題集を使って定型的な問題の解法を習得した上で、ややハイレベルな問題集で総合的な問題の練習に取り組むとよい。試験時間に対して分量が多いので、素早く題意をとらえられる力と迅速かつ正確な計算力が必要である。また、問題の取舍選択することも必要である。誘導形式に慣れるために、東北医科薬科大学、杏林大学、川崎医科大学などの過去問に取り組むのも有効である。

【化学】

マーク形式。第1問は小問集合（全分野）。実験操作が多い中和滴定（二段階滴定、pH計算など）、酸化還元滴定（COD、ヨウ素滴定など）、気体・溶液の計算、新素材などに注意しておこう。近年、解きやすい問題が多くなってきたが、合格するには点差がつく発展的な内容の理解を増やすことが大切である。24年度から始まった後期日程も前期と同形式なので、できれば前期2日と併せて、この後期の出題も把握しておこう。マーク形式。第1問は小問集合（全分野）。実験操作が多い中和滴定（二段階滴定、pH計算など）、酸化還元滴定（COD、ヨウ素滴定など）、気体・溶液の計算、新素材などに注意しておこう。近年、解きやすい。

【物理】

やみくもに難しい問題集に手を出すのではなく、典型問題が多く掲載されている問題集、例えば「名問の森」を繰り返し解き、解答を導き出す過程を自力で追えるまでに仕上げておきたい。その上で、本学過去問を用いて、典型問題から正答を重ね、試験時間内に合格点を獲得する練習を積んでおくこと。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりとした基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、計算を含め典型的な問題を短時間で確実に解く力をつけること。問題量が多いため、用語の選択などの基本問題を瞬時に答えていかなければならない上に、応用問題でもゆっくりとリード文を読み直している時間はない。過去問を使って時間配分に慣れておくこと。また、「遺伝情報とその発現」の分野は高頻度で出題されているので、ここから仕上げておくこと。

埼玉医科大学

2024年度
入試分析

英語(前期)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 易化

時間に対する分量 適量

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	文法	—	空所補充・同意文完成	選択	★★☆☆
2	読解・ 会話文	人文・社会系 約500語 (会話文 約400語)	「学校はボランティアを強要するべきか」についての長文問題(内容一致・空所補充・同意表現・主題選択)	選択	★★☆☆
3	読解	医療・社会系 約650語	「医学や薬学の研究対象にされなかった女性」(空所補充・内容一致・内容説明・指示語指摘)	選択	★★☆☆
4	読解	社会系 約950語	「デジタル健忘症とその影響」(内容一致・空所補充・内容説明・語句整序)	選択	★★☆☆

23年度までの大問5題から大問4題に変更され、余裕を持って解答できるようになった。大問1の文法問題に同意文完成問題が追加されたが、3題のみで易しいため時間はかからない。文法・同意文完成ともに標準レベルで、全問正解も可能。

読解問題の設定は空所補充と内容一致中心の出題だが、内容説明もあるため、単なる情報の拾い読みだけではなく精読も意識するとよい。文法は基本問題集を演習し、長文は500～700語の読解問題集を利用して内容理解中心に演習する。

数学(前期)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★☆☆☆ 易

前年との難易度比較 やや易化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	微分法の応用	Ⅲ 最小、変曲点	空所補充	★★☆☆
	図形と方程式	Ⅱ 3円で囲まれる部分の面積	空所補充	★★☆☆
2	微分法	Ⅱ 法線、接線との共有点、直交条件	空所補充	★★☆☆
3	平面ベクトル	C 格子点	空所補充	★★☆☆
4	確率	A 2枚のセロハンの色に関する確率・条件付き確率	空所補充	★★☆☆

大問3はベクトルの出題だが、幾何的に解いた方が解きやすい。例年通り、大問4は確率の出題。例年は標準的な問題が多く難問はないが、50分で高得点を取るためにはかなり要領よく解くことが必要だ。大問1は基本レベルの小問

集合。毎年、大問4で出題される確率は重点的に学習しておくべきだ。数学Ⅲの微分法・積分法も頻出であるため、計算練習は十分にしておく必要がある。似た問題の出題もあるため、過去問の演習も多いに役立つだろう。

化学(前期)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	理論、無機	金属の性質、工業的製法、イオン化傾向、硫化水素の電離平衡、硫化物の溶解度積	空所補充・選択	★★☆☆
2	理論	鉄の結晶格子・ヘモグロビンと酸素の結合性、浸透圧	空所補充・選択	★★☆☆
3	有機	油脂の反応性、ヨウ素付加、けん化、分子式、セッケン	空所補充・選択	★★☆☆

大問3題。2科目で90分の形式になり4年目となった。例年同様、試験時間に対する問題量が多く、ヘモグロビンと鉄の計算問題に迅速に対応できないと、やや解きにくかっただろう。有機は油脂がメインだった。金沢医科大と同じ

試験時間だが、本学のほうが出題量が多い。大問数が3題で出題分野が限られるため、前期と併せて後期の過去問からもトピックやレベルを把握しておくとい。本番では解くべき問題を見逃さず、スピーディに解いていこう。

生物(前期)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	生物の環境応答	生物 神経繊維における活動電位の伝導	選択	★★☆☆
2	生命現象と物質	生物 DNAの複製	選択	★★☆☆
3	生物の環境応答	生物 植物の発芽、花芽形成	選択	★★☆☆
4	小問集合	生物 モータータンパク質、呼吸、カエルの発生、脳幹、地質時代	選択	★★☆☆

22年度、23年度は大問3題構成だったが、24年度は大問4題構成になった。小問集合が21年度以来、3年ぶりに復活した。小問集合は解きやすい問題が多いので、最初に処理しておくとい。考察問題の割合が高く時間的に厳しい

ので、手をつけやすいような問題から片付けていくことが重要。比較的多く出題される計算問題をどれだけ早く解けるかどうかで差がつくので、典型的な計算問題を解く練習は必ずやっておくこと。

物理(前期)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学	2物体の衝突、力積と運動量	選択	★★☆☆
2	熱力学	気体分子運動論、2乗平均速度、断熱変化(ボアソンの関係式)	選択	★★☆☆
3	電磁気	RC回路、電気振動	選択	★★☆☆

ここ数年、大問3題構成が続き、力学、電磁気から各1題、もう1題が波動か熱力学のどちらかが出題される。過去には原子からの出題もあった。標準的な問題が多くを占めるが、ここ数年、難度が高い問題が数問出題されている(例えば、24年度の大問3の電気振動など)。また、計算に時間がかかる場合が多く、試験時間内にすべての問題を

解き切ることは難しい。よって、実際に解答に入る前に、いったん問題全体に目を通し、解きやすい問題から丁寧に解答し、正答を積み上げていくことが肝心だ。難度が高い問題は後に回し、ケアレスミスに注意しながら、標準的な問題を確実に解き、合格点に到達できるように仕上げていくこと。

埼玉医科大学

2025年度 入試への 対策

【英語】

語彙はそれほど高度なものは問われておらず、設問数も多くないためターゲット1900を仕上げれば十分である。その際1～1,000までの単語はただ意味を覚えるだけではなく、派生語もしっかり覚えておきたい。大問1の空所補充は語彙や語法重視の他大学の傾向とは異なり、文法事項のみの出題であるので、純粋な文法問題集（エバーグリーンの基礎トレーニングなど）やオールインワン系の文法分野のみでも対応できる。今年度新たに加わった同意文作成はターゲット1900をしっかり覚えていけば十分である。読解はスキミングするだけではなく、精読も学習の際には心掛ける。長文が3題になったために、以前までのように速読を意識する必要がなくなり、内容説明に関する問題も増えているため内容を発展的に捉える力も必要になっているからだ。長文学習には500語～700語程度の読解問題集（1日30分の英長文・出題パターン演習2）を使用するとよい。特に出題パターン2は選択肢が多いので本学の対策に適している。余裕があればこのシリーズの3も演習しておくといよい。

【数学】

短時間で効率よく解かなければならないので、『チャート』や『チョイス』などの標準的な参考書や問題集を使って全範囲の定型問題の解法を瞬時に頭に浮かぶようにしておくことが大切である。特に、数学Ⅲの積分の計算と定型的な確率の問題は十分に練習しておくべきである。過去問研究も有効である。前期・後期ともに受験する人は、前期試験の復習にしっかり取り組んでおくこと。

【化学】

マーク形式。2科目90分で、計算・実験・グラフ問題が多く、スピード重視。ここ数年、合成高分子よりも天然高分子が扱われやすい。まれにやや解きにくい内容があり、前期・後期の問題で出題内容をチェックしておこう。共通テストと併せて、杏林大学、日本大学なども効果的である。『ベストフィット化学基礎・化学』や化学資料集で精度を上げておこう。無機は工夫して想起スピードを上げよう。有機は構造決定と天然高分子を中心に対策を進めておくといよい。

【物理】

問題の難易度としては、典型問題がほとんどである。また数問、思考力が要求される問題が出題されるが、試験時間内にこの手の問題を正答するのは難しい。よって、入試本番においては、確実に点数を獲得しなければならない問題と、時間がかかりそうな問題を見極めることが重要となる。確実に得点しなければならない問題とは、入試典型問題集（良問の風、名問の森など）掲載されている問題に類似している問題である。入試典型問題集は1冊だけでもいいので何周も繰り返し解き、典型問題の経験値をあげ、先に挙げた「見極め」ができるようにしておきたい。また、マーク形式であるので、過去問を通して数ある選択肢から正答を選ぶ作業にも慣れておきたい。

【生物】

まずは教科書の内容をしっかりと理解し、『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集などを使って全分野漏れのない知識を身につけることが重要である。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に解く力をつけること。考察問題が頻出なので、『生物【実験・考察問題】の特別講座』や『生物実験考察入門』などで基礎を固めるとよい。過去問演習では、小問集合がなくなった20年度以降の問題で全体的な時間配分などの練習をするとよい。

国際医療 福祉大学

2024年度
入試分析

英語

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆ やや難

前年との難易度比較 ↑ やや難化

時間に対する分量 多い

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	文法	—	空所補充	選択	★★☆☆
2	英作文	—	語句整序	選択	★★☆☆
3	読解	医療系 約750語	「伝統医療を見直す動き」についての長文問題(誤り指摘)	選択	★★☆☆
4	読解	医療・科学系 約900語	「クジラと違ってなぜ人間はがんにかかりやすいのか」についての長文問題(同意表現選択・空所補充・内容一致・主題選択)	選択	★★☆☆
5	読解	科学系 約700語	「酸素濃度の上昇と氷河期の関係性」についての長文問題(空所補充・同意表現選択・段落補充・内容一致)	選択	★★☆☆

23年度から問題形式、難度ともに変化なし。大問1・2の文法と語句整序は標準的な良問。大問3の誤り指摘は文法・語法の観点からだけではなく、文脈から判断するものもあるため難しい。2題ある読解は23年度と同様、1題は標準的だがもう1題は難しいため、標準

的な問題集だけでは十分ではない。設問の語彙レベルが高いので、一般的な単語帳だけでなく、英検やTOEICの単語集も覚えるとうい。語彙力が完成したら、700語程度の読解問題集の演習をする。問題量がやや多いため、過去問で時間の使い方を考えておくとよい。

数学

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆ 標準

前年との難易度比較 ↑ やや難化

時間に対する分量 多い

大問	分野		内容	出題形式	難易度
1	図形と計量	I	正弦定理、余弦定理	空所補充	★★☆☆
	場合の数	A	組み分け	空所補充	★★☆☆
	式と証明	II	恒等式	空所補充	★★☆☆
	数列	B	和と一般項	空所補充	★★☆☆
2	数と式	I	ガウス記号	空所補充	★★☆☆
3	空間ベクトル	C	共線条件、共面条件、四面体の体積比、点の存在領域	空所補充	★★☆☆
4	微分法の応用、 積分法の応用	III	極大、最大、面積、回転体の体積	空所補充	★★☆☆

大問1・3・4には参考書で見かけるような問題が並んだ。大問2はガウス記号と知ってはいいても解きづらかっただろう。例年、数学A・(場合の数・確率)、数学B(数列)、数学Ⅲ(微分法・積分法)、数学C(ベクトル、複素数平面)を中心に出題される。大問

は基本事項の問題から始まり後半は難しくなり、計算量も多めである。誘導に乗っていけば、典型解法で対応できるものばかりだが、解法は瞬時に出てくるようにしておき、計算時間を確保する必要がある。日頃から面倒がらずに計算に取り組んでおこう。

化学

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問8問 (全分野)	原子、触媒による反応速度、ケイ素、蒸気圧曲線、逆滴定、コロイド、化学平衡、アミノ酸の電離平衡	選択	★★☆☆
2	理論	電気陰性度の定義、ケテラーの三角形による化学結合の特徴	空所補充・選択	★★☆☆
3	無機	窒素に関する総合問題(単体、酸化物、水素化合物、オキソ酸)	空所補充・選択	★★☆☆
4	有機	芳香族化合物の元素分析と構造決定、アミド化合物の加水分解、異性体数、ジアゾ化	空所補充・選択	★★☆☆

大問4題。23年度と同様、大問1は小問8題。出題量が多く、スピードを要求される。大問2のマリケンとポーリングによる電気陰性度の定義では基礎知識があるとう利だが、設問を理解して解けば標準レベルだった。計算問題では各

桁の数字を答える形式があった。24年度も高分子化合物がなく、芳香族化合物までの出題だった。ただ、今後を見据えて高分子化合物の対策も進めておこう。標準～難関レベルの問題集に取り組み、幅広い解答力をつけておくこと。

生物

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野		内容	出題形式	難易度
1	生物と遺伝子、 生命現象と物質	生物基礎、 生物	細胞膜、細胞間の情報伝達	選択	★★☆☆
2	生殖と発生	生物	被子植物の生殖細胞形成、両生類の発生	選択	★★☆☆
3	生物の環境応答	生物	植物ホルモン、ヒトの受容器	選択	★★☆☆
4	生物の進化と系統、生態と環境	生物	地質時代、個体群	選択	★★☆☆

23年度と同様に大問4題構成のマーク式。22年度から計算問題は少なめで、考察問題がやや多めの傾向。創立以降、21年度までは年度によって出題内容や難易度がバラバラであったが、安定してきた感がある。知識問題は標準的

な内容の問題が多いので、早めに片づけて計算問題や考察問題に時間を使いたい。分野別では「生殖と発生」「生物の環境応答」「生態と環境」が3年連続で出題されているので、考察問題を含めて、この分野の演習を強化しておこう。

物理

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆ やや難

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問集合	剛体のつり合い、等電位線、弦の共鳴、熱量の保存、水素原子のスペクトル	選択	★★☆☆
2	力学	固定されたリング内と小球の繰り返し衝突	選択	★★☆☆
3	電磁気	磁場中における直線と円弧が組み合わさったレール上での導体棒の運動	選択	★★☆☆
4	波動	逃げ水の原理、光の屈折、全反射	選択	★★☆☆
5	熱力学	3つの部屋に仕切られた気体の状態変化	選択	★★☆☆

大問5題構成で、小問集合では原子を含む全範囲の出題、それ以外の4題は原子以外の各分野から1題ずつ出題されている。すべての問題がよく練られており、一見解きやすそうに見えても、大問の後半に進むにつれ思考力が試される設問が増えてくる。この手の問題は、問題文を丁寧に読み出題者の意図を的確にくみ取り、また作図などを利用し

て内容の整理を行うなど、分析力が必要となり、難度が高い。問題の難度が総じて高く、また、設問数も多いことから、要領よく解答しないとすべての問題に取り組むことができない。過去問演習の際には、解きやすい問題とそうでない問題の区別を事前に行い、解答時間を要しない問題から先に取りかかるなど、常に時間を意識すること。

国際医療福祉大学

2025年度 入試への 対策

【英語】

まずは語彙力の養成である。まずは「ターゲット1900」で土台を作り、次に「鉄緑会英単語・熟語 鉄壁」で更に語彙力を高めておくといよい。文法と語句整序は標準的であるため「ネクスト・ステージ」と「英文法ファイナル標準編・難関大編」で十分対応できる。その際意識することは「なぜそうなるのか」を考えて演習する。大問3では誤り指摘が出題されるので、「スーパー講義 英文法・語法 正誤問題」を利用して慣れる。ただし本学では文法・語法の運用の誤りを指摘するだけではなく、文脈上整合性が取れない箇所を指摘するものも出題されることを意識する。そして過去問演習で、どのように出題されるかを確認する。大問4・5の読解問題対策は「やっておきたい英長文700」「私立医大の英語 長文読解編」を利用して進める。その際には時間を意識して、頻出である内容一致、空所補充、同意語選択を中心に演習するとよい。大問3だけではなく読解問題でも段落補充など本学特有の出題形式があるため、過去問で慣れておくことが必須である。

【数学】

まず、『チャート』などの標準的な参考書を使って、定型的な問題は確実に解けるようにしておく。時間が厳しいので、やることを決めたら正確に素早く処理していく練習を重ねておきたい。特に数Ⅲの微積分の計算はスムーズにできるまで練習しておくべきであろう。マーク形式・誘導形式の同形式である東北医科薬科大学、杏林大学、川崎医科大学の過去問に取り組むのも有効である。

【化学】

マーク形式。第1問が小問集合（全分野）。高分子は23年度を除き、天然高分子のほうが出やすい。『エクセル化学〔総合版〕』などで計算力をつけておく。正誤問題対策として、参考書や化学資料集で知識を身につけておこう。有機化学は、見慣れない化合物が題材となる可能性がある。ただし、標準レベルの出題が多いため、焦らず対応していくといよい。本学の過去問を解きつつ、東京医科大学、杏林大学、東邦大学などの過去問に取り組んでおくといよい。

【物理】

作題者の意図を的確に読み取り、問題を解き進めなければならない。これを対策するには、問題集を用いるのではなく、実際の入試問題に取り組むしかない。本学過去問はもちろんのこと、国公立の旧帝以上の大学（阪大、東北大、名大など）の過去問を用いて、分析力、思考力を養っていただきたい。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりとした基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を短時間で確実に解く力をつけること。考察問題が苦手なら『生物〔実験・考察問題〕の特別講座』や『生物実験考察入門』、計算問題が苦手なら『ゼロからはじめる計算問題の解き方』や『大森徹の生物計算・グラフ問題の解法』を使って苦手を克服するとよい。

杏林大学

2024年度
入試分析

英語

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★ 標準

前年との難易度比較 ↑ やや難化

時間に対する分量 少ない

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	文法	—	空所補充	選択	★★☆☆
2	英作文	—	語句整序	選択	★★☆☆
3	読解	—	文整序	選択	★★☆☆
4	読解	人文・社会系 約300語	「革新することの難しさ」についての長文問題(内容一致・同意語選択・文補充)	選択	★★☆☆
5	読解	人文系 約400語	「舌先現象の信憑性」についての長文問題(内容一致・同意語選択・文補充)	選択	★★☆☆

大問1・3がやや難化した。さらに大問4の長文内容が難しかったため、全体的にもやや難化した。それでも読解量が少なく選択肢が易しいため、平均点が大きく下がることはないだろう。大問1の文法と大問2の語句整序は、オールインワン系の問題集を1冊終えれば十分対応できる。読

解も300～400語程度の英文が2題出題されるのみなので、速読より精読重視で演習する。大問3の文整序や大問4・5の文補充の対策として読解演習をする際には、機能語や代名詞を意識して論旨の展開を考えて読むとよい。

数学

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野		内容	出題形式	難易度
1	図形と方程式、 平面上の曲線	Ⅱ、C	孤の長さ、三角形の面積の最大、楕円が直線から切り取る線分の長さ	空所補充・選択	★★☆☆
2	微分法的应用、 積分法的应用	Ⅲ	媒介変数表示で表される曲線の法線、接線、曲線の長さ	空所補充	★★☆☆
3	複素数平面	C	純虚数となる条件、対称移動で定められる点列の極限	空所補充	★★☆☆

計算量はあるものの、大問1・2のような解きやすい問題を確実に得点することが重要だ。例年はハイレベルな有名テーマが誘導形式で出題され、計算量が多い。コロナ禍の影響を受ける前の20年度までの傾向に合わせて学習

に取り組むべきだろう。全範囲の基本的な解法を習得した後、過去問などを使って時間配分や誘導に乗ることを意識した練習をしておくとい。完答を狙わずに解きやすい問題から確実に解いていく姿勢も大切。

化学

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★☆☆☆ 易

前年との難易度比較 ↓ やや易化

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問5問 (無機、有機)	ハロゲン元素の性質、酸化物の性質、エステルの性質、ナイロンの単量体、無機物質の保存法	選択	★★☆☆
2	小問4問(理論)	電気分解、酸化還元、凝固点降下、気体の条件変化	選択	★★☆☆
3	理論	窒素酸化物の化学平衡、解離反応、平衡移動	選択	★★☆☆
4	有機	洗浄剤、陽イオン交換樹脂の構造と官能基、中和滴定、実験器具	選択	★★☆☆

大問4題。23年度の大問3題から大問4題に戻り、小問数も減った。例年同様、即答できる問題が多かった。ここ数年、出題のない合成高分子化合物について問われた。例年、グラフ問題が出題される。物質の性質や反応性、基本的な計

算問題への対策が必須。また、タンパク質・核酸・酵素などの生命化学的な内容にも注意しておこう。繰り返しの演習や過去問を活用して、2科目で100分に対応できるような解答スピードを身につけておくこと。

生物

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★ 標準

前年との難易度比較 ↑ 難化

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容		出題形式	難易度
1	小問集合	生物基礎、 生物	動物の分類、減数分裂、ATP、核の性質、気孔の開閉、被子植物の生殖細胞、進化、生物の分類、人類	選択	★☆☆☆
2	生物の環境応答、生態と環境、生命現象と物質	生物	ヒトの脳、生産構造図、遺伝情報の発現	選択	★☆☆☆
3	体内環境の維持、生命現象と物質	生物基礎、 生物	腎臓、一塩基多型	選択	★☆☆☆
4	生物の環境応答	生物基礎、 生物	ワクチン研究、PCR法	選択	★☆☆☆

大問3題または4題構成の年度が多く、24年度は22年度、23年度と同様に大問4題構成だった。近年は減少傾向にあるが、計算問題が5～10問程度出題されることもあるため、典型的な計算問題の演習を積んでおく必要がある。

小問集合の大問がいくつか出題される場合が多いので、正確な知識で素早く処理したい。考察問題も出題されることが多いが、時間に余裕があるのでじっくり考えることができる。ただし、油断せずに対策はしておこう。

物理

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★ 標準

前年との難易度比較 ↑ やや難化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問集合	長方形の板のすべる・倒れる条件、ドップラー効果	選択	★★☆☆
2	小問集合	レンズ・球面鏡、ガウスの法則、水素原子のエネルギー準位	選択	★★☆☆
3	力学	2次元衝突、力積と運動量	選択	★★☆☆
4	電磁気	電流がつくる磁場、電磁誘導	選択	★★☆☆

小問集合2題と力学、電磁気から各1題の大問4題構成。24年度は熱力学からの出題はなかったが、小問集合では例年、力学、電磁気、熱力学、波動、原子の全分野から出題される。そのため、苦手分野を作らず、偏りなく学習しておく必要がある。また、年

度によっては難度が高い問題、計算が煩雑な問題が数問出題されるが、多くの問題は典型問題である。試験時間に対して問題量、計算量が多いため、典型問題から手際よく解答を進めていくなど、試験時間の使い方を事前に研究しておくといだろう。

杏林大学

2025年度 入試への 対策

【英語】

大問1・2対策として「ネクスト・ステージ」「英文法ファイナル・標準編」をそれぞれ演習する。大問1と2どちらも標準レベルであるため、この2冊をしっかりと学習すれば問題ない。大問4・5の読解もここ2年は300～400語と非常に短く、2つのうち1つは内容も易しいので、「やってみたい英長文300・500」をしっかりと演習すれば十分対応できる。解答時間に余裕があるので、速読より精読重視の学習を心掛ける。唯一苦勞すると予想されるのが、大問3の文整序である。このような問題を扱う問題集はあまりないので、まず東海大学の過去問で基礎を確立し、最終的には本学の過去問に取り組むとよい。その際に機能語や代名詞を意識しながら解答する。大問3が合否を分けると思われるので、文整序の練習は必ずやっておく。

【数学】

『チャート』や『チョイス』といった標準的な参考書や問題集を使って定型的な問題の解法を習得し、瞬時に頭に浮かぶようにしておくことが必要である。問題毎の難度に差があるので、全問完答を狙わずに解きやすい問題から確実に解いていく、少し考えて解法の見当がつかないものは潔く捨てる、などといった姿勢も必要である。本大学の過去問や獨協医科大学・川崎医科大学などの過去問を使って、時間配分や誘導に乗る練習をするのも有効である。

【化学】

マーク形式。2科目100分でスピードを要する。小問集合の出題が多い。『ベストフィット化学基礎・化学』『エクセル化学〔総合版〕』で総合的な解答力をつけておく。理論では、気体、溶液、化学平衡などの実験問題の出題が多い。天然高分子が多かったが、24年度は合成高分子が出題されたため、今後の出題に備えよう。各項目の用語や構造の把握をしておくとうい。マーク形式の他大学の過去問（日本大学、埼玉医科大学、北里大学等）も効果的である。

【物理】

まず『良問の風』を用いて、入試標準レベルの問題に素早く対応できる力を養っておくと良い。そして『体系物理』等で入試標準～発展レベルの問題に対応できる力を養いたい。また問題数がやや多いため、難易度があまり高くない問題を優先的に、かつ確実に解き、残った時間で時間がかかる問題を解くなどのように、事前に戦略を練って入試本番を迎えてほしい。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりと基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に解く力をつけること。さらに、頻出するグラフ選択の問題では考察型と知識問題の両方が見られる。この対策としては、過去問を使って慣れておくだけでなく、普段から典型的なグラフを学ぶ際、軸の目盛り、単位、およそのスケールなどを意識して学習しておくとうい。頻出の計算問題対策と兼ねて、『大森徹の生物計算・グラフ問題の解法』がよいであろう。

慶應義塾大学

2024年度
入試分析

英語

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★ やや難 前年との難易度比較 ↑ やや難化 時間に対する分量 多い

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	科学系 約950語	「塩化したモンテビデオの水道水」についての長文問題(指示語指摘・英文和訳・空所補充・語形変化・和文英訳・内容説明・内容一致)	選択・記述	★★★☆☆
2	読解	人文・科学系 約800語	「健康的な食事が心に及ぼす影響」についての長文問題(空所補充・英文和訳・内容説明・和文英訳)	選択・記述	★★★☆☆
3	英作文	—	「他人のレポートを写した生徒への助言」についての100語程度の自由英作文	記述	★★★☆☆

出題形式に変化はなかったが、読解量がやや増加し、問題がやや難化した。大問1の和訳問題に指示語の内容を指摘する条件があるものが増加した。英文内容自体はそれほど難しいわけではないが、和文英訳、英文和訳、内容説明などの記述問題が多く、時間がかかる。英文内容を理解でき

るレベルの英語力は当然だが、記述問題を解答するための英語と日本語の表現力が必要。そのため普段から英文解釈と英作文の練習は欠かせない。純粋な文法問題はないが、長文中の空所補充で語彙や語法の知識が必要なので、しっかりと学習しておく。

数学

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★ 標準 前年との難易度比較 → 変化なし 時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	図形と方程式	Ⅱ 外心・内心の座標	空所補充	★☆☆☆☆
	平面上の曲線	C 楕円の接線とx軸、y軸で囲まれる三角形の面積の最小	空所補充	★☆☆☆☆
	微分法、 積分法の応用	Ⅱ、Ⅲ 関数の最大、x軸と囲まれる部分の面積	空所補充	★☆☆☆☆
2	確率、数列	A、B 確率漸化式	空所補充	★★★☆☆
3	極限、微分法の応用、積分法の応用	Ⅲ 極値、グラフ、定積分、極限	空所補充・記述	★★★☆☆
4	空間ベクトル	C 四面体・六面体の断面積の最大	空所補充	★★★☆☆

22年度より全問が空所補充となったが、24年度は大問3でグラフの概形を描かせる問題が出題された。大問2は、21年度を除き10年以上出題されている確率。24年度は易化した23年度と同程度の難度だったが、例年は問題の難度に関係なく計算量も多いため、解答可能な問題を見極め

る力が必要だ。大問1の小問集合は基本的な問題が中心で落とせない。例年は大問2に確率が出題されるので、過去問演習が有効である。後半の総合的な問題はレベルが高く、解法の丸暗記では通用しない。難関大の過去問で思考力を養っておくことよ。

化学

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★ やや難 前年との難易度比較 → 変化なし 時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	全分野	核酸に関する構造、アンモニアの性質(配位子、水溶液)、COD(化学的酸素要求量)	空所補充・記述	★☆☆☆☆
2	有機	有機化合物の構造異性体とその数、元素分析、ナイロン66の構造と反応式	記述	★★★☆☆
3	理論、無機	気体の膨張率測定、硫黄化合物(沸点、化学反応式、酸化還元、黄鉄鉱量)	空所補充・選択・記述	★★★☆☆

大問3題。大問1は、窒素関連物質とCOD計算で解きやすかった。大問2は、条件に合う異性体を柔軟に特定することがポイント。大問3は、気体の膨張率に関する当時の基礎実験をもとにした思考問題で、分野をまたぐ総合的な

見方が必要だった。恒例の簡潔な論述や導出形式の出題もあった。大学の合格レベルを考えると、易しい問題に気を取られず、合否を決める問題を解くことに集中しよう。実験考察を含む良問を通して、思考力を鍛えておこう。

生物

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★★★ 難 前年との難易度比較 ↑ 難化 時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	生命現象と物質	生物 酵素、タンパク質	記述・描図	★★★★★
2	生命現象と物質	生物 細胞、タンパク質	空所補充・記述	★★★★★
3	生態と環境、 生物の進化と系統	生物 VF菌とイカの共生、進化	記述・描図	★★★★★

23年度と同様に大問3題構成の記述式。例年、考察問題と論述問題が中心となっている。本学は描図問題がよく出題され、23年度には出題されなかった描図問題が24年度は出題された。例年、難度の高い考察問題が複数出題され

ることが多く、さらに問題量が多いため、短時間で解くことが要求される。過去問や難関国公立大の過去問を使って、難度の高い考察問題や論述問題の演習を十分にしておくこと。

物理

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★ やや難 前年との難易度比較 ↑ やや難化 時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問集合	可聴音の範囲、力と圧力、放射性崩壊・半減期	空所補充・選択・記述	★★★☆☆
2	電磁気	電気振動	空所補充・記述	★★★☆☆
3	力学	ビーズ紐の運動モデル	空所補充・記述	★★★★★

例年通り、大問3題構成。大問1は小問集合で、本学を受験生であれば十分に完答が狙える難度。ただし、24年度の大問1の第1問で可聴音の範囲を答える問題のように、知識が問われる問題が頻出しているため、日頃から用語や重要な物理定数の値などを覚える癖をつけておきたい。大問2・3は1つ、もしくは2つの分野からの出題で、小問集合とは違い、深い分析力、思考力が試され

る内容。扱われているテーマが問題集で見かけないようなものばかりで、一見すると難しく見えるが、比較的誘導が丁寧なので、作題者の意図をくみ取り解答を進めていけば解答できる。ただし、理由説明などの論述問題では物理的洞察が必要で、得点差がつきやすい。過去問などを用いて対策しておきたい。

慶應義塾大学

2025年度 入試への 対策

【英語】

本学の長文問題は比較的理解しやすい題材が出題される。とはいえ易しいというわけではない。まずこのレベルの英文をスムーズに理解できるようにするためには語彙力を高めなくてはならない。そのためには「ターゲット1900」はもちろん「鉄緑会英単語・熟語 鉄壁」も利用する。その際に注意することは見出し語だけではなく、派生語までしっかり覚えるという点である。空所補充で単に挿入するだけではなく品詞を変える必要もあるからだ。本学の特徴として挙げられるのが記述問題の多さである。さらにこれらが合否の鍵を握るため、十分に対策を立てる必要がある。まず英文熟考上・下で英文の解釈力をつける。次に「やっておきたい英長文700」や「1日40分の英長文」で、指示語の内容を考え、内容説明や和文英訳を中心に演習する。最後に国公立大の2次試験対策の問題集に取り組む。和文英訳はそれほど難易度が高くないので、市販の標準レベルの英作文問題集を1冊仕上げれば十分である。自由英作文はZ会の「自由英作文のトレーニング」を演習したのち、100語程度の英作文を書くためのフォーマットを作っておくと、時間内に解答するのに役に立つ。記述問題が多いため、作成した答案を学校の先生や塾の講師など受験の専門家に評価してもらうとよい。

【数学】

確率は、過去問の研究を十分にしておくことが大切である。微積分は、最難関題国公立大学レベルの総合的な問題で実力を養っておくとよいであろう。論述形式の出題はないが、『やさしい理系数学』、『理系数学 入試の核心 難関大編』、『医学部攻略の数学』等で難関大のハイレベルな定型問題に取り組んでおくことよい。時間内に解答可能な問題を見極める訓練もしておこう。

【化学】

記述形式。標準レベルを定着させた上で、応用できるような学力を身につける。歴史的な化学実験の出題も多い。『化学の新研究』を読み込み、『化学の新研究』をスピーディーに解けるようにしておく。日頃から丁寧に導出過程を論述するようにしよう。難関大学の過去問（東京大学、東京慈恵会医科大学、順天堂大学）を、ある程度、年度を遡って演習しておくことよい。や大学別の模試にチャレンジしたり、最新トピックスに関心を持とう。

【物理】

本学入試では問題集に掲載されていないような題材が頻出であり、問題文を丁寧に読み込み、作題者の意図に沿って解答を進めていかねばならない。まずは早い段階で標準的な問題集（名問の森、重要問題集など）を終わらせ、典型的な問題の解法をマスターしたい。その上で、本学過去問や同様の入試問題レベルの大学（滋賀医科大学、東京慈恵会医科大学、東大、京大、東工大など）の過去問を用いて、問題文から状況を分析し、解答を進めていく（誘導にのる）訓練を積んでおきたい。

【生物】

教科書レベルの知識は完璧にマスターした上で、それを応用して考える必要のある問題が出題されている。教科書の傍用問題集レベルの問題集をなるべく早めにほぼ完璧に解けるようにする必要がある。その後『思考力問題精講』『実戦生物実験・考察問題集』『生物新・考える問題100選』などに取り組んで思考力・考察力を高めるとよい。さらに本学の過去問を5年分程度取り組み、できれば旧帝大レベルの国公立大学の最近2～3年程度の過去問も演習しておきたい。また、日頃から最新のトピックスにも触れておくことよい。

順天堂大学

2024年度
入試分析

英語

解答形式▶記述／マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ やや難 前年との難易度比較 ↑ やや難化 時間に対する分量 多い

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	医療・科学系 約1,050語	「AIが活用される医療分野に関するインタビュー」についての長文問題(同意語選択・空所補充・内容一致)	選択	★★★☆☆
2	読解	社会系 約750語	「月面の所有権」についての長文問題(同意語選択・内容一致)	選択	★★★☆☆
3	読解	科学系 約650語	「植物が発する音には意味があるのか」についての長文問題(同意語選択・内容一致)	選択	★★★☆☆
4	読解	科学系 約900語	「解明されたクマムシの多くの謎」についての長文問題(空所補充・内容一致・主題選択)	選択	★★★☆☆
5	英作文	—	「所属集団で形成された個性と多文化環境へのそのの貢献」についての自由英作文	記述	★★★☆☆

文補充の復活はなく、同意語選択、空所補充、内容一致からなる一般的な出題形式。読解量は23年度より減少したが、語彙レベルの高い大問2や、解答しにくくなった自由英作文のため、やや難化した。同意語選択と内容一致がすべての大問で出題さ

れているので、文法・語法・熟語よりも語彙力を強化し、文脈重視の学習を心がけたい。80分で総語数3,000語を超える英文と自由英作文が出題されるため、速読力の養成が必須。過去問を利用して時間内に解答できるように練習しておくこと。

数学

解答形式▶記述／マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準 前年との難易度比較 ↓ やや易化 時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	積分法の応用	Ⅲ 定積分	空所補充	★★★☆☆
	確率	A サイコロの同じ目が連続する確率	空所補充	★★★☆☆
	極限	Ⅲ 等比数列の和で定められる数列に関する無限級数	空所補充	★★★☆☆
2	図形の性質、平面ベクトル	A、C 五角形の頂点の位置ベクトル、三角形の面積	空所補充	★★★☆☆
3	数列、関数、微分法の応用、積分法の応用	B、Ⅲ 逆関数で定められる数列の和、不等式証明	記述	★★★☆☆

一部の記述を除いてほぼ毎年度、大問3で証明問題が出題されている。時間的には厳しめなので、確実に解き切れる問題から取り組んでいく必要がある。年度によって問題間の難度の開きが大きいので、解くべき問題の見極めも重要

な要素になる。計算量が多い年度もあるので、典型問題は見てすぐ解き始められるようにしておく必要がある。難関大の過去問でハイレベルなテーマに触れておくとういだろう。

化学

解答形式▶記述／マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ やや難 前年との難易度比較 → 変化なし 時間に対する分量 非常に多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問5問(理論、無機)	共有電子対、分子構造、質量モル濃度、沸点上昇、重水素のpD、オストワルト法	選択	★★★☆☆
	理論	ラウールの法則、モル分率と蒸気圧	選択	★★★☆☆
	有機	芳香族化合物の分子式と反応性、エステル加水分解、アルコールの酸化	選択	★★★☆☆
2	理論	酢酸の電離平衡	記述	★★★☆☆

大問2題。大問1(第1～3問)はマーク、大問2は記述。大問1の第1問は知識問題以上に計算問題の精度を要求された。重水素はマスターしておきたい。第2問のラウールの法則はあらかじめ同内容に取り組んでいると有利で、合格

者はここで持ちこたえて点を重ねただろう。例年、大問2の記述は様々な分野から出題されるが、24年度は解きやすかった。過去問と併せてメディカルラボの実力判定テストで特有の形式を把握しておこう。

生物

解答形式▶記述／マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準 前年との難易度比較 → 変化なし 時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	生命現象と物質	生物 電子伝達系	選択	★★★☆☆
	生命現象と物質	生物 遺伝子突然変異	選択	★★★☆☆
	生物の環境応答	生物 ヒトの視覚	選択	★★★☆☆
2	生態と環境	生物 個体群、種の絶滅	空所補充・記述	★★★☆☆

23年度と同様に大問2題構成のうち1題は中間3題からなるマーク式、もう1題は記述式。大問1は、考察問題が含まれる場合があるものの、比較的解きやすい問題のみの場合が多いので、ここをなるべく早く片づけたい。記述式の

大問2は、論述問題や計算問題(24年度は出題なし)が含まれることが多いので、ここでじっくり時間をかけて考えたい。また、グラフや図、表を使った問題が例年多いので、扱いに慣れておく必要がある。

物理

解答形式▶記述／マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準 前年との難易度比較 ↓ やや易化 時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	中間3題(小問集合、電磁気、熱力学)	小問集合(剛体のつり合い、点電荷による電場と電位、ドップラー効果、反射型回折格子、原子核反応)、ペータトロン、熱サイクル	選択	★★★☆☆
2	力学	慣性力と単振り子	記述	★★★☆☆

本学の大問構成は独特で、例年、大問1は中間3題で構成され、解答形式はマーク式。中間のうち1題は小問集合で、原子を含む全範囲からの出題。残り2題は力学、波動、電磁気、熱力学のうちの2分野から構成される。23年度・24年度はともに電磁気、熱力学からの出題だった。22年度は力学、波動の2分野からの出題。また、大問2は1つの分野からの出題

で、解答形式は記述式。まずは過去問を用いて、この独特の問題構成に慣れておきたい。問題の難度自体はそれほど高くないが、解答時間に対して設問数が多く、年度によっては思考力を要する問題も出題されるため、時間に余裕を持って解答することは難しいだろう。解けそうな問題からてきぱきと解答するなど、試験時間の使い方には十分に注意が必要だ。

『2024年度用全国医学部最新受験情報』より

順天堂大学

2025年度 入試への 対策

【英語】

本学では文法語法に関する問題が出題されず、自由英作文で利用する程度なので、その土台として「総合英語エバーグリーン」を読み、英文のルールを最低限理解する。その際理解度を確認するために「文法を身につけるトレーニング」を利用するとよい。語彙は読解の基礎となるだけでなく、多くの同意語選択が出題されるため、重点的に学習する。まずは「ターゲット1900」で土台を作り、「鉄緑会東大英単語熟語鉄壁」などでさらに高いレベルの語彙を習得する。読解対策では「やっておきたい英長文700」や「英語長文出題パターン演習3」を利用して制限時間内に解答することに重点を置く。余裕があれば英字新聞や英文の科学雑誌などに目を通しておくことも有益である。自由英作文対策としては「Z会英作文のトレーニング・自由英作文編」を演習する。最後に本学の過去問で時間内に解答できるように繰り返し練習しておきたい。

【数学】

問題を見てからじっくりと考える時間はないので、典型問題は解法が瞬時に浮かぶようにしておくことが必要である。かなりの計算が必要な問題が多いので、要領の良い計算をする練習もしておこう。空所補充、記述とも細かいところを気にせずに解答した方がよい。得点することに没頭すべきである。過去には幅広い範囲から出題されているので、全範囲でハイレベルな演習に取り組んでおこう。本大学の過去問と同時に、国公立大、私立大を問わず、難関大の過去問に取り組んでおくのもよいであろう。

【化学】

前半がマーク、後半の記述形式では様々な分野が扱われる。近年、合成高分子の出題がない。まず過去問を解いて、解くべき問題を見極めておく。かなり計算スピードも求められるので、普段からしっかり計算練習をしておこう。『化学の新研究』で深い理解を進めて『化学の新演習』で実力をつけておく。また合否を分ける問題への対応には難関国公立大学の過去問がよい。メディカルラボ『私立医学部大学別 実力判定テスト 順天堂大学医学部』も活用しよう。

【物理】

問題の難易度自体はそれほど高くはないので、むやみに難しい問題集に手を出すのではなく、「名問の森」程度の典型問題集を繰り返し解けば、十分に入試に対応できるだろう。しかしながら、試験時間に対して問題数が多いため、短時間で高い得点率が見込める解答順序を、過去問研究等で探っておきたい。一般に、大問1の小問集合は解答に時間がかかる傾向にあるため、まずはそれ以外の問題から手を付けるとよいだろう。

【生物】

マーク式である大問1は標準的な知識問題が中心になっているので、ここで点数をしっかりと取りたい。そのためにも教科書の傍用問題集レベルの問題を正確に解けるようにする。さらに『理系標準問題集』『良問問題集』などに取り組んで知識を強化する。大問2では論述問題も出題されるので、『記述・論述問題の完全対策』などで題意を正確にとらえて解答する練習を行っておきたい。計算問題も出題されることが多いので、忘れずに対策しておきたい。独特な問題の構成なので、過去問で時間の使い方の練習もしておくこと。

昭和大学

2024年度 入試分析

英語 (I期)

解答形式 ▶ 記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ やや難

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	文法	—	空所補充	選択	★★☆☆
2	読解	科学系 約750語	「植物の体内時計」についての長文問題(段落整序・空所補充・同意語選択)	選択	★★☆☆
3	読解	人文系 約1,300語	「3つに分類される創造性」についての長文問題(空所補充・語句整序・誤り指摘・内容説明)	選択・記述	★★☆☆

大問数と出題形式に変化はない。文法問題はやや易化し、数題の難問はあるものの大半が標準レベルだった。読解は23年度と比べて内容理解は容易だったが、段落整序や内容説明など論理的理解を必要とする問題があり、読解量も多いため、やや難化した。しかし、標準的な問題もあるため、これらを確実に正

解すれば合格点は取れる。文法・語法・熟語・語彙については難問を意識し過ぎず、標準的な問題を確実に正解できるようにする。読解に関しては500~700語の標準的な問題集を1冊仕上げ、大問3対策として国公立2次対策問題集を学習するとよい。問題量が多いので、過去問を使って時間配分を考えておく。

数学 (I期)

解答形式 ▶ 記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 やや易化

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	極限	Ⅲ	フィボナッチ数列	★★☆☆
	数列	B	異なる2数の積の和	★★☆☆
2	空間ベクトル	C	ベクトルのなす角、直方体の断面積、対称式の値	★★☆☆
3	積分法の応用	Ⅲ	球の通過する部分の体積	★★☆☆
4	確率	A	カードを引く確率	★★☆☆

全問が結果のみを答える問題。形式の変更はあるが、17年度以降は大問3・4で場合の数・確率、数学Ⅲの積分法が出題されている。問題量も計算量も少なめなので高得点が必要だろう。基本的な問題や有名問題が中心で、幅広い分野から出題されているため、全範囲にわたって穴のない学習が必要である。難問を解くこ

とよりも、典型問題を迅速かつ確実に得点することが要求されている。過去には期待値が出題されているので注意したい。また、数学Ⅲからの出題が多い年度もあるので微分法・積分法の計算などはしっかりと押さえておきたい。英語と併せて140分のため、時間配分にも注意したい。なお、国語との選択となっている。

化学 (I期)

解答形式 ▶ 記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	有機	芳香族エステル 이성체、化学構造、化合物の名称、呈色反応	空所補充・記述	★★☆☆
2	有機	鎖式炭化水素の一般式、実験装置と捕集法、異性体数、酸化開裂による構造決定	空所補充・選択・記述	★★☆☆
3	理論	ダニエル電池、直並列回路の電気分解、陽イオン交換膜(電解液 pH)、気体発生	記述	★★☆☆
4	小問5問(理論)	圧平衡における解離度、二段滴定、飽和蒸気圧、凝固点降下、燃焼熱を用いる気体の体積計算	記述	★★☆☆

大問4題。大問4の小問数は変化なし。有機は解きやすい問題が多かったが、高分子化合物がなくなった。近年、生体に限らず一般的な有機化合物を扱うことが多い。また、頻出の化学平衡や電気分解は、計算力が必要とされた。有

機は異性体や反応性に関する解答力をつけよう。理論は標準レベルでよいので、様々なタイプの計算問題を攻略しておこう。ここ数年、無機の知識問題の出題がない。I期とII期の過去問を解いておくことが望ましい。

生物 (I期)

解答形式 ▶ 記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 易化

時間に対する分量 適量

大問	分野		内容	出題形式	難易度
1	生命現象と物質	生物	窒素同化	空所補充・選択・記述	★★☆☆
2	体内環境の維持	生物基礎	免疫	選択・記述	★★☆☆
3	体内環境の維持	生物基礎	肝臓	空所補充・選択・記述	★★☆☆
4	生物の進化と系統	生物	分子進化	空所補充・選択・記述	★★☆☆

23年度と同様に大問4題構成の記述式。描図問題が21年度から3年連続で出題されていたが、24年度は出題されなかった。計算問題は22年度から3年連続で出題されている。また、比較的短めの字数で知識論述問題が毎年のよう

に出題されているが、24年度は1問を除いて字数制限がなかった。字数制限は今後どのようなかわからないが、論述問題が頻出であることには変わらないので、必要な内容をコンパクトに要約して論述する訓練をしておくとうい。

物理 (I期)

解答形式 ▶ 記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 やや難化

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	熱力学	熱サイクル、水飲み鳥の原理	記述	★★☆☆
2	力学	運動方程式、慣性力	記述	★★☆☆
3	原子	原子核反応	記述	★★☆☆
4	電磁気	電場・磁場中での荷電粒子の運動	記述	★★☆☆

大問4題で構成され、ここ数年、力学からの出題が多い。また、24年度の大問1の「水飲み鳥の原理」、23年度の大問2「バットの持ち上げ」「無重力環境下での質量の測定」のように、論述問題の出題が続いている。この手の問題は、解答を作り上げるのに

時間がかかるため、本番では後回しにした方がいいだろう。その他の問題については比較的解きやすく、完答もめざせる。また、19年度まで出題が続いていた微分法・積分法を用いた物理現象の解析についても、過去問を用いて解き慣れておきたい。

昭和大学

2025年度 入試への 対策

【英語】

まず「ターゲット1900」などの単語帳を利用して語彙を増やす。これは大問1の文法・語法・語彙の対策となるのと同時に、大問2の空所補充や大問3の同意語選択問題の対策にもなる。さらに長文読解の土台となるため、語彙力をつけるのは必須である。次にオールインワン系の問題集を1冊仕上げる。会話表現は出題されないため文法・語法・語彙・熟語のみを学習する。難問を意識し過ぎず標準的な問題を確実に正解できるような学力をつける。長文2題のうち1題は600～700語程度の英文であるため市販の「1日40分の英長文」や「やっておきたい英長文700」などを利用して学習する。残りの1題は1,000語を超える英文である上、100字以上の日本語による内容説明が出題されるため、国公立2次の過去問（名古屋大学・東北大学など）を利用して、解答作成の練習が必要。さらにこれらの大学（昭和・東北・名古屋）の長文に共通する非常に学術的な内容を理解できるだけのメンタリティ（ものの考え方）を身につける必要がある。

【数学】

『チャート』などの標準的な参考書で全範囲の定型的な問題の解法を習得した上で、『チェック&リピート』や『チョイス』といった標準的な問題集を使って、素早く正確に解く練習を十分にしておくべきである。スピードとケアレスミスの多少が合否の分かれ目である。英語との時間配分も重要な要素であるため、過去問に取り組む際は英語と数学を同時に行うとよい。

【化学】

記述形式。有機と理論が特徴。有機では芳香族、油脂、糖、アミノ酸・タンパク質がよく出題されている。理論は小問形式の計算が頻出だが、大問も出題されることがある。この小問は、結晶、酸塩基、酸化還元、電気化学などの類題が出やすいので、過去問チェックして計算精度を高めておこう。近年、無機の出題がない。『化学重要問題集』で標準レベルを習得し、『化学の新研究』で詳しい知識を取り入れよう。I期・II期の過去問に取り組んでおこう。

【物理】

論述問題以外は、基本～標準レベルの典型問題で構成される。よって、論述問題以外の問題でいかに得点を稼げるかが合否のカギを握る。「良問の風」「名問の森」などの典型問題集を解き込み、標準レベルの問題で取りこぼすことがないよう、力をつけてもらいたい。

【生物】

知識問題、論述・考察問題ともに、かなり細かい知識が必要となる問題が含まれることもある。特に、「体内環境」、「細胞分裂」、「動物の反応」、「タンパク質の機能」、「遺伝情報とその発現」といった医学に関連が深い頻出分野については資料集を隅々まで読むような深く広い勉強をしておくといい。それに加えて、「生態と環境」、「生物の進化と系統」の分野の標準的な問題もとこぼしなく解けるようにしておくこと。また、論述問題と、描図問題が頻出するため、普段から意識して書く練習をすべきである。

帝京大学

2024年度 入試分析

※帝京大学は1次試験を3日間の日程で実施しますが、それぞれの日程における出題内容の詳細は公表されていません。
そのため、下記の出題傾向と分析は3日程のいずれかの出題内容となります。

英語

解答形式▶記述／マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準 前年との難易度比較 変化なし 時間に対する分量 適量

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	医療・科学系 約550語	「ベートーベンの毛髪から採取された遺伝子データが示すこと」についての長文問題(空所補充・同意表現選択・指示語指摘・アクセント・内容一致・下線部和訳)	選択・記述	★★☆☆
2	読解	人文・科学系 約450語	「男児は女兒よりもおしゃべり」についての長文問題(空所補充)	選択	★★☆☆
3	読解	人文系 約400語	「肺がんの利益」(内容一致)	選択	★★☆☆
4	英作文	—	語句整序	選択	★★☆☆

24年度から記述式とマーク式が混在する出題形式に変わった。大問1と大問2の長文は内容に関する問いが少ない。一方、大問3は内容に関する問いしか出題されない。本学では医療に関連した内容が多いが、単なる医療に関する英文というより、医

療を題材に論理的な思考などが問われている。大問4の語句整序は易しいため完答したい。対策としては、医療関係の英文を段落要約すると同時に語句を意識しながら読む。大問4は標準的な語句整序の問題集を1冊仕上げれば十分対応できる。

数学

解答形式▶記述／マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準 前年との難易度比較 やや難化 時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	微分法	Ⅱ 放物線と2接線で囲まれる部分の面積、2接線のなす角	空所補充	★★☆☆
	積分法	Ⅱ 積分方程式	空所補充	★★☆☆
2	三角関数	Ⅱ 交代式の置換による最大・最小	空所補充	★★☆☆
3	指数関数	Ⅱ 連立方程式の実数解の個数	空所補充	★★☆☆
4	図形と方程式	Ⅱ 円の通過領域	空所補充・記述	★★☆☆

24年度は出題形式が記述式とマーク式が混在する形に変わり、大問4では領域の図示が出題された。24年度は数学Ⅱからのみの出題だったが、出題範囲は数学Ⅰ・Ⅱ・A(図形の性質、場合の数と確率)・B(数列)・C(ベクトル)でデータの分析以外の幅広い分野から出題されている。22年度から基本

的な問題が中心の出題となっているが、過去には思考力が必要な問題が出題されたこともある。結果のみを記入する方式なので、計算ミスは致命的。典型的な問題の解法は瞬時に浮かぶように練習しておくとともに、迅速かつ正確に計算する訓練も不可欠。他教科との時間配分も重要な鍵になるだろう。

化学

解答形式▶記述／マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ やや難 前年との難易度比較 変化なし 時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	理論	気体の圧力、熱量、実験器具、混合物、同素体、捕集法、同位体、熱分解	空所補充・選択・記述	★★☆☆
2	理論、無機	鉄原子の電子殻、化学発光、ヘモグロビンの酸素結含量、鉄イオンの酸化還元	空所補充・選択・記述	★★☆☆
3	理論、有機	フェノール・フェノール誘導体の製法と反応性、中和反応、薬効時間	空所補充・選択・記述	★★☆☆
4	有機	合成樹脂、ビニロン、天然・合成ゴム、ポリ乳酸の構造と機能、リサイクル	空所補充・選択・記述	★★☆☆

大問4題。24年度から記述式とマーク式の併用になった。知識問題を即答して、計算時間を確保する必要がある。化学用語や構造式の記述問題も出題された。計算問題では数値選択のマーク形式以外に、従来の算用数字や指数表記の

指定があった。ヘモグロビンは24年度の埼玉医科大でも類似があったので、受験期間中は他大学の出題内容も随時チェックしておくとうい。例年、良問が多いので、赤本掲載の各年度2日分の過去問に取り組んでおこう。

生物②

解答形式▶記述／マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準 前年との難易度比較 難化 時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	生殖と発生	生物 生物の発生と器官形成	選択・記述	★★☆☆
2	生命現象と物質	生物 遺伝情報の発現	選択・記述	★★☆☆
3	体内環境の維持	生物基礎 免疫	選択・記述	★★☆☆

23年度と同様に大問3題だったが、解答形式が記述式とマーク式の複合形式へと変化した。また、論述問題が1題から2題へ増加した。日程によって難度はかなり異なる場合が多い。近年は、免疫に関する問題とバイオテクノロジー

に関する分野が高頻度で出題されている。正誤問題が非常に多く出題されるため、正確な知識が必要となる。演習で正誤問題を解くときには、誤りの選択肢はどこが誤っているのかを必ず確認する習慣をつけておく。

物理

解答形式▶記述／マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準 前年との難易度比較 変化なし 時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学	衝突後一体となった2物体の単振動	選択・記述	★★☆☆
2	電磁気	対称性のある回路の合成抵抗	選択・記述	★★☆☆
3	熱力学	気体の混合	選択・記述	★★☆☆

21年度から大問3題構成が続いている。全分野から偏りなく出題され、力学、電磁気と、残り1題を波動、熱力学、原子のいずれかが占める。24年度からは、解答形式が記述式とマーク式が混在する形となった。難度は基本～標準レベルで、市販の典型的な問題集や教科書傍用問題集をしっかりと取り組めば、十分に高得点が望める。

ただし、24年度の合成抵抗の問題のように、多少難度が高い問題も出題されるので、余裕があれば発展的な問題集にも取り組んでおくとういだろう。3日間の入試で、問題の内容がかぶることがあまりないため、2日目、3日目と問題の予想が立てやすくなっている。

帝京大学

2025年度 入試への 対策

【英語】

語句の空所補充が多く出題されているので「ターゲット1900」を必ず完成させる。空所補充の選択肢にある語はこれでほぼ網羅できる。余裕があれば「システム英単語メディカル」を覚えるとよい。読解3題で医療系の長文が多いため「私大医学部の英語 長文読解編」と大問3の内容一致対策として、東北医科薬科大学や東海大学の長文を演習する。メディカルラボ生ならCT読解スタンダードレベルを演習するとよい。24年度の2日目大問3ではマイケル・サンデルの文章が出題されていたが、CT読解スタンダードレベルとハイレベルでも同著者の英文を3題出題している。語句整序は易しいので、「英語整序問題精選600」のレベル1と2を演習すれば十分である。最後に豊富にある過去問を利用して本学の出題形式に慣れれば合格点が取れるはずだ。

【数学】

まずは『チャート』等の標準的な参考書を使って定型的な問題の解法を習得した上で、『チェック&リピート』や『チョイス』といった標準的な問題集で問題演習に取り組み、定型解法は瞬時に頭に浮かぶようにしておくことが必要である。結果のみを記入する方式なので、計算ミスは致命的である。やや難度の高い問題も出題される可能性があるので、過去問で経験しておいた方がよい。過去問演習は数学を含めた2科目120分で取り組んでおきたい。

【化学】

24年度からマーク+記述形式になった。リード文に空所補充や実験内容が多く含まれるので、迅速な処理が必要である。『エクセル化学〔総合版〕』を繰り返し解き、典型問題ができるようにしておく。例年3日間の試験は同じスタイルで出題される。やや難易度の高い問題もあるが、計算問題と知識問題のバランスがよく良問揃いのため、過去問で複数日の問題を攻略しておくとうよい。理論だけでなく、高分子の計算で工夫できるところを見いだそう。

【物理】

教科書傍用問題集や「良問の風」のような標準レベルの問題集をやり込めば、十分に本学入試に対応することができる。より高得点を目指すのであれば、発展的な問題集（例えば「名問の森」「体系物理」など）を用いて、難易度の高い問題の経験値を上げておくとうよい。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりとした基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に解く力をつけておこう。24年度から解答形式が大きく変わってマーク形式中心となったが、正誤問題が今まで以上に増加した。細かく正しい知識が要求されるため、普段の学習から細かいところにも意識を払う必要がある。また20～30字程度の論述問題は相変わらず出題されているので、その対策もやっておきたい。

東京医科大学

2024年度
入試分析

英語

解答形式▶記述／マーク

問題の全体難易度 ★★★☆ 標準

前年との難易度比較 ↓ やや易化

時間に対する分量 適量

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	語彙	—	空所補充	選択	★★☆☆
2	英作文	—	語句整序	選択	★★☆☆
3	読解	社会系 約600語	「日本の大衆浴場を復活させようとする人たち」についての長文問題(内容一致・同意語選択・空所補充・主題選択)	選択	★★☆☆
4	読解	社会系 約600語	「子供の運動能力の低下とその原因」についての長文問題(内容一致・同意語選択・下線部和訳)	選択・記述	★★☆☆

23年度と同様に大問は4題。22年度まで出題されていた発音の復活はなかった。23年度は1,200語程度だった大問4の読解量が半分になったこともあり、時間内で解答できる。さらに設問も易しくなったため、全体の難度もやや

易化した。対策としては、主として500～700語のマーク式読解問題集を演習する。語彙・語句整序・同意語選択は標準問題集で十分対応できる。文法に関する問題はほぼないため、単語・熟語を重点的に学習する。

数学

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★☆☆☆ 易

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	数学と人間の活動	A 5進法	空所補充	★★☆☆
	数列	B 部分分数分解による数列の和	空所補充	★★☆☆
	複素数平面	C 偏角	空所補充	★★☆☆
	微分法的应用	Ⅲ 逆関数の微分係数	空所補充	★★☆☆
2	場合の数	A 正36角形の頂点を結んでできる四角形の個数	空所補充	★★☆☆
3	空間ベクトル	C 平面の法線ベクトル、球の半径、平面との接点、2球面の交円の中心と半径、三角形の面積	空所補充	★★☆☆
4	微分法的应用、積分法的应用	Ⅲ ベータ関数の積分公式、回転体の体積	空所補充・選択	★★☆☆

20年度から大幅に易化し、基本・典型な問題が多い。24年度は23年度と同様に、第1問が小問集合、第2問が場合の数・確率、第3問が空間ベクトル、第4問が数学Ⅲの微分法・積分法の出題だった。例年、計算量も多くなく、基本・典型解法で解ける問題が多いので、参考書に載っている解法を偏りなく習得して、正確に計算できる

ように訓練しておくことが効果的。また、マーク形式のため、ある程度答えの見当をつけられると取り組みやすい。同じ形式の他大学の過去問で練習するのも有効だろう。過去には、オイラーの多面体定理といった他大学ではあまり見かけない内容が出題されたことがあるので注意したい。

化学

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆ やや難

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	理論・有機	ナトリウム塩、芳香族の酸化還元、反応速度、熱化学	選択	★★☆☆
2	理論	弱酸の電離平衡、pH、電離度	選択	★★☆☆
3	有機	分液ろうとによる抽出、分配平衡	選択	★★★★
4	有機	芳香族化合物の反応性と構造決定、リサイクルマーク	選択	★★☆☆

大問4題。大問1は読文選択1問、正文選択3問、化学反応式1問。例年同様、各問とも5つの選択肢に加え「当てはまるものがない」という6つ目の選択肢がある。24年度の大問3は、どちらの溶媒にも可溶性溶質を定量的に扱う内

容で、各実験操作を整理するのにやや時間を要した。年度によって難度がばらつくことがある。ただし、出題形式がほぼ同じなので、過去問で慣れておこう。メディカルラボの実力判定テストも活用するとよい。

生物

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆ やや難

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野		内容	出題形式	難易度
1	小問集合	生物基礎、生物	細胞小器官、遺伝子発現、ヒトの血液、旧口動物、耳、物質収支	選択	★★☆☆
2	生命現象と物質、生物の進化と系統	生物	制限酵素断片長多型の解析、最節約法	選択	★★★☆☆
3	生物の環境応答	生物	光発芽種子	選択	★★☆☆
4	生殖と発生	生物	ショウジョウバエの発生	選択	★★★★☆

23年度から1題増えて大問4題構成のマーク式。21年度と22年度はかなり難度が高い問題が見られたが、23年度と24年度はやや解きやすくなったものの、私立大医学部の中でもかなり難度は高い。例年、大問1は小問集合で、ここをテンポよく解き終

わり、残り的大問に時間を残したい。残り的大問ではデータの読み取りを伴う考察問題が出題されることが多く、解答にかなりの時間を費やさざるを得ない。その中でも知識で解ける問題を素早く片付け、取れる点数は確実に取っておきたい。

物理

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★☆☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学	動く三角台上での小物体の運動	選択	★★★★
2	力学、波動	弦の共鳴、振り子運動	選択	★★★★
3	電磁気	一様磁場中でのコイルの運動	選択	★★☆☆
4	電磁気	コンデンサーへの誘電体の挿入	選択	★★☆☆
5	原子	半減期	選択	★★★★
6	熱力学	2つの容器に入れられた気体の状態変化	選択	★★★★

大問数は年度によってバラバラで、23年度は大問8題、24年度は大問6題構成。全分野から偏りなく出題されるが、その中でも力学と電磁気の出題が多い。受験生が手薄になりがちな原子からの出題が続いており、この分野の学習はしっかりと行っておいた方がよい。市販の問題集に掲載されている典型問題から多く出題されており、難度自体はそれほど高くはない

が、誘導が少なく自分で解答方針を決めなければならなかったり、計算量が膨大で時間がかかったりと、解答までたどりつくことは容易ではない。また、試験時間に対して設問数が多く、時間内にすべて解き切ることは難しいだろう。合格点を獲得するためには、すべての問題に手を出すのではなく、時間がかわらず正答できる問題を見極める力が重要となる。

『2024年度用全国医学部最新受験情報』より

東京医科大学

2025年度 入試への 対策

【英語】

まず語彙と語句整序対策は「ターゲット1900」と「英文法・語法良問500 整序作文編」を演習する。今年度はそれほど顕著ではなかったが、昨年度語句整序で熟語の知識がほぼすべての問題で問われていたので、熟語を暗記しておきたい。長文読解対策は語数だけで考えれば、「やっておきたい英長文500」や「1日30分の英長文」の演習するとよいが、英文の出典先はJapan Timesや朝日や毎日のような英字新聞であることが多い（今年度は2題共The Mainichiから）、これらから興味のある話題をピックアップし、読み慣れておくといよい。最後に過去問を用いて時間内に解答する練習をする。ただし2021年度以前はやや問題量が多いので、2022年度からの3年間分の演習をしたほうがよいだろう。

【数学】

難度の高い問題はほぼ出題されないため、『チャート』などの標準的な参考書を使って定型的な問題の解法を習得し、『チェック&リピート』や『チョイス』といった標準的な問題集を使って定型解法は瞬時に頭に浮かぶように練習しておくことが必要である。結果のみを記入する方式なので、計算ミスは致命的である。本大学の過去問や獨協医科大学・川崎医科大学などの過去問を使って、時間配分や誘導に乗る練習をするのも有効である。

【化学】

マーク形式。第1問の小問（正誤問題）に個々の選択肢に計算が必要となるなど時間を要する問題もあるため、つねに見極められるように計算力と知識力を向上させよう。高分子は合成より天然が多い。『エクセル化学〔総合版〕』『化学重要問題集』をおさえた後、実験問題、溶液の濃度計算、気体の圧力に関する問題への対応力もつけておく。特有の出題形式に慣れるために、過去問と併せてメディカルラボ『私立医学部大学別 実力判定テスト 東京医科大学』の受験を薦める。

【物理】

問題の難易度自体はそれほど高くはない。教科書傍用の問題集や「良問の風」「名問の森」程度の問題集をやり込めば、問題には十分対応できる。しかしながら、問題の量が多く、また、設問によって難易度のバラつきが大きいので、過去問を用いて、「落とす問題」を見極める目を養ってほしい。また、過去には煩雑な計算問題が頻出であったので、素早く正確に計算する力もつけておきたい。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりとした基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に解く力をつけておこう。大問1の正誤問題では全分野の細かい知識が必要となる。また、大問1以外の実験考察問題の対策として、『生物〔実験・考察問題〕の特別講座』や『生物実験考察入門』などで基本的な実験考察問題の考え方を身につけておこう。20年度から傾向が大きく変わったので、これ以降の過去問演習で雰囲気をつかんでおこう。

東京慈恵会 医科大学

2024年度 入試分析

英語

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆ やや難

前年との難易度比較 やや易化

時間に対する分量 多い

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	医療・科学 約800語	「血液型と病気の関連性」についての長文問題(空所補充・内容一致)	選択	★★★☆☆
2	読解	科学系 約750語	「生命体自然発生説の否定」についての長文問題(空所補充・内容一致)	選択・記述	★★★☆☆
3	読解	医療系 約600語	「病気の治療にあたって患者ができること」についての長文問題(空所補充・自由英作文)	選択・記述	★★★☆☆

読解量がやや減少。読解内容が理解しやすくなり、23年度よりやや易化した。しかし、選択肢の紛らわしさは変わらず、私立大医学部の中でもかなり難しい部類に入る。語彙レベルが高いにもかかわらず、語注がない。そのためハイレベルな語彙力を養ってから、高度な内容の英文の読解練習が必要になる。

その際には段落要約など内容理解だけではなく、空所補充対策として単語・熟語など細部まで意識するとよい。最終的には過去問で選択肢を吟味する練習も行う。読解内容も設問もレベルが高いので市販の問題集だけでは不十分なため、英文雑誌などを読む習慣をつけるとよい。

数学

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆ やや難

前年との難易度比較 やや易化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	確率	A 玉の目と番号に関する条件付き確率	空所補充	★☆☆☆☆
2	積分法の実用	Ⅲ 絶対値を含む積分で定められた関数の最小	記述	★★☆☆☆
3	数学と人間の活動	A 2次関数の係数で定められる値に対する整数の証明	記述	★★★☆☆
4	積分法の実用	Ⅲ 円盤を回してできる回転体の体積	記述	★★☆☆☆

大問2以降は完答が難しい問題が多いが、21年度以降は易化傾向にある。24年度の大問2・4は見慣れた内容で取り組みやすかっただろう。微分法・積分法、確率、空間図形が頻出で、整数や複素数平面も出題されている。昔は計算重視の出題だったが、近年は論理重視になっている。

証明問題も頻出で論理性が要求されており、しっかりとした答案を書くことが必要な問題が出題されている。難関大の典型問題を一通りこなした上で、標準レベル以上の問題集の解答を参考にして答案作成の練習をしておくとうい。

化学

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆ やや難

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 非常に多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	理論	電池・電気分解(標準電極電位、鉛蓄電池、リチウムイオン電池、Cu 電解精錬、Al 溶融塩電解)	空所補充・選択・記述	★★★☆☆
2	理論・無機	リン酸電離平衡、逆滴定、酸無水物、十酸化四リン、ローソン試薬の構造とアセチル化	空所補充・記述	★★★★★
3	有機	I. 構造決定、元素の検出、双性イオン II. テルペン類、フェーリング液、不斉炭素原子	空所補充・記述	★★★★★

大問3題。23年度より1題減少したが、問題量は従来通り。大問1は電気化学で易しめ。大問2・3は各トピックに関連する項目で構成され、合否を分ける問題がある。ローソン試薬(Lawesson's Reagent)や生物由来のテルペン(terpene)

類など特殊な物質について、正確に内容をくみ取って解答しよう。本番では、解くべき問題の選択が多少必要である。目新しい問題があるので、過去問や難関国公立大の良問と併せて資料集やWeb情報で調べる機会をつくろう。

生物

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆ やや難

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	生命現象と物質	生物 呼吸と発酵	空所補充・記述	★★★☆☆
2	生物の環境応答	生物 神経	空所補充・選択・記述・描図	★★★☆☆
3	生殖と発生	生物 細胞死	空所補充・選択・記述	★★★☆☆
4	体内環境の維持	生物基礎 体液	空所補充・記述	★★★☆☆

23年度と同様に大問4題構成の記述式。例年、計算問題は数問出題され、論述問題は各問ごとに数題含まれている。24年度は描図問題も出題された。典型的な計算問題の演習や、論述問題の答えを短時間でまとめる訓練が必要となる。ほぼ毎年出

題される実験問題のように時間のかかる問題が多いため、できる問題から素早く解いていかなければならない。「生態と環境」や「生物の進化と分類」の分野から出題されることもあるので、これらの分野もおろそかにせずに学習しておくこと。

物理

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆ やや難

前年との難易度比較 やや易化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学、原子	面積速度一定の法則(角運動量保存則)の導出	記述	★★★☆☆
2	電磁気	荷電粒子の $E \times B$ ドリフト運動、電磁誘導	記述	★★★★★

22年度以前の約10年間は、生物(人体)や日常生活に絡めた物理の問題が出題されていたが、23年度、24年度と傾向が大きく変わり、物理の理論的解析が主となった。過去の人体に関連する問題も難度が高かったが、ここ2年出題されている問題も、非常に難度が高い。また、24年度からは、問題に「物理の記述問題では、記述内容の深さや脈絡

の豊かさに加えて、それを筋道立てて他者に伝える姿勢を重視する」という文章が付加された。これは24年度で出題されたような論述問題を今後も出題し、それを重視することを示唆していると考えられる。ただやみくもに問題集を解くのではなく、高校物理の内容から逸脱するような発展的な参考書などを用いて、理解を深めておくとういだろう。

東京慈恵会医科大学

2025年度 入試への 対策

【英語】

語彙レベルが非常に高いため、「ターゲット1900」で土台を作り、英検準1級や1級レベルの単語帳にも触れておきたい。文法を直接問う問題はないが、選択肢を消去する際に役立つこともあるので、「ネクスト・ステージ」を1冊は仕上げておきたい。今年度は自由英作文が出題ため、Z会の「英作文のトレーニング・必修編・自由作文編」で練習する。読解問題集は「やっておきたい英長文700」や「英語長文出題パターン演習3」を演習する。ただし読解問題の選択肢は紛らわしいものが多いので、市販の問題集だけで満足するのではなく、本学の過去問を最低3年は解く必要がある。さらに余裕があれば「サイエンティフィックアメリカン」や「ネイチャー」などの科学雑誌にも目を通しておきたい。

【数学】

『やさしい理系数学』、『理系数学 入試の核心 難関大編』、『医学部攻略の数学』等を使って、難関大のハイレベルな典型問題の練習をしっかりとしておくことが重要である。証明問題は論理性が要求されているので、過去問の解答例の研究を十分にしておくことよい。要領よくまとめた答案を作成する練習もしておいた方がよいだろう。また、空間図形の方程式を扱えるようにしておくべきである。

【化学】

記述形式。かなり難度の高い問題が出る。『化学の新演習』を繰り返し解いて定番問題の解答スピードと論述力を磨いておこう。また『化学の新研究』の読み込みも必須である。また種々の医薬品や化学的側面からの医療知識に関心を持つことも大切であり、書籍やWeb情報を駆使して知識を増やそう。東京大学、慶應義塾大学などの過去問やメディカルラボ『私立医学部大学別 実力判定テスト 東京慈恵会医科大学』が有効である。

【物理】

2023年度より、かなり発展的な内容の物理の理論的解析が要求されるようになった。もちろん大学入試であるので、高校物理の範囲内で問題は作成されているが、そうは言ってもやはり高校物理の知識だけでは試験時間内に正答を重ねるのは難しい。発展的な参考書、例えば「物理入門」「理論物理の道標」などを用いて、高校の教科書には載っていない公式の導出などをフォローしておくといいたいだろう。これは、日ごろの学習のときからコツコツと取り組んでおきたい。また、同じような内容の問題を解きたいのであれば、慶應（医）の入試問題を参考にしてもらいたい。

【生物】

まずは教科書の傍用問題集レベルの問題を正確に解けるようにする。さらに『理系標準問題集』『良問問題集』などに取り組んで知識を強化する。他の大学に比べて「生態と環境」や「生物の進化と分類」の分野の出題が多いので、この分野も手を抜かないこと。その後、やや難しい『医学部の生物』や『標準問題精講』まで学習を進めたい。分量が多いことに慣れるためにも、過去問は5年分程度演習しておきたい。その際、必ず時間を考えながら解く練習をしておくこと。

東京女子医科大学

過去問非公表のため掲載なし

2024年度
入試分析

東京女子医科大学

2025年度 入試への 対策

【英語】

本学では文法語法に関する問題が出題されず、自由英作文で利用する程度なので、「総合英語エバーグリーン」を読み、本質を理解する。その際内容理解を確認するために「文法を身につけるトレーニング」を利用するとよい。語彙は読解の基礎となるため重点的に学習する。特別高いレベルの語彙の問題はないため「ターゲット1900」を細部までしっかり覚える。読解問題対策としては「英語長文出題パターン演習1・2」を利用して選択問題に慣れ、共通テスト対策問題集で大問3・4・6を中心に演習する。その際に解答時間を意識する。最後に本学の過去問を利用し時間配分を考えて演習する。特に大問2の文補充は他大学にない形式であるため過去まで遡って十分慣れておく必要がある。

【数学】

幅広い分野から出題されているので、不得意分野はなくしておくことが大切である。『チャート』等の標準的な参考書で定型問題の解法を習得し、『チョイス』などの問題集に取り組み、定型解法は瞬時に頭に浮かぶようにしておきたい。場合の数と確率はやや高めの難易度の問題にも取り組んでおきたい。解答欄があまり広くないので、特に数Ⅲの積分計算は簡潔に記述する練習もしておこう。過去問の類題が出題されることもあるので、過去問研究も有効である。

【化学】

マーク+記述形式。第1問は正誤・計算などの小問集合。『化学の新標準演習』などをマスターしておこう。グラフ問題では縦・横軸に注意して現象を捉えておこう。後半の記述形式では、理論と有機が出題されやすい。有機の構造式では記入例に注意しよう。反応式の係数や計算で使う分子量などを工夫して覚えておくことで時間の節約になる。高分子では構造と名称だけでなく、計算問題の対策をしておこう。

【物理】

『良問の風』等の標準レベルの問題集に取り組み、このレベルの問題にしっかり対応できる力をつけておくこと。また、グラフの描画問題がよく出題されているので、過去問を用いて物理量の変化を数式に表し、それをグラフ化するという手順に慣れておこう。医学部の入試では、1つのミスが大きく響くので、日ごろの演習時からケアレスミスへの対策（解答の次元をチェックする、物理的に妥当な値になっているか検証する 等）を行っておくこと。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりとした基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に解く力をつけること。その上で、実験考察問題の対策として、『生物[実験・考察問題]の特別講座』や『生物実験考察入門』などで基本的な実験考察問題の考え方を身につけておこう。また、問題の文章量が多いため、早くと確に読みこなす必要がある。過去問を解くときには時間を計って解くなど、時間配分に対して慣れておこう。

東邦大学

2024年度
入試分析

英語

解答形式▶マーク

問題の全体難易度

★★★★ やや難

前年との難易度比較

変化なし

時間に対する分量

多い

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	科学系 約750語	「誤った記憶はいつ作られるか」についての長文問題 (内容一致・同意語選択・文補充)	選択	★★☆☆
2	読解	科学系 約850語	「人に慣れる過程を必要とするネコ」についての長文問題 (空所補充)	選択	★★★★
3	読解	人文科学系 約900語	「嫌悪感からくる新技術への抵抗感」についての長文 問題(内容一致・同意語選択・文補充)	選択	★★☆☆
4	文法	—	誤り指摘	選択	★★★★
5	読解	—	—	選択	—
6	英作文	—	正文選択	選択	★★★★

23年度から形式、難度ともに大きな変化はない。4題の長文のうち1題は空所補充のみ。その他の3題は段落ごとの内容一致、同意語選択、文補充が出題される。23年度より長文内容はやや難しくなった印象だが、設問が易しいため、完全に理解できなくても正解できる。しかし、

誤り指摘と正文選択は、かなりレベルが高いので注意が必要。読解練習の際には内容一致対策として段落要約を、同意語選択と空所補充対策として重要語彙を意識するとよい。最後に過去問演習で設問の特徴をつかみ、時間配分を考える必要がある。

数学

解答形式▶マーク

問題の全体難易度

★★☆☆ 易

前年との難易度比較

やや難化

時間に対する分量

適量

小問	分野	内容	出題形式	難易度
1	数と式	I 対称式	空所補充	★★☆☆
2	確率	A 玉を取り出す確率	空所補充	★★☆☆
3	数学と人間の活動	A 平方根が自然数となる条件	空所補充	★★☆☆
4	関数	Ⅲ 逆関数・合成関数が一致する条件	空所補充	★★☆☆
5	極限、微分法的应用	Ⅲ 第 n 次導関数、極限	空所補充	★★☆☆
6	図形と方程式	Ⅱ 円の中心の軌跡、円に含まれる条件	空所補充	★★☆☆
7	図形と計量、 図形の性質	I、A 余弦定理、中点連結定理	空所補充	★★☆☆
8	積分法的应用	Ⅲ 曲線の長さ	空所補充	★★☆☆
9	平面ベクトル	C 双曲線のベクトル方程式	空所補充	★★☆☆
10	積分法的应用	Ⅲ 絶対不等式	空所補充	★★☆☆

小問が10題並び、標準的な問題が中心で高得点が必要となる。データの分析を含め幅広い単元から出題されるため、苦手な単元があると致命的。典型解法の習得および迅速かつ正確な計算力が必須となる。21年度はコロナ禍

の影響で数学Ⅲの微分法・積分法からの出題が1題のみであったが、22年度は5題、23年度は4題、24年度は4題と約半数を占める。過去問を用いて時間配分も意識して練習しておくとういだろう。

化学

解答形式▶マーク

問題の全体難易度

★★★★ 標準

前年との難易度比較

変化なし

時間に対する分量

適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問3問 (理論、無機)	塩化ナトリウムの構造・性質、アルミニウムの反応性、アンモニア水の酸素イオン濃度	選択	★★☆☆
2	理論	(A) オゾンのヨウ素滴定 (B) 浸透圧(陽イオン交換膜、逆浸透膜)	選択	★★☆☆
3	有機	(A) ベンゼンなどの熱化学 (B) 糖の鏡像異性体の旋光性	選択	★★☆☆

大問3題。23年度の25問から22問(大問1は5問から3問)に減少したが、出題総量は同程度。大問2・3は各2つの問題群から構成された。24年度は、大問2の浸透圧での陽イオン交換膜、大問3のベンゼンの炭素間の結合エ

ネルギーや糖の旋光性で差がつく問題があった。計算結果は各桁を答える形式が出題されるため、精緻に解くようにしよう。例年、有機はやや深い理解を求められるので、過去問で把握して他大学の良問に取り組もう。

生物

解答形式▶マーク

問題の全体難易度

★★★★ やや難

前年との難易度比較

変化なし

時間に対する分量

多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	生命現象と物質	生物 呼吸	選択	★★☆☆
2	生命現象と物質	生物 PCR法、電気泳動、DNAの複製	選択	★★☆☆
3	生殖と発生	生物 三毛猫の遺伝	選択	★★☆☆
4	体内環境の維持	生物基礎 免疫	選択	★★☆☆

23年度と同様に大問4題構成のマーク式。計算問題と考察問題が多いのが特徴だが、23年度と比較して計算問題の割合が減少した。しかし、大問3の三毛猫の遺伝の計算問題で大きく差がついたのではないかと思います。典型的なものはもちろん、様々なタイプの計算問題を演習

しておくことが必須。考察問題は文章が長いものや、内容が複雑なものが多く出題されている傾向があるので、テンポよく解いていかないと時間が不足するので注意する。

物理

解答形式▶マーク

問題の全体難易度

★★★★ 標準

前年との難易度比較

変化なし

時間に対する分量

多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学	糸で結ばれた小物体の鉛直面内での円運動、放物運動	選択	★★☆☆
2	力学	摩擦のある面上での物体の単振動	選択	★★☆☆
3	熱力学	ピストンによって仕切られた2つの部屋に入っている気体の状態変化	選択	★★☆☆
4	波動	凸レンズと凹レンズによる像	選択	★★☆☆
5	電磁気	RC回路	選択	★★☆☆
6	電磁気	直線電流がつくる磁場、平行電流間にはたらく力	選択	★★☆☆
7	原子	結合エネルギー、原子核反応	選択	★★☆☆

大問7題構成で、全分野から出題される。すべての問題がマーク形式で、基本的に正しいものを1つ選択して解答するが、過去には「正しい答えをすべて選べ」のような問題が出題されたこともある。基本～標準レベルの問題で構成されるが、24年度の大問2、大問5、大問7のような重たい

数値計算をしなければならない問題も出題されるため、試験時間に余裕はない。時間をかけずに解答できる問題から手際よく処理していく必要がある。また、出題範囲が全範囲であるので、苦手な分野、単元を作らないこと。

東邦大学

2025年度 入試への 対策

【英語】

読解問題対策としては「英語長文出題パターン演習2・3」を利用して選択問題に慣れる。医療科学系の長文が頻出であるため、「私大医学部の英語 長文読解編」を演習するとよい。読解問題はほぼ変化がないので、過去問で選択肢の吟味の仕方をマスターする。大問4の誤り指摘対策としては「英文法・語法良問500 誤文訂正編」を1冊仕上げる。誤り指摘は慣れていないと、なかなか正解できないので必ず演習する。余裕があれば東北医科薬科大や杏林大医学部の2017年以前の入試問題を演習してもよい。大問5の正文選択も初見では苦勞するので、本学の過去問や2020年以前の近畿大学医学部の大問2で慣れる必要がある。今年度は細部の英文法のミスを基準に消去するタイプではなく、英文解釈に近い問題で、選択肢の英文を和訳した内容が最も近いものを選ぶものが中心であったので、直接得点に結びつきそうになくても、「英文熟考上・下」などを使って解釈力の土台を作っておくとよい。

【数学】

幅広いの単元から出題されるため、全単元の基本事項を確実に覚えることが必須条件である。『チャート』等の標準的な参考書で定型問題の解法を習得し、『チェック&リピート』などの問題集に取り組み、定型解法は瞬時に頭に浮かぶようにしておきたい。難度の高い問題は出題されないため、『4STEP』等の教科書傍用問題集で短時間に集中して多くの問題を処理する練習も有効である。マーク方式なので計算ミスは致命的である。自治医科大学や藤田医科大学の小問集合に取り組むことも有効である。

【化学】

マーク形式。定量性を問う計算やグラフが多いが、合成高分子の出題がない。かつて小問集合が特徴だったが、年々減少している。『エクセル化学〔総合版〕』や化学資料集に取り組もう。実験問題では滴定や濃度計算が多く、操作や観察結果をイメージしながら迅速に解こう。有機では誘導があるが、教科書にない反応過程が扱われることがある。過去問で出題内容を把握しよう。今後、医薬品、酵素、核酸に注意しておきたい。

【物理】

難易度自体はそれほど高くはないため、教科書傍用問題集や「良問の風」のような問題集で、基本～標準レベルの問題をやり込めば十分である。しかしながら、2024年度は煩雑な数値計算問題が多く出題されたため、計算力も正答率に大きくかわってくる入試となった。過去問演習の際、しっかりと計算し、答えを出し切る訓練を積んでもらいたい。また、本番の入試では、計算問題は時間がかかってしまうため後に回し、それ以外の問題から手際よく解答して貰いたい。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりと基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に解く力をつけること。問題量が多いことを考慮して、知識や計算の正確さだけでなく速さも身につけていこう。過去問演習は、時間も考慮しながら行っていくこと。また、医学に関連の深い分野の正確な知識の習得に加えて、「生態と環境」、「生物の進化と系統」からも出題が多い点に注意をして学習しておこう。

日本大学

2024年度
入試分析

英 語 (N方式第1期)						解答形式▶マーク
問題の全体難易度★★☆☆☆標準						前年との難易度比較↑やや難化
時間に対する分量適量						
大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度	
1	文法		空所補充	選択	★★☆☆☆	
2	語彙		空所補充	選択	★★☆☆☆	
3	熟語		空所補充	選択	★★☆☆☆	
4	読解	人文・科学系 約200語	「恐竜が絶滅した理由」についての長文問題（空所補充）	選択	★★☆☆☆	
5	読解	社会・科学系 約500語	「生活に役立つ宇宙開発用に開発されたもの」についての長文問題（内容一致）	選択	★★☆☆☆	
6	会話文		「広告と違うホテルの部屋について不平を言う客」についての会話文（内容一致）	選択	★★☆☆☆	
7	英作文		語句整序	選択	★★☆☆☆	
8	読解	社会系 約250語	「古くなった紙幣が交換される過程」についての長文問題（語句整序）	選択	★★☆☆☆	

分量に変化はないが、問題がやや難化した。それでもほぼ標準レベルであるため、入試標準レベルの実力があれば高得点が狙える。大問が8題もあるが、知識系の問題が多く純粋な読解問題は1題のみであるため、問題なく時間内に解答できる。対策としてはオールインワン系の問題集を1冊終え、標準レベルの読解問題集を数冊演習すれば十分対応できる。高得点勝負なので、入試前には基本事項をしっかりと確認し、ミスを犯さないように気をつける必要がある。

数 学 (N方式第1期)						解答形式▶マーク
問題の全体難易度★★☆☆☆易						前年との難易度比較→変化なし
時間に対する分量多い						
大問	分野		内容	出題形式	難易度	
1	図形と計量	I	内接四角形	空所補充	★★☆☆☆	
	平面ベクトル	C	絶対値の最小	空所補充	★★☆☆☆	
	2次関数	I	2次関数の決定	空所補充	★★☆☆☆	
	図形と方程式	II	円の中心の軌跡	空所補充	★★☆☆☆	
	複素数平面	C	ド・モアブルの定理	空所補充	★★☆☆☆	
2	対数関数	II	不等式、最小	空所補充	★★☆☆☆	
3	図形と方程式	II	円の方程式、接線、接点	空所補充	★★☆☆☆	
4	確率	A	取り出した玉で得られる得点の確率・条件付き確率	空所補充	★★☆☆☆	
5	数列	B	階差数列、Σ計算	空所補充	★★☆☆☆	
6	微分法の応用、積分法の応用	III	接線、共有点を2個もつ条件、面積、体積	空所補充	★★☆☆☆	

大問1～6まですべてマーク式で、幅広い分野から出題される。場合の数・確率、ベクトル、数学Ⅱの微分法・積分法は毎年出題されている。数学Ⅲの微分法・積分法は、グラフ、面積、体積といった定番の内容。私立大医学部では珍しく、データの分析における図表の読み取りを出題した年度もあった。多くが基本的な問題で、計算量もそこまで多くはないので確実に得点すべきだが、60分で6題のため余裕はない。参考書などの基本事項・典型解法を徹底して身につけておくことが重要と言える。

化 学 (N方式第1期)						解答形式▶マーク
問題の全体難易度★★☆☆☆易						前年との難易度比較→変化なし
時間に対する分量適量						
大問	分野	内容	出題形式	難易度		
1	理論	原子の構造、中性子数、同位体、分離方法、非電解質、イオン結晶の結晶格子	空所補充・選択	★★☆☆☆		
2	理論	還元剤、酸化還元反応で用いる実験器具、水溶液の濃度	選択	★★☆☆☆		
3	理論	気体の圧力、固体の溶解度、電解質の凝固点降下	選択	★★☆☆☆		
4	理論	弱酸のpH、ルシャトリエの原理、活性化エネルギー、化学平衡	空所補充・選択	★★☆☆☆		
5	無機	典型元素の性質、銅単体・化合物の性質、塩素酸カリウムによる酸素発生、オゾンの特徴	空所補充・選択	★★☆☆☆		
6	有機	フェノールの製法、サリチル酸の反応性、芳香族化合物の異性体数	選択	★★☆☆☆		
7	有機	ペプチド・トリペプチドの反応性、重合体のペプチド結合数	選択	★★☆☆☆		

大問7題。基本レベルで解きやすい問題が多く、かなりの高得点勝負となる。22年度と同様、大問2で酸化還元が出題された。23年度のような合成高分子化合物がなく、天然高分子化合物のみだった。出題の半分を占める理論は、基礎知識だけでなく計算問題も多い。高分子についても構造や語句だけでなく、計算問題にも対応できるようにしておこう。対策としては、川崎医科大などマーク形式の過去問も併せて解いておくとうい。

生 物 (N方式第1期)						解答形式▶マーク
問題の全体難易度★★☆☆☆標準						前年との難易度比較→変化なし
時間に対する分量適量						
大問	分野	内容	出題形式	難易度		
1	生命現象と物質	生物	細胞間の情報伝達	選択	★★☆☆☆	
2	生命現象と物質	生物	遺伝情報の発現	選択	★★☆☆☆	
3	生殖と発生	生物	植物の生殖と器官形成	選択	★★☆☆☆	
4	体内環境の維持	生物基礎	体液浸透圧調節	選択	★★☆☆☆	
5	体内環境の維持	生物基礎	血液型	選択	★★☆☆☆	
6	多様性と生態系	生物基礎	生態系	選択	★★☆☆☆	
7	生物の進化と系統	生物	生物の進化、遺伝子頻度	選択	★★☆☆☆	

23年度と同様に大問7題構成のマーク式。毎年、計算問題が複数出題されるので、典型的な計算問題の練習は必須。問題集などでよく見られる問題が多いので、しっかりと学習していれば高得点を取ることが可能だろう。問題集に載っていないような問題でも、落ち着けば解けるレベル。考察問題の対策としては過去問の活用が有効だ。本学の過去問に取り組み、データの読み取りや比較の仕方をマスターしよう。

物 理 一般 (N方式第1期)						解答形式▶マーク
問題の全体難易度★★☆☆☆標準						前年との難易度比較→変化なし
時間に対する分量少ない						
大問	分野	内容	出題形式	難易度		
1	力学	斜面上での放物運動、はね返り係数	選択	★★☆☆☆		
2	熱力学	熱サイクル、熱効率	選択	★★☆☆☆		
3	波動	マイケルソンの干渉計	選択	★★☆☆☆		
4	電磁気	点電荷による電場と電位	選択	★★☆☆☆		
5	原子	光電効果	選択	★★☆☆☆		

大問5題構成で、設問数は例年25問。高校物理の全分野からの出題で、受験生、特に現役生が手薄になりがちな原子についてもしっかりと学習しておく必要がある。また、基礎～標準レベルの問題が大半を占めるため、正規合格を目指すには、かなりの高得点を獲得しなければならない。まずは典型問題が多く掲載されている問題集をしっかりと解き込み、その上で問題の難度が同程度の入試問題（例えば、共通テスト以前のセンター試験）を用いて、問題の経験値を上げておくとういだろう。

日本大学

2025年度 入試への 対策

【英語】

易しい問題が多いため、基本事項を定着させることが必要である。まず「ターゲット1900」と「ネクストステージ」を終える。読解は「やっておきたい英長文300・500」、「英語長文出題パターン1・2」を演習する。文法・語彙・語法・語句整序の出題率が高いので、「英文法ファイナル標準編」、「英文法・語法良問500 空所補充編・整序作文編」もやっておきたい。ラボ生ならばチェックテスト読解のベーシックをやってもよいだろう。特別なことをやる必要はなく、基本をしっかり習得し、復習して知識を定着させることが大切である。

【数学】

幅広い単元から出題されるため、全単元の基本事項を確実に覚えることが必須条件である。『チャート』等の標準的な参考書で定型問題の解法を習得し、60分で6題と時間が厳しいため定型解法は瞬時に頭に浮かぶようにしておきたい。難度の高い問題は出題されないため、『4STEP』等の教科書傍用問題集で短時間に集中して多くの問題を処理する練習をしておくといえよう。マーク方式なので計算ミスは致命的である。自治医科大学や東邦大学の過去問に取り組むことも有効である。

【化学】

マーク形式。他学部と共通のN方式で解きやすい問題が多い。教科書や『チャート式化学基礎・化学』などで現象をイメージできるようにしよう。全分野から広く出題されるので、幅広く理解をしておく必要がある。『マーク式基礎問題集化学基礎・化学[理論・無機][有機]』『ベストフィット化学基礎・化学』で計算と知識を確認しよう。本学はもちろん、岩手医科大学や私大薬学部など傾向が近い過去問も進めておこう。

【物理】

物理の入試問題は非常に簡単である。つまりは、高得点の争いとなることが予想される。準備としては、「良問の風」レベルの問題集を繰り返し解き、その上で同形式、同程度の入試問題（岩手医科大学、獨協医科大学、福岡大学など）を用いて演習を積み、正答率を安定させる訓練を積んでおきたい。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりとした基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に解く力をつけること。全範囲のしっかりとした基礎知識を身につけて苦手分野を作らないことが重要である。頻出の計算問題が苦手なら『ゼロからはじめる計算問題の解き方』や『大森徹の生物計算・グラフ問題の解法』を使って苦手を克服しておくこと。

日本医科大学

2024年度 入試分析

英語(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度

★★★★☆ やや難

前年との難易度比較

↑ やや難化

時間に対する分量

適量

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	人文・社会系 約1,800語	「何かが広まるための6つの原則」についての長文問題(語形変化・段落要約・指示語指摘・内容説明・自由英作文・内容一致・空所補充)	選択・記述	★★★★☆
2	英作文	—	「大問1を踏まえた口髭の突然の流行の原因」についての自由英作文	記述	★★★★☆
3	発音・語彙・文法	—	発音・アクセント・単語・空所補充・誤り指摘	選択	★★★★☆

出題順に変更はあったが、内容に変わりはない。大問1は2,000語近い長文で設問数も多い。前半部の記述パートは選択した後に正解である理由を述べるといった本学特有の出題形式で、24年度からはそこに自由英作文が加わったためより一層難しくなった。大問2の自由英作文は、大問

1の長文の内容に関するもの。そのため英文の内容がしっかりと把握できていないと解答できない。読解問題以外にも発音・語彙・文法などが問われているので、偏りのない学習を心がける。読解演習の際には、内容理解を中心に進める。

数学(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度

★★★★☆ やや難

前年との難易度比較

↑ やや難化

時間に対する分量

多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	平面ベクトル、微分法の応用	Ⅲ、C 三角形の面積の増減	空所補充・選択	★★★★☆
2	極限	Ⅲ 玉を取り出す確率で定められる数列の極限	空所補充・記述	★★★★☆
3	極限、積分法の応用	Ⅲ 減衰曲線の定積分で定められる数列の極限	記述	★★★★☆
4	空間ベクトル、微分法の応用、平面上の曲線	Ⅲ、C 双曲線の接線と楕円の焦点を通る平面が楕円から切り取る線分の長さ	空所補充・記述	★★★★★

例年、数学Ⅲからの出題が多く計算量も多い。大問2の問4、大問3の問2・4、大問4の問4が論述形式だった。問題の難度の差が大きいので、標準的な問題を確実に得点することが重要。思考力を要するものや見慣れない題材も出題されているので、暗記に頼った学習では太刀打

ちできない。すべての範囲の頻出問題を習得した上で、複数の問題を融合させた総合的な問題を解く練習を積む必要がある。また、文字を含んだ複雑な計算をこなす計算力も必要となる。

化学(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度

★★★★☆ やや難

前年との難易度比較

→ 変化なし

時間に対する分量

多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問3問(全分野)	塩素系物質の反応式、炭酸の電離平衡、ニトロベンゼン誘導体の異性体と化学発光	空所補充・記述	★★★★☆
2	理論	窒素酸化物の化学平衡	空所補充・記述	★★★★★
3	理論、有機	分子量測定法(沸点上昇度、質量分析計)	空所補充・記述	★★★★☆
4	有機	油脂、脂肪酸、セッケン、合成洗剤、高グリコシド血症の判定	空所補充・記述	★★★★☆

大問4題。大問1は各物質の反応性、大問2は空所補充に計算量が多い問題、大問3は質量分析法の理解、大問4は(dL)と(L)の単位変換と予め分子量を把握しておくことがポイントだった。大問1は小問だが、計算量が多いことがあ

る。論述での丁寧な記述や各計算結果の有効数字の指定が求められる。日頃から問題集と併せて化学資料集に掲載されている新しい内容に強く関心を持つとよい。前期・後期の過去問を通して難度の高い問題に数多く取り組んでおこう。

生物(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度

★★★★☆ やや難

前年との難易度比較

→ 変化なし

時間に対する分量

適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	生物の進化と系統、生命現象と物質	生物 進化、動物の分類、呼吸	空所補充・選択	★★★★☆
2	生物の環境応答	生物 受容器、神経系、植物ホルモン	空所補充・選択	★★★★☆
3	生殖と発生	生物 硬骨魚類の色素胞の分化	選択	★★★★☆

23年度と同様に大問3題構成の記述式。例年、大問1・2は知識問題が中心で、比較的易しめの問題が出題される。大問3は、多くのデータを読み取る必要のある、かなり難解な実験考察問題が出題される。大問1・2をできるだ

け短い時間で解き、大問3の考察に十分な時間を割けるようにすることが必要。大問3対策としては、過去問で演習を重ね、解き方に慣れることが最適だろう。

物理(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度

★★★★☆ 標準

前年との難易度比較

→ 変化なし

時間に対する分量

適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学	放物運動、摩擦のある面上での単振動	空所補充	★★★★☆
2	電磁気	コンデンサー内への金属板・誘電体板の挿入	空所補充	★★★★☆
3	波動	波の反射(自由端・固定端)	空所補充	★★★★☆

大問3題構成で、設問数は例年通り20問。24年度は、力学、電磁気、波動の3分野から出題され、熱力学と原子の出題はなかったが、23年度では原子を含む全分野からの出題となっていた。問題の難度は基本～標準レベル

で、入試偏差値に対して、物理の問題の難度は若干低くなっている。そのため物理では、非常に高得点の争いとなることが予想される。ケアレスミスには十分に気を付けたい。

日本医科大学

2025年度 入試への 対策

【英語】

大問3対策として、「ターゲット1900」を利用して、語彙、発音、アクセントの学習をする。誤り指摘と空所補充では文構造に関する問題も出題されるので、「エバーグリーン」で文法の本質を理解するとよい。さらに「英文熟考上・下」で文構造を意識した英文解釈を練習すると、大問3の空所補充や大問1の内容説明にも役立つ。大問1の長文対策としては2,000語程度の超長文が出題されるため「やってきたい英長文700」と「やっておきたい英長文1000」で段落要約を意識し、内容把握に重点をおいて演習する。本学特有の形式に対応するために選択問題は必ずそれを選んだ理由を記述する。大問2の自由英作文は長文のテーマに関する問いであるため、読解演習した英文のテーマで100語程度の英文を書くことよい。自由英作文に不慣れな場合は「英作文のトレーニング・自由英作文編」で土台を確立する。本学の問題は知識を問う問題も多いが、同時に内容理解ができていないと全く解答できない問題もあり、これらの問題には高い配点が与えられていると予想できるため、内容理解に重点を置いた方が得策である。

【数学】

『チャート』等で全範囲の頻出問題の解法を習得した上で、『プラチカ』や『スタンダード数学演習』等のややレベルの高い問題集で、複数の分野を融合させた総合的な問題の演習に取り組むとよいであろう。特に数学Ⅲは、難関大学の過去問の演習もよい。計算力や論証力を養うためにも、『やさしい理系数学』、『理系数学 入試の核心 難関大編』、『医学部攻略の数学』等を使って記述形式の問題で練習しておいた方がよい。時間内に解答可能な問題を見極める訓練もしておこう。

【化学】

記述形式。実験に関する設問が多く、やや難度の高い設問が出題される。理由説明の記述も頻出である。過去問で形式やレベルを把握しておこう。『化学の新研究』で知識を深め、『化学重要問題集』や『化学の新演習』を繰り返し解いて攻略しておこう。普段から様々な機能性物質や化学現象に興味を持つことも大切である。良問が多い本学前期・後期だけでなく、国公立大医学部、慶應義塾大学、東京慈恵会医科大学の過去問も効果的である。

【物理】

まずは標準的な問題集（「良問の風」「名問の森」など）を解き込み、典型的な問題であればスラスラと解答できる力を養ってほしい。次に過去問を用いて、本学の問題の難易度を確認し、制限時間内に高得点（約8～9割）を獲得する練習を積んでほしい。ケアレスミスだけには十分注意をすること。

【生物】

大問1、2は基礎から標準レベルの知識問題が中心になっているので、ここで点数をしっかりと取りたい。そのためには教科書の傍用問題集レベルの問題を正確に解けるようにする。さらに『理系標準問題集』『良問問題集』などに取り組んで知識を強化する。さらに大問3対策として『思考力問題精講』『実戦生物実験・考察問題集』などに取り組んで思考力・考察力を高めるとよい。問題の構成が非常に特徴的なため、過去問については5年分以上取り組むことが望ましい。その中で時間の使い方に慣れていくとよい。

北里大学

2024年度 入試分析

英語

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準					
前年との難易度比較 → 変化なし					
時間に対する分量 多い					
大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	社会・科学系 約950語	「ワンオーシャン・サミットでの委員長のスピーチ」についての長文問題(空所補充・語句整序・同意語選択・同意表現選択・内容一致)	選択	★★☆☆
2	文法	—	空所補充	選択	★☆☆☆
3	読解	人文・科学系 約150語	「子供の鬱積した攻撃行動」についての長文問題(文挿入)	選択	★★☆☆
4	読解	人文・社会系 約300語	「カリスマとは何か」についての長文問題(内容一致)	選択	★★☆☆
5	読解	人文系 約150語	「ツタンカーメンの墓を見つけたハワード・カーター」についての長文問題(空所補充)	選択	★★☆☆
6	会話文	—	「戦場に送られる子供たち」についての会話文(空所補充・内容一致)	選択	★★☆☆
7	英作文	—	語句整序	選択	★★☆☆

23年度と同様、大問7題。大問3の語彙問題が読解問題になったが難度に変化はない。読解問題は4題出題されるが、空所補充が多く出題されるため、語彙・文法・熟語などの知識が重視される。大問2の空所補充は、文構造や品詞の知識で判別するものが多く、注意が必要だ。まずは語彙力を高めることが必須だが、学習する際には品詞を意識した上で、その派生語もしっかりと暗記する。オールインワン系の問題集、内容一致中心の長文問題集の演習も欠かせない。最後に必ず過去問演習をすること。

数学

解答形式▶記述

問題の全体難易度		★★☆☆ 標準	前年との難易度比較	変化なし	時間に対する分量	適量
大問	分野	内容		出題形式	難易度	
1	図形と方程式	Ⅱ	線形計画法、1文字固定	記述	★★☆☆	
	微分法の応用、 積分法の応用	Ⅲ	面積、定積分で定められる関数の最小	記述	★☆☆☆	
	空間ベクトル	C	四面体の体積	記述	★★☆☆	
	数学と人間の活動	A	約数の個数・総和	記述	★★☆☆	
2	微分法の応用、 積分法の応用	Ⅲ	不等式の証明（階段状の面積の比較）	記述	★★☆☆	
3	数列	B	確率漸化式	記述	★★☆☆	

大問1の小問集合は基本的な問題が中心なので確実に取りたい。数学Ⅲからの出題が多く、計算量も比較的多いので、確実な計算力が必要だ。特に微分法・積分法の計算は面倒がらずに自分の手で解き切ることを意識した演習を行うべきだろう。大問2以降の大問には、典型問題ではない難度の高い問題が出題されることもある。解ける問題を確実に解くことが大切と言える。なお、証明問題は毎年必ず出題されている。

化学(前期)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度		★★★★☆ 易	前年との難易度比較		↓ やや易化	時間に対する分量		📦 多い
大問	分野	内容			出題形式	難易度		
1	小問8問 (全分野)	水の密度、イオン結合、反応熱、アンモニア化学平衡、ハロゲン、鉄イオン、等電点、芳香族の分離			選択	★★★★☆		
2	理論、無機	水酸化カリウムの製法、カリウム化合物の二段滴定、実用電池の電解質			選択	★★★★☆		
3	理論	化学平衡、アンモニアの圧平衡、五塩化リンの化学平衡			選択	★★★★☆		
4	無機	気体(製法、液性、性質)、濃硫酸の作用と性質			選択	★★★★☆		
5	有機	フェノールの製法、臭素との反応性、フェノール樹脂			選択	★★★★☆		

大問6題。天然・合成高分子を含む各分野からの典型問題だが、空所補充や計算(有効数字指定)が多く、解答スピードが必要だった。20字の論述も出題された。23年度と同様、有機の構造決定で差がついた。本番では、迅速に知識問題を解いて計算と有機に取り組もう。大学のWebサイトなどで前期・後期の過去問をチェックして形式やレベルに慣れておこう。メディカルラボの実力判定テストも有効である(23年度実施分で窒素酸化物の化学平衡の類題あり)。

生物

解答形式▶マーク

問題の全体難易度

★★★★☆ やや難

前年との難易度比較

難化

時間に対する分量

多い

大問	分野		内容	出題形式	難易度
1	体内環境の維持	生物基礎	消化、肝臓	選択	★★★★☆
2	体内環境の維持	生物基礎	免疫	選択	★★★★☆

24年度の大問構成は、23年度より1題減少し、22年度と同じ2題のマーク式。大問数は減少したが難度が上昇した。実験考察問題ではグラフや図から考える問題が多く、問題の文章量や選択肢も多いため、制限時間内に解き切るのは難しい。特に「遺伝子」「代謝」「神経・筋肉」「体内環境」を中心とした計算問題がよく出題されている。問題の形式が独特なので、慣れるために過去問演習が非常に有効。出題形式が似ているので、他学部の問題にあたってみるのもよい。

物理

解答形式▶マーク

問題の全体難易度

★★☆☆

標準

前年との難易度比較

→

変化なし

時間に対する分量

📦

多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問集合	剛体のつり合い、2つの小物体の放物運動、点電荷の電位、ドップラー効果、2つの部屋に入れられた気体の状態変化	選択	★★☆☆
2	力学	2つの小物体の衝突とその後の運動	選択	★★☆☆
3	電磁気	RC回路、対称性のある抵抗回路	選択	★★☆☆

大問3題構成で、大問のうち1つは小問集合、残り2題は力学、電磁気からの出題。小問集合の力学では、剛体のつり合いが頻出。基本～標準レベルの問題が大半だが、年度によっては計算量の多い問題も出題されている。試験時間は2科目100分で、均等に配分するのであれば、物理は約50分で解かなければならず、時間的な余裕はない。よって、解ける問題からどんどん解答していき、計算量が多い、また難度が若干高い問題はあとに回し、正答を重ねること。また、各設問に対する選択肢が多いため、過去問演習を通じて選択肢から正答を見つける練習も積んでおきたい。

北里大学

2025年度 入試への 対策

【英語】

語彙力を高めるため「ターゲット1900」の学習は欠かせない。その際に意味を覚えるだけでなく品詞の確認とその派生語までしっかり覚える。今年度の大問3では品詞の知識が必要であったためである。次に「ネクスト・ステージ」を仕上げ土台を作る。さらに文構造を把握する力が問われているため、「英文熟考上・下」で文構造を考えながら和訳の練習をする。読解内容を把握する練習には「やっておきたい英長文500・700」と「英語長文出題パターン2・3」の演習をする。特に内容一致問題に重点を置く。余裕があれば「英文法ファイナル標準編」と「英文法・語法良問500 空所補充編・整序作文編」もやっておきたい。最後に本学の過去問を利用して、本学特有の選択肢に慣れ、時間内に解答できるように練習する。

【数学】

『チャート』や『チョイス』といった標準的な参考書や問題集に取り組み、定型的な問題は確実に解けるようにしておくことが必要である。8試験時間80分で小問を40分、大問を残りの40分でこなす練習を重ねておきたい。その際、小問は複数の解法からベストな方法を瞬時に選択できるようにしておきたい。解ける問題を確実に得点することが最も大切である。要領よく計算する練習にも取り組んでおこう。特に、数学Ⅲからの出題が多めなのでしっかりとおさえておきたい。

【化学】

マーク形式。2科目100分だが、出題量が多い。同様の形式・傾向が続いているため、数年分の過去問を解いて全体像を把握しておこう。正誤、計算、グラフを含め、幅広く出題される。『ベストフィット化学基礎・化学』『エクセル化学〔総合版〕』などで繰り返し演習を行う。有機は脂肪族・芳香族の構造・性質をおさえておこう。本学過去問以外に本学他学部、日本大学、埼玉医科大学などのマーク形式の問題も有効である。

【物理】

問題の難易度は基本～標準レベルであり、入試標準レベルの問題集（例えば良問の風など）をやり込めば十分に対応できる。しかしながら、試験時間に余裕はないため、過去問演習時から「先に解く問題」、「あとにまわす問題」を見極め、時間内に合格点を獲得する練習を行っていきたい。また、各設問に多くの選択肢が用意されているため、次元がおかしな選択肢は排除する等して選択肢を絞り込むことができる。どうしても解法が思いつかなかった場合などは、絞り込んだ選択肢から逆算的に解き方を分析したりも可能である。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりと基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に速く解く力をつけること。問題の文章量が多いので正確さとともに速さを身に付ける練習を。計算についても、一通り問題集の典型的なものを演習した上で、過去問にあたって慣れておく必要がある。過去問については、医学部の問題はもちろんだが、本学の他学部の問題も医学部と似たような出題形式なので、併せて演習することをお勧めする。

聖マリアンナ 医科大学

2024年度
入試分析

英語(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↓ やや易化

時間に対する分量 適量

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	科学系 約800語	「日本オオカミと犬の起源」についての長文問題(空所補充・指示語指摘・内容説明)	記述・選択	★★★☆☆
2	読解	医療・科学系 約550語	「動物のウイルスが人間に移るわけ」についての長文問題(空所補充・文整序・文補充・同意表現選択・内容一致)	選択	★★★☆☆
3	文法・ 会話文	—	適文選択	選択	★★★☆☆

大問3の一部変更以外は23年度と同じ形式。英文の内容が2題とも標準的だったため、全体的に易化した。大問1の記述問題は4題だが、2題は指示語指摘で、内容説明は2題のみのため、日本語の記述量が減った。大問2の文整序はやや難しいが、空所補充は易しく、全体としては標準

的。大問3は、例年通りの適文選択に、eメールの一部を完成させる問題が追加された。大問1の記述対策として内容説明の多い国公立大用の問題集の演習、空所補充対策として語彙力養成、適文選択対策として誤り指摘問題集の演習と会話文表現の暗記に取り組むとよい。

生物(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	生殖と発生	生物 被子植物の配偶子形成	空所補充・記述	★★★☆☆
2	生物の環境応答	生物 神経、筋肉	空所補充・選択・記述	★★★☆☆
3	体内環境の維持	生物基礎 腎臓	空所補充・選択・記述	★★★☆☆

23年度と同様に大問3題構成の記述式。他大学に比べ試験時間が長いので、考察問題や論述問題、計算問題など時間のかかる問題をじっくりと考えることができる。論述問題や計算問題については、典型的なものを一通り解けるように練習しておく。24年度の大問1のように、や

や難しいの実験考察問題が出題されることが多いので、与えられた情報を正確に読み取れるように演習しておく。24年度は出題されなかったものの、描図問題はよく出題されるので、日頃から教科書の図を意識して見る習慣をつけておく。

物理(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問集合	エネルギー・運動量、自己誘導・相互誘導、気柱の共鳴、熱機関と熱効率	空所補充	★★★☆☆
2	力学	動く三角台上での小球の運動、束縛条件	空所補充	★★★☆☆
3	電磁気	ガウスの法則	空所補充	★★★☆☆
4	波動	縦波を表すグラフ、波の式	空所補充	★★★☆☆
5	原子	結合エネルギー、原子核反応	空所補充	★★★☆☆

大問5問構成で、大問1は小問集合、その他は力学、電磁気、波動、原子からの出題。基本～標準レベルの問題がほとんどで、問題の誘導も丁寧であるため、多くの受験生にとっては取り組みやすかったと考えられる。時間的にも余

裕があるため、高得点の勝負となることが予想される。また、小問集合では現象名、公式名、人物名など暗記事項が出題されたこともあるため、対策しておきたい。

数学(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↑ やや難化

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	データの分析	I 平均、分散、相関係数	空所補充	★★★☆☆
	複素数と方程式	II 3次方程式の解と係数の関係	空所補充	★★★☆☆
	微分法	II 3次関数の決定	空所補充	★★★☆☆
2	図形と計量	I 正弦定理、余弦定理、余弦の最小	空所補充	★★★☆☆
3	積分法的应用	III 曲線の長さ、区分求積法、定積分	空所補充・記述	★★★☆☆
4	数学と人間の活動	A 合成数となる条件	空所補充・記述	★★★☆☆

例年、大問4は証明問題となっており、整数に関する難度の高い問題が多い。24年度は大問3でも証明問題が出題され、そちらの方が難度が高かった。例年の傾向では、大問1～3までを確実に得点することが重要となる。大問2は、他大学ではあまり見かけない形式や範囲の問題も出題され

ることがあるが、難問ではない。解ける問題から確実に解いていくとよい。過去には数値計算などで計算が煩雑な問題が出題されたこともあるので、十分な計算力も養う必要がある。また、データの分析が大問として2度出題されたことがあるので注意したい。

化学(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 少ない

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	有機	芳香族化合物の分離と反応性	選択・記述	★★★☆☆
2	理論、無機、有機	鉄の製錬、熱化学方程式、エチレンの有効性	空所補充・記述	★★★☆☆

大問2題。21年度から続く大問数。大問1は芳香族化合物の分離で、2行以内の論述と多くの化学反応式を問う内容。大問2は、複素数の論述の中で鉄の製錬過程において水素還元方式が環境につながる理由を答えさせるところが興味

深かった。例年、熱化学の出題が多く、新課程のエンタルピー問題への対策もしておこう。解答時間(理科2科目で150分)を使ってしっかりと見直しを行い、ケアレスミスななくそう。後期の過去問も参照しておくとうい。

『2024年度用全国医学部最新受験情報』より

聖マリアンナ医科大学

2025年度 入試への 対策

【英語】

語句の空所補充が多いため語彙力養成が必須。単語帳を1冊しっかり覚える。さらにオールインワン系の問題集（ネクストステージなど）で文法・語法・語彙・イディオム・会話表現を覚える。読解対策として「英語長文出題パターン2・3」「やっておきたい英長文500・700」を利用して大問2の内容一致対策、「新こだわって！英語長文読解標準」で記述対策をするとよい。余裕があれば誤り指摘問題集を演習すると大問3の適文選択で役に立つが、今年度は文法的な観点で消去できる問題が減少したので、会話表現を覚えた方が得策かもしれない。大問2の文整序は難しいので、まず東海大の過去問で慣れ、杏林大の過去問で実践演習するとよい。他の私大医学部入試問題と比較すると、日本語による記述量が多く、合否を分ける問題となるため、100語～150語の日本語での内容説明の練習と講師による添削は欠かせない。

【数学】

大問1～3は通常の解法で解ける問題が多く出題されるので、『チャート』や『チェック&リピート』などの標準的な参考書・問題集で定型解法の習得に取り組んでおくことよい。ただし、日頃から数値が煩雑になる問題でも面倒がらずに計算する習慣をつけておくべきである。この大問1～3でしっかり得点することが重要である。大問4は完答できなくてよいので、整数問題や背理法、数学的帰納法などの証明問題の練習をしておくことよい。

【化学】

記述形式で試験時間が長い（2科目150分）。過去の問題と近い内容が扱われることがあるため、前期・後期の内容を把握しておこう。数行の論述対策では重要語句の定義や考察内容もあり、普段から化学現象、実験操作の意味を簡潔に説明する練習が必要である。『ベストフィット化学基礎・化学』『エクセル化学〔総合版〕』などで、計算問や論述だけでなく、用語・化学反応式を広範囲にチェックしておこう。

【物理】

過去には非常に解きづらい問題が散見されていたが、ここ数年は非常に解きやすい問題で構成されている。この難易度が続くのであれば、教科書傍用の問題集や「良問の風」程度の問題集を解き込めば、十分に高得点を獲得できる力はずくだろう。本学の物理入試では、合格点が非常に高くなることが予想されるので、過去問演習を通じてケアレスミスへの対策を行っておきたい。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりと基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に解く力をつけること。論述問題と計算問題が合否を分けるため、『記述・論述問題の完全対策』や『大森徹の生物計算・グラフ問題の解法』などを使って典型的な問題は一通り解けるようにしておこう。また、過去問の類似問題が出題されることもあるため、過去問演習は極めて有効であり、丁寧に取り組んでおきたい。

東海大学

2024年度
入試分析

英語 (2/2)

解答形式▶記述／マーク

問題の全体難易度		★★☆☆ 標準	前年との難易度比較	やや難化	時間に対する分量	適量
大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度	
1	読解	人文・社会系 約750語	「衰退する鳴鐘術」についての長文問題(内容一致・同意表現・主題選択・内容真偽)	選択	★★☆☆	
2	文法	—	空所補充	選択	★★☆☆	
3	語彙	—	同意語選択	選択	★★☆☆	
4	会話文	—	会話文2題	選択	★★☆☆	
5	読解	—	文整序4題	選択	★★☆☆	
6	読解	社会系 約200語	「3年間の国内旅行者数の推移」についての長文問題(空所補充)	選択	★★☆☆	
7	読解	科学系 約200語	「高度な能力を持つタコ」についての長文問題(英文和訳)	記述	★★★★	
8	読解	科学系 約100語	「人の考えを言語化するAI」についての長文問題(和文英訳)	記述	★★☆☆	

全体的な難易度は23年度と同様「標準」だが、大問7の和訳問題が難化したため、23年度と比べて「やや難化」とした。大問1～6までの問題は出題形式も例年通り。大問7はC＋though＋SV、Not onlyの直後の倒置、go so far as to

do～などの知識が必要となり、単語と文脈のみでは正解できない。大問2と大問8では文法の知識が必須であるため、参考書で理解してから演習する。問題量は多くないが、直前期には過去問を演習して時間の使い方を考えておく。

数学 (2/2)

解答形式▶記述

問題の全体難易度		★★☆☆ 標準	前年との難易度比較	変化なし	時間に対する分量	適量
大問	分野		内容	出題形式	難易度	
1	積分法	Ⅱ	定積分	空所補充	★★☆☆	
	微分法	Ⅱ	極限值	空所補充	★★☆☆	
	数学と人間の活動	A	1次不定方程式	空所補充	★★☆☆	
	三角関数	Ⅱ	合成による最大・最小	空所補充	★★☆☆	
	確率	A	玉を取り出す確率	空所補充	★★☆☆	
	空間ベクトル	C	2直線のなす角	空所補充	★★☆☆	
	平面ベクトル	C	絶対値の最大・最小	空所補充	★★☆☆	
2	2次関数、データの分析	I	平均、分散、相関係数、1次関数・2次関数の最大・最小	空所補充	★★☆☆	
3	数列、対数関数	B	漸化式で定められる数列の最大項の桁数と最高位の数	空所補充	★★☆☆	

22年度から出題範囲が数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bのみとなったが、形式等に大きな変化は見られなかった。大問1は基本的なレベルの小問集合で確実に得点したいが、時間を使い過ぎないことも重要だ。大問2・3は誘導に従って解いていく標準

的な問題。ここ数年は易化傾向にあるが、誘導に乗りづらい年度もあるので、時間内に解き切るには各分野の典型解法が瞬時に浮かぶように練習しておきたい。特に、微分法・積分法、確率、数列、ベクトルは重点的に練習しておくこと。

化学 (2/2)

解答形式▶記述／マーク

問題の全体難易度		★★☆☆ 標準	前年との難易度比較	変化なし	時間に対する分量	多い
大問	分野	内容	出題形式	難易度		
1	無機	金属の性質、ガラス、ファインセラミックス、工業的製法の触媒	空所補充・選択・記述	★★☆☆		
2	理論	pH 指示薬の電離平衡、メチルオレンジの変色域	選択・記述	★★☆☆		
3	理論、無機	アルミニウム(結晶格子、精錬、熔融塩電解、単体の性質、中和反応)	空所補充・選択・記述	★★☆☆		
4	有機	鎖式炭化水素の構造異性体、元素分析	選択・記述	★★☆☆		
5	有機	合成繊維の特徴、構造式、アミド結合、合成実験の様子	選択・記述	★★☆☆		

大問5題。各大問は小問3～5問で構成。一枚の解答用紙にマークと記述の解答欄がある。大問1では難度の高い用語や化学式の設問があり、確実に得点できる問題に取り組む必要がある。他の大問は解きやすい問題が多かった。日

頃から標準レベルの様々な問題を繰り返し解いた上で、教科書の発展的内容や資料集にある先端的知識を可能な限り把握しておく。例年、安定した良問が多いので、過去問は各年度2日分にチャレンジしてほしい。

生物 (2/2)

解答形式▶記述

問題の全体難易度		★★★★☆	やや難	前年との難易度比較	↑	難化	時間に対する分量	多い
大問	分野		内容			出題形式	難易度	
1	生物の進化と系統	生物	進化、遺伝子頻度			空所補充・ 選択・記述	★★★★☆	
2	体内環境の維持	生物基礎	心臓、血液循環、酸素解離曲線			選択・記述	★★★★☆	
3	生命現象と物質	生物	人工細菌			選択・記述	★★★★☆	
4	生命現象と物質	生物	呼吸、光合成			空所補充・ 選択・記述	★★★★☆	
5	生物の環境応答	生物	膜電位			空所補充・ 選択・記述	★★★★☆	

23年度と同様に大問5題構成の記述式。計算問題や考察問題の出題が多く、大問数も5題と多めなので時間に対する分量は多めだ。知識問題は比較的标准的な問題が多いので、これを素早く処理して、難解な考察問題にできるだ

け多くの時間を費やせるようにしていくことが重要。特に「人体」「遺伝子」「発生」に関する問題は考察力を必要とする問題が多く出題される傾向があるので、十分な演習を積んでおく。

物理 (2/2)

解答形式▶記述／マーク

問題の全体難易度		★★☆☆ 標準	前年との難易度比較	変化なし	時間に対する分量	適量
大問	分野	内容		出題形式	難易度	
1	力学	小球の斜面との繰り返し衝突		記述	★★☆☆	
2	電磁気	磁場中での導体棒の運動、電磁誘導		記述	★★★★	
3	原子	原子核反応		選択	★★☆☆	
4	熱力学	熱サイクルと熱効率		選択	★★☆☆	

例年通り、大問4題構成で、2題が記述式、残り2題がマーク式。ここ数年は標準レベルの典型問題から出題されており、以前と比べると取り組みやすい問題がほとんど。しかし、大問間で難度のバラつきがあったり、大問の後半で若干解きづらい問題が出題されたりするため、難度が比較

的高い問題に時間を使い過ぎると、試験時間が圧迫されてしまうため注意が必要だ。過去問演習を通じて、どのような問題にどの程度の時間をあてることができるのか、事前に確認しておきたい。

東海大学

2025年度 入試への 対策

【英語】

大問1の長文対策としては「英語長文出題パターン2・3」や内容一致問題の多い共通テストの論説文などを演習する。段落要約を心掛け、選択肢を吟味する際には消去法も駆使する。大問2の文法問題は最近の傾向に反して、純粋な文法事項を問うものが多いため、「エバーグリーン」で内容を理解してから、オールインワン系の問題集（「ネクストステージ」など）の文法分野を中心に演習する。大問3の同意語問題は難しいものもあるが、文脈判断、もしくは消去法で正解できる。大問4・5・6は過去問で練習すれば問題ない。最後に記述式の大問7・8だが、英文和訳は「英文熟考・上下」「英文解釈技術70」を利用し、今年度の様な構文の出題に備えておく。和文英訳は「Z会の英作文のトレーニング・標準編」を利用して十分に練習しておきたい。時間の使い方も重要であるため過去問演習も欠かせない。

【数学】

まずは、『チャート』などの標準的な参考書で基本的な解法を習得することが必要である。小問集合で時間を使い過ぎないために、問題文を読んで瞬時に解法が浮かぶようになるまで、繰り返し学習することが重要である。その上で、本大学の過去問や杏林大学・獨協医科大学・川崎医科大学などの過去問を使って誘導形式の練習に取り組むとよい。

【化学】

マーク+記述形式。理科1科目のみの70分。問題は基本～標準レベル。計算が頻出で、高分子の出題が続いているため、『ベストフィット化学基礎・化学』『エクセル化学[総合版]』などで演習を積んでおこう。無機だけでなく、様々な化学反応式（酸化還元滴定、反応エンタルピー、有機化合物など）も書けるようにしよう。参考書や『フォトサイエンス化学図録』で知識を習得しよう。過去問は2日間ともに解いておくこと。

【物理】

ここ数年は難易度が落ち着いている印象である。そのため、過去の非常に難易度が高い年度の過去問を用いた対策は必要ない。ここ数年（2024, 2023）の2日程分の過去問を用いて演習しておくといいだろう。問題の難易度はいたって標準的であるので、「良問の風」、欲を言えば「名問の森」程度の問題集を繰り返し行い、典型題の経験値を上げておきたい。また、解答形式が特殊であるので、記述式とマーク式の両方に慣れておくこと。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりとした基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に解く力をつけること。考察問題が頻出なので、苦手な場合は『生物[実験・考察問題]の特別講座』や『生物実験考察入門』などで基礎を固めた後、過去問などを使って演習をしていくとよい。また、頻出の計算問題対策も兼ねて、『大森徹の生物計算・グラフ問題の解法』を学習しておくこと。さらに、『記述・論述問題の完全対策』などを使って典型的な論述問題も一通り解けるようにしておこう。

金沢医科大学

2024年度 入試分析

英語 (前期・1/30)

解答形式 ▶ マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	社会系 約200語	「炭鉱と発電所に関する調査」についての長文問題(グラフ完成)	選択	★★☆☆
2	読解	人文・社会系 約1,100語	「現代的な備忘録の活用」についての長文問題(主動詞選択・発音・アクセント・空所補充・同意語選択・指示語指摘・内容一致)	選択	★★☆☆
3	読解	人文系 約1,250語	「年齢によって異なるお金の価値」についての長文問題(指示語指摘・空所補充・同意語選択・内容一致・グラフ完成・主題選択)	選択	★★☆☆

23年度よりは読解量が減少し、グラフ完成の問題が増加した。読解量は減少したものの、試験時間60分の中で解き切るのには容易ではない。その代わりに設問は比較的易しいので、要領よく解答する工夫をすれば時間内で解答できる。内容理解に関する問題だけではなく、発音・ア

クセントや主動詞選択など、バラエティに富む。大問で出題されることはないが、空所補充などで文法知識を利用できるので、文法学習は欠かせない。まず語彙力をつけ、段落要約を意識して読解演習に取り組む。最後に過去問で時間内に解答できるように工夫する。

生物 (前期・1/30)

解答形式 ▶ マーク

問題の全体難易度 ★☆☆☆ 易

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野		内容	出題形式	難易度
1	小問集合	生物基礎、生物	タンパク質の構造、細胞の DNA 量、イモリの発生、ヒトの神経と筋肉、植物の葉の純生産速度、系統樹、分子系統樹	選択	★☆☆☆
2	生命現象と物質	生物	遺伝子の発現	選択	★☆☆☆
3	体内環境の維持	生物基礎	生体防御	選択	★☆☆☆

23年度と同様に大問3題構成のマーク式。大問3題のうち小問集合が1題で、あとの2題はテーマ別の問題になっている。計算問題は毎年5問前後出題されているので、典型的な問題は解けるようにしておこう。また、小問集

合があるため出題範囲が多岐にわたる。特別難しい知識が問われるわけではないので、知識に偏りがあると思わぬ失点をして、ライバルに差をつけられるおそれがある。広く浅く知識の確認をしておくことが望ましい。

物理 (前期・1/30)

解答形式 ▶ マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	電磁気	ホール効果	空所補充	★★☆☆
2	力学	摩擦角、水平面内の円運動	空所補充・選択	★★☆☆

ここ数年、大問2題構成が定着し、力学と電磁気からの出題が多い。1日目、2日目の難度にほとんど差はなく、どれも基本～標準レベルの典型問題で構成されている。教科書傍用問題集や、市販の標準レベルの問題を解き込んでおけば、十分に対応できる。問題自体はそれほど難しくはない

が、煩雑な数値計算が要求されることが度々あるため、ケアレスミスすることなく丁寧に計算しないと、失点が積み重なってしまい合格点から遠ざかってしまう。過去問演習の際にも、丁寧な計算を心がけてほしい。

数学 (前期・1/30)

解答形式 ▶ マーク

問題の全体難易度 ★☆☆☆ 易

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野		内容	出題形式	難易度
1	確率	A	サイコロの目で定められる三角形に関する確率	空所補充	★☆☆☆
2	図形と方程式	Ⅱ	2直線のなす角、四角形・三角形の面積	空所補充	★☆☆☆
3	空間ベクトル	C	直線と平面の交点、三角錐の体積	空所補充	★☆☆☆
4	微分法の応用、 積分法の応用	Ⅲ	2曲線の直交条件、接線、面積、回転体の体積	空所補充	★★☆☆

大問1に9年連続で出題されている確率は、数え上げる問題が多い。大問3は1日目にベクトル、2日目に数列が出題される。大問4も8年連続で数学Ⅲの微分法・積分法が出題され、接線、法線、極値、変曲点、面積、体積といった典型問題の出題が多い。例年、問題の難度は高くなく計算量も多くないが、ゆっくりと解法を考えている時

間はないため、易しめの問題集で解法が瞬時に浮かぶようになるまで反復練習をするとよいだろう。図形が絡んだ問題も多く出題されているため、苦手な人は初等幾何、三角比、座標、ベクトル、複素数平面などの分野を超えた総合的な練習が必須。高得点が必要である。

化学 (前期・1/30)

解答形式 ▶ マーク

問題の全体難易度 ★☆☆☆ 易

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 適量

	分野	内容	出題形式	難易度
1	理論5問	原子とイオン、分子数、二段滴定、酸化還元反応、アボガドロ定数	空所補充・選択	★★☆☆
2	無機1問	様々な金属塩に関する性質と身近な用途	選択	★★☆☆
3	有機2問	フェノールとその誘導体の合成、アミノ酸中の元素の含有率	空所補充・選択	★★☆☆

小問集合8問。2科目で90分。小問数や難度は例年同様で、各位の数字を答えたり、正誤問題が出題された。上記は1日目だが、2日目は油脂や陽イオン交換樹脂のスルホン化の割合や等電点を利用したアミノ酸の分離も出題された。試験時間が短いので、解答しやすい問題から取

り組もう。物質質量計算、各物質の性質、糖類・繊維などの基本問題を広く学習しておくこと。過去問と併せて、メディカルラボの実力判定テストにもチャレンジしておこう。

金沢医科大学

2025年度 入試への 対策

【英語】

空所補充・同意語選択の出題率が高く読解の基礎となるので、「ターゲット1900」で語彙力をつける。以前より文法・語法に関する問題は減ったが、それでも空所補充などでは利用できるため、「ネクストステージ」は1冊しっかり仕上げておきたい。読解量が多いため速読に重点を置きがちだが、まずは「やっておきたい500・700」や「英語長文出題パターン演習2・3」を利用して精読から始めるとよい。いくら速く読んでも内容が理解できていないと、合格点には到達できない。速読はできた方がいいが、どうしても苦手であれば、精度を上げることで合格点に近づくこともできる。直前期には本学の過去問で時間配分を考えながら演習しておくこと。

【数学】

難度の高い問題は出題されないため、頻出分野を中心に『チャート』や『チェック&リポート』などの標準的な参考書や問題集で基本事項を習得し素早く扱えるように十分に演習に取り組んでおくことが重要である。確率では数え上げ、微積分は図を描いて面積を求めることはしっかり訓練しておく。同大学の過去問だけでなく、埼玉医科大学や獨協医科大学などの過去問で60分で4題解く練習も有効である。

【化学】

マーク形式。2科目90分。特有の出題形式のため、数年分の過去問やメディカルラボ『私立医学部大学別 実力判定テスト 金沢医科大学』などに取り組んで傾向や時間配分を把握しておこう。解きやすい問題が多いが、まれに点差のつく設問もある。『高校これでわかる化学基礎・化学』などを整理しておく。『ベストフィット化学基礎・化学』を繰り返して解答スピードを上げておこう。実験問題では実験の意義、器具の使用法や注意点にも気をつける。

【物理】

ここ数年、大問数、難易度が落ち着いてきており、来年度も2024年度入試と同程度の入試になることが予想される。教科書傍用問題集程度の問題集をやり込み、その上でここ数年の本学入試の過去問に取り組んでもらいたい。しかしながら、難易度等が落ち着くまでは、年度によって難易度や設問数に大きなブレが生じていたため、注意が必要である。年度によっては難易度が高く、解答の方針が立たないような問題も散見された。このような問題に出会った場合は、マーク形式の特性を生かして、選択肢や解答欄の形から逆算して解答の方針を立てるのも1つの手である。

【生物】

小問集合があり幅広い範囲が出題されるため、教科書の学習を全分野に渡ってきっちりと行う。『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりと基礎力を身につけよう。特に各分野の基本用語と典型的な計算方法の習得を意識して演習すること。その上で過去問を使って特徴的な出題に慣れておけば十分に対応できる。頻出の計算問題が苦手なら『ゼロからはじめる計算問題の解き方』や『大森徹の生物計算・グラフも問題の解法』を使って苦手を克服しておくこと。

愛知医科大学

2024年度
入試分析

英語

解答形式▶マーク

問題の全体難易度

★★★★☆ 標準

前年との難易度比較

やや易化

時間に対する分量

適量

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	文法・語彙	—	空所補充	選択	★★★★☆
2	語彙	—	単語完成	選択	★★★★☆
3	英作文	—	語句整序	選択	★★★★☆
4	読解	—	語・句補充	選択	★★★★☆
5	読解	人文・社会系 約650語	「本当にする必要のあることをした結果」についての長文問題(空所補充・同意表現選択・内容真偽)	選択	★★★★☆
6	読解	医療・科学系 約700語	「1日1万歩で健康になるのか」についての長文問題(空所補充・同意語選択・内容真偽)	選択	★★★★☆
7	読解	社会系 約500語	「入試でのマイノリティーへの優遇」についての長文問題(空所補充・同意表現選択・内容真偽)	選択	★★★★☆

大問1・2はやや難化しただが、例年難しい大問3・4がかなり易化し、大問5～7の読解問題がすべて標準的であったため、全体的にやや易化した。語句の空所補充が多いのが本学の特徴であるため、語彙・語法・イディオムなどの基本知識の習得が必要。文脈から判断する同意表

現選択や空所補充、そして内容真偽もあるため内容理解も欠かせない。大問4のような英文中に語句を補充する問もあるため、文構造の把握も意識して読解練習をするとおよい。他大学には見られない出題形式が多いため、過去問で出題形式に慣れておく必要がある。

数学

解答形式▶記述

問題の全体難易度

★★★★☆ 標準

前年との難易度比較

やや易化

時間に対する分量

適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	数学と人間の活動	A 約数の個数と総和	記述	★★★★☆
	確率	A 優勝者が決まる確率	記述	★★★★☆
	平面ベクトル	C 内積、三角形の面積	記述	★★★★☆
	微分法の応用	Ⅲ 極大値をもつ条件、極値	記述	★★★★☆
2	平面上の曲線	C 楕円に外接する長方形の対角線の長さ、面積の最大	記述	★★★★☆
3	数学と人間の活動、数列、極限	A、B、Ⅲ 不等式をみたす整数の個数とその和に関する極限	記述	★★★★☆

大問1は答えのみを記入する小問集合、大問2・3は過程も書かせる大問。確率、数列、極限、積分法の出題頻度が高い。定番の問題が中心で、近年は易しめと言える。以前は言い回しを変えてあったり、小問による誘導がなかった

りすることも多く、年度によって難度にかなりの差があった。公式や解法の丸暗記では解けないものも出題されるので、考える力が必要。典型問題の解法を習得した上で、標準的な国公立大用の問題集などで演習するとよい。

化学

解答形式▶記述

問題の全体難易度

★★★★☆ 標準

前年との難易度比較

変化なし

時間に対する分量

多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	理論	混合気体の二球問題(酸素、窒素、水素、水)、飽和蒸気圧	記述	★★★★☆
2	有機	エステル化合物の元素分析と構造決定、加水分解、不斉炭素原子数	記述	★★★★☆

大問2題。大問1は22年度と同じ単元の混合気体の圧力問題だが、有効数字3桁指定もあり計算量が相当多かった。大問2はエステルの構造決定だった。Cu、Alと続いた無機の総合問題がなく、念入りに無機を対策した受験生は驚い

たかもしれない。ぜひ本番では柔軟に対応してほしい。頻出の計算問題では、検算などで精度を高めておこう。近年、出題内容が変化しやすいので、どの分野もスピードを意識して解けるようにしよう。

生物

解答形式▶記述

問題の全体難易度

★★★★☆ やや難

前年との難易度比較

やや難化

時間に対する分量

多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	生物の進化と系統、生物の環境応答	生物 進化のしくみ、遺伝子突然変異、眼	空所補充・選択・記述・描図	★★★★☆
2	生物の環境応答	生物 受容器、動物の行動	空所補充・選択・記述	★★★★☆
3	生命現象と物質	生物 遺伝子の発現の調節	空所補充・選択・記述	★★★★☆

23年度と同様に大問3題構成の記述式。24年度は少なかったが、例年、論述問題が5～10問程度出題されることが多い。普段から用語の定義や現象を正しく表現できるように練習しておく必要がある。また、24年度も出題された描図問

題の出題頻度が比較的高いことも特徴的。日頃から教科書の図を意識して見る習慣をつけておく。本学の問題は近年徐々に難化している傾向がある。考え過ぎると時間が足りなくなるので、解ける問題から素早く解いていくことが必要だ。

物理

解答形式▶記述

問題の全体難易度

★★★★☆ 標準

前年との難易度比較

変化なし

時間に対する分量

多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学	傾いたベルトコンベア上での小物体の運動	選択・記述	★★★★☆
2	波動	縦波	選択・記述	★★★★☆
3	電磁気	質量分析器(電場・磁場中での荷電粒子の運動)	選択・記述	★★★★☆

例年通り、大問3題構成。大問1題あたりの設問数が多く、また問題文も比較的最長いため、すべての問題に取り組むための時間的余裕はない。問題の難度はそれほど高くはないが、教科書傍用レベルの問題集には掲載されていないようなテーマ(例えば24

年度の大問1のベルトコンベアなど)が出題されることもあるため、標準レベル以上の問題集を用いて様々な問題に触れておきたい。また、過去問演習を通じて、試験時間内ににより多くの正答をめざすため、問題を解く順番などの方策を練っておきたい。

愛知医科大学

2025年度 入試への 対策

【英語】

語句の空所補充が多いため「ターゲット1900」をしっかりと覚える。その際見出し語だけではなく、派生語や対義語などもすべて覚える。大問2に単語完成もあるため必ず綴りも書けるようにする。次に大問3や長文中で出題される語句整序の問題集の演習も欠かせない。最初は「英語整序問題が面白いほど解ける本」のような標準的な問題集から始め、「英語整序問題集精選600」で実践力を身に付ける。大問4の語・句補充は文脈だけではなく、文構造や文法的観点から判断するものもあるため、「英文熟考上・下」で英文解釈の練習し、「エバークリーン」を読んで、関係詞と接続詞の役割を理解する。最後に読解だが「やっておきたい英長文300・500」や「1日30分・40分の英長文」などを使って、語句と文構造を意識した精読を心掛ける。メディカルラボ生であればチェックテスト読解のベーシックBやスタンダードBは空所補充に特化した形式であるため、これを愛知医科大学対策に利用すると良いだろう。

【数学】

まずは『チャート』や『チョイス』などの標準的な参考書や問題集で定型的な問題の解法を身に付ける。ただし、表面的な解法の丸暗記では通用しないので、解法の本質をしっかりとつかむことが重要である。例えば、誘導がなくてもとけるようにしておきたい。その上で、『プラチカ』などの標準的な国公立大学用の問題集などで、複数の分野にまたがった総合的な問題の演習をするとよいだろう。

【化学】

記述形式。2科目100分で大問2題構成になっているが、例年、出題量が多い。確実に典型問題を解けるように『ベストフィット化学基礎・化学』『化学重要問題集』などをしっかり進めよう。理論では気体の性質、化学平衡、酸化還元、電気化学の計算力を強化しておく。有機では構造決定が頻出だが、天然高分子も対策しておこう。これまで出題が少ない合成高分子も語句・性質・計算の3点をチェックしておくとうい。

【物理】

問題の難易度は標準的であるが、発展的な問題集に掲載されているテーマが出題されることもあるので、できれば「名問の森」「重要問題集」まで取り組んでおきたい。また、設問数が多く時間的な余裕がないので、過去問を用いて「落とせない問題」と「後に回す（捨てる）問題」を事前に区別し、時間内に合格点が獲得できる戦略を練っておきたい。

【生物】

『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を仕上げた上で、余裕があれば実験問題を中心に『生物標準問題精講』など発展的な問題集にも取り組むと良い。論述問題が多いので、『記述・論述問題の完全対策』などで学習しながら、普段から用語の定義や内容を自分でアウトプットできるように練習しておく必要がある。また、描図問題もよく出題されるので、有名なグラフや図は教科書や資料集を参考にして書けるようにしておくとうい。

藤田医科大学

2024年度
入試分析

英語 (前期)						解答形式▶記述／マーク
問題の全体難易度 ★★☆☆ やや難		前年との難易度比較 → 変化なし		時間に対する分量 多い		
大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度	
1	文法	—	空所補充	選択	★★☆☆	
2	英作文	—	語句整序	選択	★★☆☆	
3	読解	社会・科学系 約550語	「靴の裏の汚物の考察」についての長文問題(空所補充・内容一致)	選択	★★☆☆	
4	読解	医療・科学系 約700語	「近視の進行を遅らせる眼鏡」についての長文問題(空所補充・同意語選択・内容一致)	選択	★★☆☆	
5	読解	人文系 約900語	「話し言葉と音楽が持つ粒子化したシステム」についての長文問題(内容説明・文補充)	記述・選択	★★☆☆	
6	読解	医療系 約350語	「尿による精神疾患の検査」についての長文問題(和文英訳)	記述	★★☆☆	

大問5の読解内容は23年度より難化した。その他の大問は標準的だった。大問1・2は単語や熟語を覚えるだけではすべてを正解できない。文法を根本からしっかりと理解し、応用力をつけることを意識して学習する。マーク式の読解は標準的ではあるが、論理的

に考えて解答しなくてはならない。大問5は記述中心の出題で、まず解答の中心となる箇所を見つけ、和訳する練習から始めたい。そのため解釈の練習は欠かせない。英作文は近年、易化傾向にあるので制限英作文の問題集を1冊仕上げれば十分対応できる。

数学 (前期)						解答形式▶記述／マーク
問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準		前年との難易度比較 → 変化なし		時間に対する分量 適量		
大問	分野		内容	出題形式	難易度	
1	確率	A	サイコロの目の確率	空所補充	★★☆☆	
	数学と人間の活動	A	約数の個数	空所補充	★★☆☆	
	図形と計量	I	なす角の最大	空所補充	★★☆☆	
	図形と方程式	II	内接円の半径	空所補充	★★☆☆	
	数と式	I	対称式	空所補充	★★☆☆	
	2次関数	I	2変数関数の最小	空所補充	★★☆☆	
	積分法	II	定積分	空所補充	★★☆☆	
	複素数平面	C	偏角	空所補充	★★☆☆	
	指数関数・対数関数	II	式の値	空所補充	★★☆☆	
	微分法的应用	III	逆関数の微分係数	空所補充	★★☆☆	
2	極限	III	漸化式で定められる数列の無限級数	記述	★★☆☆	
3	図形と方程式・積分法的应用	II、III	点の存在領域の図示、面積、回転体の体積	記述	★★☆☆	

23年度は半数が数学Ⅲからの出題だったが、その反動か数学Ⅲからの出題が減った。大問1のマーク式の小問集合は23年度と大差はなく、基本的な問題も多く出題された。過年度の大問1ではデータの分析、循環小数、正多面体なども出題されているの

で注意したい。例年、大問2・3のどちらかは難度の高い問題が多い。かなりの知識と思考力が必要な問題も多く、難関大や国立大の問題をどれだけ数多く経験しているかがポイントとなるだろう。小問集合のできが合否を分けていると考えられる。

化学 (前期)						解答形式▶記述
問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準		前年との難易度比較 → 変化なし		時間に対する分量 多い		
大問	分野		内容	出題形式	難易度	
1	理論		電気分解、陽・陰イオン交換膜	空所補充・記述	★★☆☆	
2	理論、無機		窒素酸化物の特徴、生成反応、化学平衡、圧平衡定数	選択・記述	★★☆☆	
3	小問3問(理論)		典型元素の原子の性質、モル濃度、結合エネルギー	選択	★★☆☆	
4	有機		エステル構造決定	空所補充・記述	★★☆☆	
5	有機		ペプチドの検出反応、アミノ酸同定、構造式	記述	★★☆☆	
6	有機		様々な合成繊維の重合様式、ビニロンの合成と生成量	空所補充・記述	★★☆☆	

大問6題。天然・合成高分子化合物を含む各分野からの典型問題だが、空所補充や計算問題(有効数字指定)が多く、解答スピードが必要だった。20字の論述も出題された。23年度と同様、有機の構造決定で差がついた。本番では迅速に知識

問題を解いて、計算問題と有機に取り組もう。本学のWebサイトなどで前期・後期の過去問をチェックして形式や難度に慣れておこう。メディカルラボの実力判定テストも有効である(23年度実施分で窒素酸化物の化学平衡の類題あり)。

生物 (前期)						解答形式▶記述
問題の全体難易度 ★★☆☆ やや難		前年との難易度比較 → 変化なし		時間に対する分量 多い		
大問	分野		内容	出題形式	難易度	
1	生物と遺伝子、生命現象と物質	生物基礎、生物	細胞周期、DNAの複製	選択・記述	★★☆☆	
2	体内環境の維持	生物基礎	ヒトの血液循環	選択・記述	★★☆☆	
3	生命現象と物質	生物	オペロン説	選択・記述	★★☆☆	

23年度から1題減少して大問3題構成の記述式。単純な知識問題ではなく、リード文を読んで考えさせる問題が多い。論述問題、計算問題は例年通り出題されている。24年度は出題されなかったが、描図問題は過去に何度も

出題されているので、日頃から教科書の図を意識して見る習慣をつけておく。見慣れない問題や内容が分かりにくくて解きにくい問題が出題されることがあるので、過去問で感覚をつかんでおくとうい。

物理 (前期)						解答形式▶記述
問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準		前年との難易度比較 ↓ 易化		時間に対する分量 適量		
大問	分野		内容	出題形式	難易度	
1	力学		剛体のつり合い	記述	★★☆☆	
2	力学		ひもでつながれた棒とおもりの運動、剛体のつり合い、エネルギー	記述	★★☆☆	
3	熱力学		$P-V$ グラフを用いた気体の状態変化	記述	★★☆☆	
4	電磁気		電場中での電子の運動	記述	★★☆☆	

ここ数年は大問4題で構成され、力学、電磁気から3題、残り1題を波動、熱力学のどちらからか出題されている。過去には原子の知識を問う問題も出題されているため、原子分野の学習もおろそかにはできない。24年度は、23年度に比べ易化し、非常に解きやすかったものと思われる。

例年、基本～標準レベルの問題で構成され、いわゆる奇問・難問は見られないが、力学の問題は計算量が重たくなる傾向にあるため、時間配分には十分に気をつけること。出題形式は、記述、選択、描図と多岐にわたる。過去問を通じて慣れておきたい。

藤田医科大学

2025年度 入試への 対策

【英語】

大問1・2は、どの問題集でも扱うような基本事項が出題されることは稀で、文法書には書いてあるが、それほど意識しなようなことも出題されるので注意。対策としては文法書「エバーグリーン」を読み理解してから、「ネクスト・ステージ」を1冊仕上げる。その際に暗記に頼るのではなく、なぜそれが答えになるのかを考え、消去法で解くとよい。余裕があれば語句整序の問題集「英語整序問題集精選600」も演習するとよい。大問3・4の読解対策は「英語出題パターン2・3」を演習するとよい。ラボ生ならチェックテスト読解のベーシックA・スタンダードA・Bを演習すると、本学で扱っている内容に近い題材の英文が多くあり、出題形式も似ているので積極的に利用して欲しい。大問5の長文は「やっておきたい英長文700」で練習し、チェックテストハイレベルBを利用するとよい。大問6の英作文は「英作文のトレーニング必修編」で十分対応できる。最後に過去問演習で時間の使い方を考える。

【数学】

小問集合対策としては、全範囲の基本的な知識の整備が欠かせない。『チャート』などの標準的な参考書の例題は全範囲にわたって解法をマスターし、最後まで自分の力で正解を出す練習を重ねておきたい。小問集のできが合否に大きく影響する。大問対策としては、国公立大学用の対策が必要である。『チョイス』、『プラチカ』、『スタンダード演習』などの入試用問題集でしっかり練習を積み、また、答えを合わせることよりも解法の本質をつかむ訓練が重要である。さらに余裕があれば、少し難しめの国公立大学の2次試験の問題で論証の練習をするとよい。

【化学】

記述形式。標準レベルが多いが、出題量が多く解答スピードが必要である。まれに高度な解答力が必要となる。前期・後期の過去問はともに攻略しておくとうい。『化学の新演習』の★★レベルを押さえておきたい。例年、正誤や文字式計算、グラフが多い。滴定実験、化学平衡、化学反応式、構造決定や高分子計算が重視されている。24年度で類題出題のあったメディカルラボ『私立医学部大学別 実力判定テスト 藤田医科大学』が有用である。

【物理】

本学入試の特徴は、①力学の出題では「剛体のつり合い」が頻出であること、②設問数が極端に少ない問題が出題されることがあることである。まずは、入試標準レベルの問題集を用いて、剛体のつり合いについての様々な問題に触れておくといだろう。また、設問数が少ない問題の対策としては、問題集の問題の最後の設問を、途中の誘導なしで自力で解く訓練を積んでもらいたい。

【生物】

『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を仕上げた上で、余裕があれば実験問題を中心に『生物標準問題精講』など発展的な問題集にも取り組むと良い。人体に関連のある分野の詳細な知識問題への備えは必要であり、資料集や詳しい参考書を活用して対策をしておく必要がある。例えば、肝臓、腎臓、脾臓などヒトの臓器や、受容器・神経・筋肉に関するやや詳細な問題が頻出するので、資料集などを使ってまとめておくとうい。問題集で見たことのないような初見の問題や内容がわかりにくい問題が出題されることがあるので、過去問を使って慣れておくべきである。

大阪医科大学

2024年度 入試分析

英語(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	医療系 約950語	「コロナ患者の病棟で働く医師」についての長文問題(英文和訳・内容説明)	記述	★★★☆☆
2	読解	人文・科学系 約750語	「2か国語を話すことは認知能力の助けになるか」についての長文問題(英文和訳・内容説明)	記述	★★★☆☆
3	英作文	—	和文英訳	記述	★★★☆☆

難度は23年度通りだが、出題形式に変化があった。23年度までは読解問題7題中6題が下線部和訳だったが、24年度は下線部和訳4題、内容説明3題となった。英文の難度は標準的で難解な語や構文はなく、内容理解を前提とし

た表現力重視の問題。英作文も標準レベルである。読解対策としては解釈系の問題集で日本語に直す練習と、国公立大2次対策問題集で内容説明の練習をする。英作文対策は制限英作文の標準問題集を最低1冊は仕上げる。

数学(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ やや難

前年との難易度比較 やや易化

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	極限	Ⅲ 漸化式で定められる数列の極限	記述	★★★☆☆
2	空間ベクトル	C 折れ線の長さの最小	記述	★★★☆☆
3	微分法の応用	Ⅲ 2曲線が接する条件、実数解条件	記述	★★★☆☆
4	微分法の応用、 積分法の応用	Ⅲ 曲線の通過領域の面積	記述	★★★☆☆

24年度から90分で4題となった。そこそこの難度の問題が4題並んだため、通して解くにはしっかりとした力が必要である。論述力の差がつきそうな問題が多く、近年は微分法・積分法、確率、複素数平面、整数の出題が多く、証明問題も毎年多数出題されている。公式を適用するだけ

で解けるような問題ではなく、計算量が多い年度もある。国公立大の2次試験でよく見られるような融合問題や誘導問題が多いので、標準的な国公立大の誘導形式の問題を十分に練習しておくとい。簡潔で要領を得た答案を作成する練習もしておくべきだろう。

化学(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 やや易化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	有機	(1)アセチル基とヨウ素、(2)クメン法・解熱剤、(3)酸化反応・グルタチオンとの結合	空所補充・記述	★★★☆☆
2	理論	ダニエル電池、ファラデー定数、電気素量からのアボガドロ定数	記述	★★★☆☆
3	有機	核酸(DNA、RNA)、塩基の構造、塩基対	空所補充・選択・記述	★★★☆☆
4	有機	アミノ酸の電離平衡、トリペプチドの呈色反応、電気泳動、陽イオン交換樹脂による分離	空所補充・選択・記述	★★★☆☆

大問4題。内容は多岐にわたるが、有機は3題と多かった。出題量が多めだが、大問1の一部の類推を要する問題以外は解きやすい問題が多く、しっかりと得点を重ねる必要があった。有効数字3桁問題も迅速に計算を進め

てほしい。理由説明などの論述問題では、的確に記載することが大切。ハイレベルな問題集の攻略だけでなく、前期対策でも後期の過去問にまで取り組み、出題レベルと内容を把握して本番に挑もう。

生物(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	体内環境の維持	生物基礎 免疫	空所補充・選択・記述・描図	★★★☆☆
2	生物の環境応答、 生態と環境	生物 ミツバチのダンス、血縁度	空所補充・記述	★★★☆☆
3	体内環境の維持	生物基礎 インスリン、糖尿病	空所補充・選択・記述	★★★☆☆
4	生殖と発生	生物 ニワトリの発生・分化	空所補充・選択・記述	★★★☆☆

23年度と同様に大問4題構成の記述式。知識問題は基本的、標準的な問題が多く、正確で深い理解が問われている。論述問題は毎年出題され、知識論述の問題が多いので、普段から言葉の定義や現象を正しく表現できるよう

に練習しておく必要がある。計算問題は典型的な問題が出題されることが多い。24年度も出題された描図問題がよく出題されるので、日頃から教科書の図を意識して見る習慣をつけておく。

物理(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学	摩擦のある固定台・可動台上での物体の運動	記述・空所補充	★★★☆☆
2	熱力学	気球	記述	★★★☆☆
3	電磁気	RC回路	記述・空所補充	★★★☆☆
4	小問集合	組み合わせレンズ、磁場中における電荷の円運動、水素原子のエネルギー準位、放射能の強さ	記述・空所補充	★★★☆☆

大問4題構成で、そのうち1題は小問集合。小問集合では、電力輸送や次元解析に関する問題が頻繁に出題されている。過去問を用いて、これらの問題には慣れておきたい。ここ数年は、基本～標準レベルの問題が出題されており、比較的解答しやすかったと考えられる。しかし、過去には思考

力が試される問題や、問題集ではあまり見かけない問題が出題されたこともあるため、どのような難度の問題が出題されても対応できるよう、過去問研究をしっかりと行うておくこと。

大阪医科薬科大学

2025年度 入試への 対策

【英語】

まずは「ターゲット1900」で基本的な語彙力をつける。次に解釈系の問題集「英文解釈の技術70」や「英文熟考上・下」を利用して、文構造を意識しながら、英文を自然な日本語に訳す練習を積む。今年度から3題に増えた内容説明対策として「1日40分の英長文」や「やっておきたい英長文700」を利用して、内容理解中心の演習を心掛ける。昨年度までは指示語の内容を明確にする問題があったので、英文中の指示語も意識する。大問3の英作文対策はZ会の「英作文のトレーニング・必修編」から始め、余裕があれば「実践編」まで演習する。最終的には過去問を利用する。2021年度以降難易度がやや易化したので2021・2022・2023年度の過去問を中心に演習するとよい。2020年以前も形式はほぼ同じなので、これらも利用することは可能である。記述のみの出題であるため第3者に添削してもらう必要がある。

【数学】

まずは、『プラチカ』や『スタンダード演習』などを用いて標準的な国公立大学の誘導形式の問題演習を行うのがよい。数Ⅲは『1対1対応の演習』で標準レベルをマスターし、『やさしい理系数学』や『数学Ⅲスタンダード演習』まで練習するのが望ましい。その上で難関大学の過去問などでハイレベルな問題演習を重ねていくとよいだろう。簡潔で要領を得た答案を作成する練習もしておいた方がよい。易しい順に問題が並んでいるわけではないので、問題の難度を見抜く力も必要である。

【化学】

記述形式。『化学重要問題集』で基礎固めして『化学の新演習』などの難易度の高い問題で対応力をつけた上で、難関国公立大学や本学前期・後期の過去問にも取り組もう。論述問題の対策も必須で、理由説明が出題されている。差がつく大問1～2題が勝負どころなのである。近年、合成高分子の出題がないが、今後の出題を想定しておこう。教科書の発展的内容の理解や関連物質の融合問題に取り組んで応用力をつけておくとよい。

【物理】

ここ数年は、典型問題からの出題が目立つ。この傾向はしばらく続くと予想されるが、過去には難易度が高い問題も出題されたことがあるため、標準レベルの問題集だけではなく、少し発展的な問題（標準問題精講、本学過去問など）にも取り組んでおきたい。また、小問集合内における電力輸送や次元解析の問題は頻出であるので、過去問を利用して対策をしてもらいたい。また、小問集合は他の大問に比べ時間がかかる傾向にあるため、小問集合は後回しにするなど、試験時間の使い方には気を付けてもらいたい。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりとした基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に解く力をつけること。論述問題は『記述・論述問題の完全対策』などで学習しながら、普段から用語の定義や内容を自分でアウトプットできるように練習しておく必要がある。また、描図問題もよく出題されるので、教科書や資料集などで有名なグラフや図を確認するクセをつけておくこと。

関西医科大学

2024年度
入試分析

英語(前期)

解答形式▶記述／マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↓ やや易化

時間に対する分量 多い

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	人文系 約950語	「Z世代がスマートフォン以前の携帯電話を好む理由」についての長文問題(内容真偽)	選択	★★☆☆
2	読解	医療・科学系 約900語	「健康にとって大切な腸内細菌叢」についての長文問題(内容一致・同意表現選択・同意語選択・語句整序・内容説明・指示語指摘・空所補充)	選択・記述	★★☆☆
3	英作文	—	「1940年～2010年までの日本の年齢別人口構成と2060年までの予想」について100語程度の自由英作文	記述	★★☆☆

読解2題と自由英作文1題の3題からなる形式に変化はなかった。大問1は23年度通りだったが、大問2は英語による内容説明がなくなり、記述はすべて本文中から抜き出す形式になった。大問3は23年度と同様、100語程度の自由英作文が出題されたが、グラフから読み取った内

容を客観的に説明するパートと、それについての主観的な意見を述べる2つのパートからなる形式へと変更された。読解はそれほど難しくないが、合格には英語での表現力が必要となるため、類題が出題される広島大の過去問で練習しておくとうい。

生物(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ やや難

前年との難易度比較 ↑ 難化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問集合	生物基礎、 生物	抗体、細胞小器官、ヒトの生殖細胞形成、独立栄養生物、マウスの細胞、発酵食品、標識再捕法、人類の進化	選択・記述 ★★☆☆
2	生物の環境応答、 多様性と生態系	生物基礎、 生物	植物の開花、光発芽種子、先駆植物	選択・記述 ★★☆☆
3	体内環境の維持、 生殖と発生	生物基礎、 生物	カイコガのホルモン、遺伝	選択・記述 ★★☆☆
4	生殖と発生、 体内環境の維持	生物基礎、 生物	器官形成、ホルモン	空所補充・ 選択・記述 ★★★★

23年度と同様に大問4題構成の記述式。大問の小問集合は、毎年8～10問出題され、24年度は8問だった。「すべて選べ」という形式で問われる問題が非常に多く、順に並べて指定の順番にくるものを複数答える問題もあるので、

正確な知識が要求される。大問2～4は、近年はオーソドックスな内容で標準レベルの問題が中心だったが、24年度は考察問題が増加し、かなり難度が上昇した。時間内に解き切るのは難しかったかもしれない。

数学(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★★★ 難

前年との難易度比較 ↑ やや難化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	データの分析、 複素数平面	I、C	余弦で定められるデータの相関係数	記述 ★★★★
2	数学と人間の活動、 数列	A、B	2進数をもとにした記数法	記述 ★★★★
3	複素数平面	C	2軌跡の共有点の個数	記述 ★★★★
4	図形の性質	A	3円と3接線における辺の長さ	記述 ★★★★

22年度から全問が論述形式となった。23年度から大問数が5題から4題に減少し、難度が非常に上がっている。各問題には、しっかりと考えて取り組みたい問題が並んでおり、計算量も多く、完答は厳しめである。複数の解法を使い分けられる力と、迅速かつ正確な計算力が必要だ。

典型解法を一通り学習したあと、標準レベルの問題集で解答作成の練習をしておくとうい。なお、16年度から22年度までは、領域やグラフを図示する問題が出題されていた。

物理(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ やや難

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学	衝突、単振動	記述・描図	★★☆☆
2	電磁気	電磁血流計の原理(電磁誘導)	記述	★★★★
3	波動	シャボン玉薄膜による光の干渉	記述	★★★★
4	熱力学	ボイルの法則	記述	★★★★

大問4題構成。問題集に掲載されているような典型問題はもちろんのこと、24年度の大問2の電磁血流計の原理のような、医学、工学に関連した内容が出題される。これらの問題は、内容自体は高校物理の範囲を逸脱しているが、高校物理を用いて解けるように工夫がなされているため、丁寧に問題文を読み、誘導にうまく乗って解答を

進めていきたい。また、表やグラフを読み取る出題が続いているので、過去問演習を通じて慣れておくこと。また、答えを出すだけでなく、途中の考え方も要求されることが多いので、日頃から正解へのプロセスを簡潔にまとめる習慣をつけておこう。

化学(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ やや難

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	理論、無機	単原子分子、凝析、極性分子、同素体/同族体、物質の反応性	選択・記述	★★☆☆
2	理論	三態図における状態、混合気体の各気体の物質質量	記述	★★☆☆
3	理論、無機	硫黄の単体や化合物の反応	空所補充・記述	★★☆☆
4	理論、有機	アルカンの異性体数、ガソリンの燃焼エネルギー、燃料電池、合成燃料	選択・記述	★★★★

大問4題。大問1は小問3問。大問2の気体や、大問4の熱化学は、本学特有の計算量が多い問題で計算力が試された。また、異性体数も多く、精度よく書き出さなければならなかった。本番は標準問題を解いた上で、このよ

うな難度の問題を少しでも多く解けると有利になる。24年度の大問4の自動車の燃料のように、環境や生活に関する化学的内容も頻出なので、能動的に調べておくとういだろう。過去問も前期、後期ともに活用しよう。

『2024年度用全国医学部最新受験情報』より

関西医科大学

2025年度 入試への 対策

【英語】

本学は形式が大きく変更することがあるため注意しておきたい。1,000語程度の読解と英作文の演習が対策としては欠かせない。読解は「やっておきたい英長文700・1,000」を利用して内容理解中心に演習する。大問1の内容真偽はほぼすべての段落の内容が問われるため、段落要約しながら、英文全てを読むよう心掛ける。大問2の記述は今年度の本文から抜き出す形式なら問題ないが、昨年度のように自分で英語を書かなくてはならないこともあるため、内容説明を英語で書いてみるなどの工夫ができればなおよい。英作文は「Z会 英作文のトレーニング必修編・自由英作文編」を使って英語での表現力を高めてから、同じ形式の広島大学の過去問で練習しておく。今年度と昨年度の過去問は必ず解いておく。出題形式が変わっても、長文の内容理解と英作文を中心に学習すれば対応できるはずである。

【数学】

まずは『チャート』や『チョイス』などの標準的な参考書や問題集で定型的な問題の解法を身に付ける。その上で、『プラチカ』などの標準的な国公立大学用の問題集などで、複数の分野にまたがった総合的な問題の演習をするとよいだろう。ハイレベルな理工系学部の過去問で難度の高い誘導形式の問題演習に取り組むのもよい。2023年度の出題はなかったが、2016年から2022年まで領域やグラフを図示させる問題が出題されているので演習はしっかり積んでおきたい。

【化学】

記述形式。計算問題が頻出で、計算量が多いことがある。『エクセル化学〔総合版〕』『化学重要問題集』などの解答スピードを上げて精緻にできるようにしよう。『化学の新研究』や教科書の発展的内容に取り組み、問題集で扱われにくい反応過程や現象、日常や生命に関連する化学物質をおさえておく。例年、大学HPで問題とあわせて解答がいち早く公開されているので参考にしよう。しっかり前期・後期の過去問演習に取り組むとよい。

【物理】

問題自体は非常に難易度が高い。しかしながら合格点を獲得するためには、難易度が高い問題よりは、典型問題をとれただけ正答できるかにかかっている。入試本番では、見たことないような問題は後に回し、問題集で見たことのあるような典型問題から丁寧に解答していくといいだろう。一通り典型問題を解き終わったあとに、残った時間を高難度の問題を丁寧に仕上げていきたい。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりと基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に速く解く力をつけること。15年度以降、大問1は小問集合である。「すべて選べ」の形式が多く、正確な知識が必要となる、本学の過去問はもちろん、兵庫医科大学の大問1も同様の形式なので取り組んでおくとうい。頻出である計算問題の対策もしておこう。「体内環境」、「代謝」、「遺伝情報とその発現」の出題頻度が高くなっているため、この分野に関しては特に資料集なども使いながらより細かく発展的な $+\alpha$ の知識をつけておくとうい。

近畿大学

2024年度 入試分析

英語(前期)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度

★★★★☆ やや難

前年との難易度比較

変化なし

時間に対する分量

多い

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
A~C	語彙	—	空所補充・同意語選択	選択	★★★★☆
D・E	読解	医療・科学系 約400語	「ペーサーの病のDNA分析」についての長文問題(同意語選択・内容一致)	選択	★★★★☆
F・G	読解	人文・科学系 約350語	「ChatGPT に対する教育現場の反応」についての長文問題(同意語選択・内容一致・内容真偽)	選択	★★★★☆
H	読解	人文・社会系 約1,100語	「若者の危険行動に関する新説」についての長文問題(内容一致・同意表現)	選択	★★★★☆

出題形式に変化はない。A~Cは23年度より易化した。D・E・Hの語彙レベルが高く、Hには紛らわしい選択肢もあるため、全体の難度はやや難のままである。英文中の語彙レベルは高いが、設問は段落ごとの内容一致問題が多く、解答しやすいものの、選択肢の語彙レベルが高

いと苦勞する。そのためまずは語彙レベルを上げる。次に段落ごとの内容一致問題対策として、他の私立大医学部(東北医科薬科大・岩手医科大)の過去問で練習し、最後に過去問を時間内に解答できるようにする。

生物(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度

★★★★☆ やや難

前年との難易度比較

変化なし

時間に対する分量

適量

大問	分野	内容		出題形式	難易度
1	生命現象と物質	生物	呼吸	空所補充・記述	★★☆☆
2	生命現象と物質、 生殖と発生	生物	遺伝子、ABO 式血液型	選択・記述	★★☆☆
3	体内環境の維持	生物基礎	免疫	空所補充・選択・記述	★★★★☆

23年度と同様に大問3題構成の記述式。論述問題の解答が書きにくいので時間的な余裕はあまりない。様々な字数指定の論述問題が大問ごとに複数含まれている場合が多い。生物用語や現象を説明できるように、日頃から練

習をしておく。24年度は出題されていないが、描図問題がよく出題される。日頃から教科書の図を意識して見る習慣をつけておく。推薦型選抜も一般選抜の問題と似た形式なので、過去問演習では両方とも取り組んでおこう。

物理(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度

★★★★☆ やや難

前年との難易度比較

やや難化

時間に対する分量

適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	電磁気	半導体、ホール効果	空所補充	★★★★☆
2	波動	台車に載せられた水槽での水面波の干渉、ドップラー効果、速度の合成	空所補充	★★★★☆

23年度までは大問3題構成であったが、24年度は大問2題構成となり、各大問の中で複数の問題に分かれる形式となった。また、23年度まで頻出だったグラフの描図問題については、24年度は出題されなかった。問題自体の難度はそれほど高くないが、出題されているテーマが問題集に掲載されているような典型的なものではなく、

テーマを説明するための問題文の量も非常に多いため、問題の意味を理解するまでに多くの労力を必要とする。そのため受験生によっては、問題の意味が理解できず大失点してしまう可能性がある。焦らず、問題文を丁寧に読み込んで解答を進めること。

数学(前期)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度

★★★★☆ 標準

前年との難易度比較

変化なし

時間に対する分量

適量

大問	分野		内容	出題形式	難易度
1	図形と方程式、 三角関数	Ⅱ	2円周上の2点間距離、2直線のなす角	空所補充	★★☆☆
2	数列	B	ガウス記号で定められる数列の和	空所補充	★★★★
3	対数関数	Ⅱ	関数の最小、桁数、最高位の数	空所補充	★★☆☆

24年度から他学部と共通の問題となり、出題形式もマーク式に変わった。出題範囲は数学Ⅰ・Ⅱ・A・B(数例)・C(ベクトル)。難問は見当たらず基本的な問題が多いが、文字に関する計算力、場合分け、空間図形の把握などが要求されることも多く、十分な考察が必要だ。24年度は

大問1で場合分けして総当たりが必要で、大問3は正面から計算すると非常に煩雑で、図形に気づけば難なく解けるといった出題だった。手間がかかる問題が多く、60分という試験時間ではかなり厳しいだろう。形式、難度がほぼ同じなので、推薦型選抜の問題も練習に使える。

化学(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度

★★★★☆ やや難

前年との難易度比較

やや難化

時間に対する分量

多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	理論	(1) ハロゲン、ハロゲン化水素、酸化力、電離平衡 (2) アンモニア逆滴定	空所補充・記述	★★★★☆
2	理論	分配平衡による分離	記述	★★★★☆
3	有機	ナイロン66の合成、ピニロン、アセタール化	空所補充・記述	★★★★☆

大問3題。大問1は、異なる2つの内容から構成されていた。大問2は、解いた経験が有利になるような内容で可否を分けた。大問3は、標準的な合成高分子化合物の計算で、この分野をしっかりと準備した受験生には問題なかつ

ただろう。計算や化学反応式の割合が多く、計算過程の記載欄もあるので、推薦型選抜や後期の過去問も取り組んでおこう。メディカルラボの実力判定テストを活用するとよい(23年度実施分でハロゲン元素の類題あり)。

近畿大学

2025年度 入試への 対策

【英語】

まずはターゲット1900で語彙の土台を作る。本学は更に高いレベルの語彙力を要求しているので、「鉄緑会英単語・熟語 鉄壁」や英検準1級の単語帳まで学習するとよい。純粋な文法問題はあまり出題されないので「ネクストステージ」の語法・熟語・語彙の分野を中心に学習する。読解は選択問題の多い「英語長文出題パターン演習2」から始める。次に「英語長文出題パターン演習3」で英文内容の理解だけではなく選択肢の吟味の仕方も学習する。仕上げとして他大学（埼玉医科・岩手医科・東北医科薬科・東海・久留米など）にも段落ごとの内容一致問題があるので、これらの問題で出題形式に慣れる。本学の選択肢は他の大学よりも語彙レベルが高く、選択肢が複雑であり、分量も多いので、直前期には必ず本学の過去問（主に2021年以降のもの）を演習する。

【数学】

60分で大問3で手間のかかる問題も多いため、瞬時に解法が浮かぶようになるまで『チャート』などの標準的な参考書を繰り返し学習し、その上で、誘導形式の問題を数多く演習しておくことよい。複雑な場合分けや、場合の数の数え上げなどをテキパキこなして正解を出す練習を重ねておきたい。また、短時間に集中して解くことにも慣れておくことも重要である。

【化学】

記述形式。『エクセル化学〔総合版〕』『化学重要問題集』などで理論の計算と有機の構造決定を確実にマスターしておく。解答例を参考にして、計算過程の記述スキルを上げておく。新規性のある設問が含まれることがある。良問揃いの過去問（推薦・前期・後期（17年度以降））で演習を積んでおこう。高分子は特に計算対策をしておこう。24年度前期で類題出題がある『私立医学部大学別実力判定テスト近畿大学』をオススメする。

【物理】

問題集などで見かけないテーマが扱われるので、一見難しそうに見える入試である。しかしながらこの手の問題は、問題文をしっかりと読み込んで問題の意図をとらえることができれば、それほど難しいものではない。過去問（推薦入試のものも含む）を利用して、問題文から問題の意図を読み取る訓練を積んでおきたい。また、過去にはグラフの描図問題や原子からの出題が頻出であったため、これらに対しても過去問を用いて対策しておきたい。

【生物】

まずは『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に速く解く力を身につけよう。「免疫」や「動物の反応」などの人体に関わりが深い分野では、細かい知識を問われる場合もあるので、資料集などを使い深く広い学習をしておくこと。字数制限のある論述問題が頻出で、ここが合否を分ける。そのため、『記述・論述問題の完全対策』などで演習し、十分な対策をしておこう。また、推薦入試と一般入試に問題レベルの差はほとんどなく、形式も似ているため、特に長文の論述対策として過去問演習でどちらにも取り組んでもらいたい。

兵庫医科大学

2024年度 入試分析

英語

解答形式 ▶ 記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 少ない

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	医療系 約600語	「目的意識が健康に寄与する」についての長文問題(英文和訳・指示語指摘・語句整序)	記述	★★☆☆
2	読解	人文系 約700語	「言語学習の手助けとなるゼスチャー」についての長文問題(同意語選択・指示語指摘・英文和訳・空所補充)	記述	★★☆☆
3	読解	医療・科学系 約400語	「植物と触れ合うことと健康」についての長文問題(英文和訳・空所補充・語句整序・同意語選択)	記述	★★☆☆
4	英作文	—	和文英訳	記述	★★☆☆

読解3題、英作文1題の出題形式は23年度通り。記述問題はありますが、大問4以外は標準レベル以下であるため取り組みやすい。読解問題では段落ごとの内容一致や内容真偽は全く出題されず、代わりに語句整序、空所補充、同意語選択、英文和訳が出題されるため、全体的な内容

の把握より、文法・語法・語彙・文構造などを意識した精読に重点を置いた方がよい。大問4の和文英訳は難しかったため、英作文の基礎を確立したあと、過去問や大阪医科薬科大の過去問でしっかりと練習しておく。

数学

解答形式 ▶ 記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	平面ベクトル	C 距離が最小になる点	記述	★★☆☆
	確率	A 誕生月が同じ確率	記述	★★☆☆
	図形の性質	A 円周角、内接四角形	記述	★★☆☆
	複素数平面	C 距離の最大	記述	★★☆☆
	三角関数	II 最大・最小	記述	★★☆☆
2	図形の性質、数列	A、B 格子点、内心・外心の座標	記述	★★☆☆
3	微分法的应用、積分法的应用	III 大小比較、定積分で定められる関数の微分係数	記述	★★☆☆

大問1は、小問集合で幅広い範囲から基本的な問題が中心に出題される。大問2・3は誘導形式の大問で難度にかなりの差があり、知識・経験の有無が左右する問題が多い。典型解法を習得した上で過去問を解いて本学の問題に慣れ

ておくとうい。難度の高い問題の対策としては、難関大や国公立大の問題で思考力を養うことが効果的だろう。また、最低限の論述はするように心がけたい。

化学

解答形式 ▶ 記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↑ やや難化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	理論、無機	第3周期元素の性質、酸化還元滴定、固体(無水物)の溶解度	選択・記述	★★☆☆
2	理論	ヨウ化水素の化学平衡	記述	★★☆☆
3	有機	多糖類のメチル化、天然染料の反応過程(インジゴ、ロイコインジゴ)	記述	★★☆☆

大問3題で、理論主体の2題、有機1題からなる。大問1を素早く解き、以降の計算問題にしっかりと取り組む必要があった。大問2のグラフ描図や、大問3のインジゴの構造把握もポイント。それ以外は標準の内容が多かった。解答用紙

の大きめの解答欄に、計算導出過程や簡潔な論述を記載する形式が続いている。本学のWebサイトに掲載されている過去問の模範解答を参考に、自分の解答をチェックしよう。メディカルラボの本学実力判定テストで慣れておくとうい。

生物

解答形式 ▶ 記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ やや難

前年との難易度比較 ↓ 易化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問集合	生物基礎・生物 S-S結合、原形質流動、浸透圧、原核生物の転写・翻訳、ラクトースオペロン、遺伝子頻度、動物の分類、細胞周期、ヒトの臓器、ホルモン、バイオーム、標識再捕法、原基分布図、3ドメイン説、ノーベル賞受賞者、ツベルクリン反応、血糖調節	選択	★★☆☆
2	生命現象と物質	生物 呼吸	空所補充・選択・記述	★★☆☆
3	生殖と発生	生物 動物の配偶子形成	選択・記述	★★☆☆
4	生殖と発生	生物 性決定、三毛猫の遺伝	空所補充・記述	★★☆☆
5	生物の環境応答	生物 光走性、神経、脳	空所補充・選択・記述	★★☆☆

23年度と同様に大問5題構成の記述式。論述問題は毎年10問程度出題され、字数が指定されるものや解答欄に収まるように答えるものが見られる。大問1は小問集合で、小問数は15~20問程度が多く、24年度は18問だった。

年度によって難度は違うが、ここで時間をかけ過ぎないようになりたい。また、23年度はほとんど手がつけられないほど非常に難度の高い問題が多かったが、24年度は何とか手をつけられる問題が多く、易化した。

物理

解答形式 ▶ 記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学	壁・床との衝突を含む落体運動、合体	記述・描図	★★☆☆
2	電磁気	RC回路、電気振動、電磁波の発生	記述・描図	★★☆☆
3	熱力学	ピストンにばねがついている場合の気体の状態変化	記述	★★☆☆
4	波動	ヤングの実験	記述	★★☆☆
5	原子	半減期、原子核反応	記述	★★☆☆

24年度も、例年通り全分野から出題された。23年度と比べると典型問題の割合が増え、受験生にとっては解きやすかったのではないだろうか。しかし、試験時間に対して問題数が多く、24年度の大問5のような計算が重たい問題も含まれており、さらに解答の過程まで記述しなけ

ればならないため、時間内に問題を解き切ることは困難。24年度では、まず解きやすい大問2~4から手をつけ、ここである程度の得点を確保し、時間が余れば大問1・5のように若干難度が高い、また計算に時間がかかる問題に手をつけるというような戦略で臨んだ方がよい。

兵庫医科大学

2025年度 入試への 対策

【英語】

90分で大問4題しかなく、内容を問う問題は皆無であるため、速読を意識する必要はない。その代わりに語句整序や単語の空所補充が多く出題されるため、500語程度の英文を精読するとよい。特に近年医療系の英文が多く出題されるので、医療系単語も学習したほうがよい。英文和訳問題も3題出題されるため、「英文熟考上・下」で文構造を意識して日本語に直す練習をする。さらに「やっておきたい英長文300・500」や「1日20分・30分の英長文」を演習し、復習として全訳をするとよい。空所補充対策としてメディカルラボの読解チェックテストのベーシックBとスタンダードBを演習することを勧める。最後に大問4の和文英訳対策としてZ会の「英作文のトレーニング必修編」の演習は必須である。さらに余裕があれば「英作文のトレーニング実践編」まで演習できるとよいだろう。

【数学】

小集合は基本的な問題が多いため、『チャート』などの標準的な参考書で定型問題に対する解法を習得しておく。2022年[1](5)では、平均値の定義から推察させる問題が出題されており、解法の丸暗記ではなく本質を理解しておく必要がる。大問対策としては『チョイス』や『プラチカ』など標準的な国公立大学の誘導形式の問題演習に取り組んでおく。コロナ以前は非常に難度の高い問題も出題されていたため、難関国公立大学の問題にも取り組み思考力を養うのがよい。また、2022年度はすべて論述形式であったため、簡潔な答案を作成する練習も必要であろう。

【化学】

記述形式。計算問題の導出過程を記す解答欄が大きいことが特徴。グラフ作成も頻出なので、過去問を参考に軸や反応量に注意して記載練習を積んでおこう。『化学重要問題集』の解答をわかりやすく迅速に記せるようにしよう。理論の計算やグラフだけでなく、有機の構造決定も進めておこう。他大学過去問に多く取り組んでおくとよい。『私立医学部大学別実力判定テスト 兵庫医科大学』で解答作成のスキルも磨こう。

【物理】

本学の攻略法は、なんといっても問題の難易度の見極めである。非常に問題数が多いため、あまり時間がかからない軽い問題と、計算や解法分析に時間がかかる重たい問題を、問題を解き始める前にある程度判断し、まずは軽い問題から解いていてもらいたい。軽い問題をほぼ完答できれば、十分に合格点に達する。欲を出して全てを解こうとはせず、軽い問題を丁寧に解いていてもらいたい。

【生物】

まずは『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に速く解く力を身につけよう。09年度以降、大問1は小問集合である。「すべて選べ」の形式が多く、正確な知識が必要となる、本学の過去問はもちろん、関西医科大学の大問1も同様の形式なので取り組んでおくとよい。また、論述問題の出題も多いため、『記述・論述問題の完全対策』などで演習し、十分な対策をしておこう。毎年時間に対する問題の分量が多いので、できるだけ多くの年度の過去問演習を時間を気にしながら行って、感覚をつかんでおきたい。

川崎医科大学

2024年度
入試分析

英語

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 少ない

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	文法・語法	—	空所補充	選択	★★★☆☆
2	読解	人文系 約800語	「創造的であること」についての長文問題(内容一致・内容説明・空所補充・語句整序)	選択	★★★☆☆
3	読解	医療系 約500語	「健康な状態を取り戻そうとする男」についての長文問題(内容一致・内容説明・空所補充・同意表現)	選択	★★★☆☆

23年度から大きな変化はない。大問1の空所補充は23年同様、熟語や定型表現などの問題が多く出題された。大問2・3の読解問題の読み取り内容は簡単ではないが、選択肢が易しい。空所補充や同意表現では知識が、内容説明や内容一致では読解力が問われている。大問1対策

としては、語法・熟語の分野を重点的に学習する。文法の典型問題も出題されるので、文法の勉強も欠かせない。大問2・3対策としては、700語程度の読解問題集を利用し、段落要約を意識して精読する。直前期には過去問で選択肢の吟味の仕方を習得する。

数学

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	図形と方程式、 積分法的应用	Ⅱ、Ⅲ 2直線のなす角、線形計画法、回転体の体積	空所補充	★★★★☆
2	平面ベクトル	C 垂直条件、分点公式、面積比	空所補充	★★★☆☆
3	極限、微分法的应用、 積分法的应用	Ⅲ $(n+1)$ 次関数、 $(n+2)$ 次関数の極大、面積、無限級数	空所補充	★★★☆☆

18年度以降、ほぼ同様の難度で標準的な問題が出題されている。全問に数学Ⅲの内容が含まれる年度もある。典型問題そのままの問題が多い年度もあれば、誘導に従い典型問題の考え方を組み合わせて解く総合的な問題が出題される年度もある。難問ではないが誘導に乗りにくい

ものもあり、高い順応性も要求されている。相当量の計算が必要な問題もあり、正確な計算力も求められる。特に、数学Ⅲの微分法・積分法の計算はしっかりと取り組んでおきたい。

化学

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	理論	純物質、イオンの名称、イオン半径、電子、同位体、塩の性質、逆滴定、水銀柱	選択	★★★☆☆
2	理論、無機	分子量測定、水和物の析出量、気体の圧力、燃焼熱、酸化還元反応、鉛蓄電池(負極・電解液の質量)、成分元素の検出、金属イオンの反応性	選択	★★★☆☆
3	無機、有機	金属単体の性質、鉄の製錬、脂肪族化合物の反応性、芳香族化合物の構造、アミノ酸電離平衡、緩衝作用、アミノ酸、ドーパミンの構造式、アセチル化	空所補充・選択	★★★☆☆

大問3題。大問1は、理論のみの化学基礎8問、化学1問。大問2は、化学の理論7問、無機1問。大問3は、無機2問、有機5問。最後のアドレナリンの合成過程は、側鎖の反応を順次たどると解ける良問だった(24年度の日本医科

大学後期に類題)。また、正誤問題では2つ選ばせるものもある。基本問題では、ケアレミスに気をつける必要がある。化学用語の定義、文字式計算、グラフ、構造式が頻出している。過去問やマーク式問題集などで実力をつけよう。

生物

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 難化

時間に対する分量 少ない

大問	分野		内容	出題形式	難易度
1	生命現象と物質、 生物の環境応答	生物基礎、 生物	細胞膜、タンパク質、筋収縮	選択	★★☆☆
2	生殖と発生、 生物の環境応答、 多様性と生態系	生物基礎、 生物	DNA、細胞周期、アズキゾウムシ、細胞内共生説	選択	★★☆☆

23年度と同様に大問2題構成でマーク式。特に関係のない分野の問題を複数集めて一つの大問となっており、そのため出題される分野が幅広く広がっている。また、基本的な知識を問う問題が多いため、苦手な分野を作らないように

して、幅広く正確な知識をつけないといけない。ケアレミスにも十分気をつけて解く必要がある。データ処理が必要な考察問題もほぼ毎年出題されているので、過去問で演習しておこう。

物理

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学、熱力学	小物体の繰り返し衝突、熱量の保存	選択	★★★☆☆
2	力学、電磁気	一様電場中での小球の単振り子運動、みかけの重力	選択	★★★☆☆
3	電磁気	はしご型抵抗の直流回路	選択	★★★☆☆
4	電磁気	磁場中における荷電粒子の運動	選択	★★★☆☆

例年、大問4題構成。全分野から偏りなく出題されるわけではなく、特に力学からの出題が多い。問題の分量はそれほど多くはないため、余裕を持って解答することができる。基本～標準レベルの問題が大半だが、過去には高校物理の内容というよりは、「理科」的な要素の強い

い問題もよく出題されていた。また24年度の大問1のように、数学的な解析を必要とする問題も頻出している。この手の問題は問題集に掲載されていないので、過去問を用いて対策をしておきたい。

川崎医科大学

2025年度 入試への 対策

【英語】

大問1の空所補充や長文中の空所補充や同意表現などで語彙力が必要となるので、「ターゲット1900」をしっかりと覚える。次に「ネクストステージ」の文法・語法・イディオム・語彙の分野を学習する。読解は「やっておきたい英長文300・500」と「英語長文出題パターン1・2」を演習する。特に後者の問題集では選択問題を解答する際にただ正解を選ぶだけではなく、誤りの選択肢がなぜ誤っているかを考えるとよい。これができるると大問2と3の読解問題で出題される内容説明や内容一致のやや難しい問いをも正解できるようになる。最後に過去問で傾向を掴んでおくとうい。川崎医科特有の選択肢に慣れるためにも3年～5年分の過去問を演習することが望ましい。

【数学】

標準的な難度ではあるが出題分野は年によってばらつきがあるため、『チャート』などの標準的な参考書で基本的な解法はすべて習得しておく。特に、微積分の範囲は比較的得点しやすいので、重点的に練習しておくとういだろう。計算力が必要な問題も多いため、計算練習は欠かせない。本学の過去問に取り組んでおくとうい。誘導形式の問題練習としては獨協医科大学、杏林大学の過去問で練習するとうい。

【化学】

マーク形式。第1問は化学基礎メイン、第2問・第3問は化学がメインの小問集合。計算と知識の問題バランスがよい。『ベストフィット化学基礎・化学』などを活用するとうい。『チャート式化学基礎・化学』などの参考書を熟読し、化学資料集に載っている化学物質・医薬品・新規性の新素材・ノーベル賞の研究内容などの理解を深めておこう。解ける知識問題で時間短縮できるように過去問やマーク形式の演習も必須である。

【物理】

基本～標準レベルの問題が中心であるが、年度によっては典型的な問題集には載っていないような、受験生が初めて見る題材が出題されたこともある。このような問題は、比較的誘導が丁寧であるため、過去問を用いて誘導にのって解答する練習をしておきたい。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりとした基礎力を身につけよう。幅広く正確な知識を身につけることが最も有効である。特別難しくはないが考察問題が毎年のように出題されている。苦手ならば『生物【実験・考察問題】の特別講座』や『生物実験考察入門』などで基本的な実験考察問題の考え方を身につけておこう。

久留米大学

2024年度
入試分析

英語 (前期)

解答形式▶記述／マーク

問題の全体難易度 ★★★☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	語彙	—	空所補充	選択	★★★☆☆
2	読解	—	不適文削除	選択	★★★☆☆
3	読解	社会・医療系 約450語	「認知症のリスクの減少に関連する地中海地方の食事」についての長文問題(語句整序)	選択	★★★☆☆
4	読解	人文系 約500語	「無能という武器」についての長文問題(空所補充・内容一致)	選択	★★★☆☆
5	読解	社会・科学系 約800語	「森林火災によって増加するネコの血柱」についての長文問題(内容一致・同意表現選択)	選択	★★★☆☆
6-1	英作文	—	「レコード売り上げの伸び」についての和文の英語での要約	記述	★★★☆☆
6-2	読解	人文系 約100語	「世界一身長の高い女性が飛行機に乗る」についての英文の日本語での要約	記述	★★★☆☆

出題形式も難度も例年通り。大問1の空所補充で問われる語彙はかなりハイレベル。大問2の不適文削除は2題しかないが、慣れていないと時間がかかる。大問3の長文中の語句整序は過去にはかなり難しかったこともあったが、近年は標準的。2つの読解問題の英文内容は簡

単ではないが、選択肢が易しいので高得点が狙える。本学の語彙レベルは高いので、最低でも市販の単語帳を1冊完全に仕上げ、英検準1級や1級レベルの単語帳にも目を通しておきたい。他大学にはない形式の問題が多いので、過去問で十分慣れておく必要がある。

数学 (前期)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆ やや難

前年との難易度比較 やや難化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	数学と人間の活動	A 2次不定方程式	空所補充	★★★☆☆
2	極限	Ⅲ 無限等比級数、収束条件	空所補充	★★★☆☆
3	図形と方程式、 対数関数	Ⅱ 領域の面積、線形計画法	空所補充	★★★☆☆
4	積分法の応用、 平面上の曲線	Ⅲ、C 極方程式で表された曲線の面積・長さ	空所補充	★★★☆☆
5	数列	B 二項係数による数列の和	空所補充	★★★☆☆

22年度までは、典型問題や入試問題に取り組んでいると見かけるであろう問題が多く並んでいたが、23年度からはそのような問題が見られなくなり、24年度は難度の高い問題が多く出題された。試験時間を踏まえるとじっくり考えて取り組

む余裕はない。確実に解ける部分を早急に終わらせて、得点を稼いでおきたい。複数の解法を使い分けられる力と迅速かつ正確な計算力は必須。典型解法を一通り学習したあと、標準的な国公立大用の問題集などで演習するとよい。

化学 (前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆ 標準

前年との難易度比較 やや難化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問5問(理論)	分子の沸点、両性物質、分子の電子式、法則名、イオンの名称	選択・記述	★★★☆☆
2	理論	気体の圧力、飽和蒸気圧、理想気体と実在気体	選択・記述	★★★☆☆
3	理論、無機	1族元素の性質、水素の単体と化合物、ナトリウムの単位格子(充填率)	選択・記述	★★★☆☆
4	有機	アミノ酸の電離平衡、ペプチドの呈色反応、アセチル化	記述	★★★☆☆

大問4題。大問1は18年度から小問5問形式だが、すべて知識問題で構成(23年度は計算3問)。大問2・3に論述問題が各1題。大問2の飽和蒸気圧の計算問題以外は、解きやすい問題が多かった。これまで出題が少なかった天然高分子化

合物も出題された。大問3(5)論述は、大学が公開している解答例を参考にしよう。語句、名称、化学反応式、計算、理由説明、構造式などの典型問題が多く、計算問題は有効数字2桁指定が多い。前期、後期併せて過去問に取り組もう。

生物 (前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆ 標準

前年との難易度比較 易化

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	生命現象と物質	生物 一塩基多型	選択・記述	★★★☆☆
2	生物と遺伝子、 生物の進化と系統	生物基礎、 生物 原核生物	空所補充・選択・ 記述	★★★☆☆
3	生命現象と物質	生物 トリプトファンオペロン	空所補充・選択・ 記述	★★★☆☆
4	体内環境の維持	生物基礎 体液	空所補充・選択・ 記述	★★★☆☆

23年度と同様に大問4題構成の記述式。論述問題は毎年出題され、25～100字の間で指定される場合が多い。24年度は30字、50字、50字の3問出題された。基礎的な知識・論述問題から考察問題まで幅広く出題される。限られた

字数でコンパクトにまとめる練習をしておく必要がある。解きにくい問題や見慣れない問題が出題されることがあるが、問題量に対して時間は十分にあるため、焦らずにじっくりと考えることができる。

物理 (前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学	剛体のつり合い	記述	★★★☆☆
2	熱力学	断熱自由膨張、ピストンにばねがついているときの気体の状態変化	記述	★★★☆☆
3	電磁気	自己誘導、相互誘導	記述・描図	★★★☆☆

大問3題構成で、例年、力学、電磁気で各1題、残り1題が波動、熱力学のいずれかから出題される。本学の入試偏差値を考えると、出題される問題の難度は非常に易しい。そのため、合格者平均点が約90%の年度もあっ

た。ほぼ満点を狙うつもりで、過去問演習等で準備をしておきたい。また、グラフの描図、解答理由の記述、SI国際単位系を用いた単位の記述などの設問が頻出である。これらについても、過去問を用いて慣れておきたい。

久留米大学

2025年度 入試への 対策

【英語】

本学の入試問題では高い語彙力が問われている。そのため語彙力養成が必須。「ターゲット1900」で語彙の土台を形成し、「英検準1級単語・熟語問題」や「出る順パス単英検準1級」で本学の入試に対応できるまで語彙力を高める。読解問題は内容一致中心の出題であるため、「英語長文パターン演習2・3」を段落要約しながら演習する。ラボ生なら読解のCTスタンダードAを演習してもよい。大問2の不適文削除は岩手医科やセンター試験の過去問で練習しておく。大問3の英文中語句整序は文構造が理解できていないと答えが出ないため、「英文熟考上・下（新版）」で文構造を意識して解釈する。記述問題は英作文と和訳を土台とした問題であるため、「Z会英作文のトレーニング・必修編」と前述の「英文熟考上・下」を演習してから、本学の過去問に取り組む。

【数学】

まずは『チャート』や『チョイス』などの標準的な参考書や問題集で定型的な問題の解法を身に付ける。ただし、表面的な解法の丸暗記では通用しないので、解法の本質をしっかりとつかむことが重要である。例えば、誘導がなくてもとけるようにしておきたい。その上で、『プラチカ』などの標準的な国公立大学用の問題集などで、複数の分野にまたがった総合的な問題の演習をするとよいだろう。

【化学】

記述形式。第1問は小問集合。計算問題、理由説明が頻出だが、24年度前期は知識問題のみだった。『ベストフをット化学基礎・化学』『エクセル化学〔総合版〕』に取り組み、その論述問題も把握しておこう。大阪医科薬科大学や愛知医科大学なども有効である。前期・後期の過去問を活用して、苦手な項目をリストアップして対処しよう。有機では基本的な反応や性質を習得した上で、糖やアミノ酸・タンパク質、合成高分子に備えよう。

【物理】

問題がそれほど難しくはないので、ケアレスミスや問題文の読み違いなどが致命傷となる。過去問演習をする際は、しっかりと時間を測り、もし時間内に解き終えたとしても本番同様、丁寧に見直しをし、ミスを減らす工夫や対策を練っておきたい。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりとした基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に解く力をつけること。「生態と環境」や「生物の進化と系統」などの生物の後半の単元まできっちりと仕上げる。計算問題と論述問題が合否を分けるので、『大森徹の生物計算・グラフ問題の解法』や『記述・論述問題の完全対策』などを使って対策しておこう。また、100字以内の論述問題には、知識だけでは書けない考察問題が含まれる場合がある。その対策としては、単なる暗記ではなく、普段から様々な生命現象について多方面から考えて理解する学習をすると良い。

産業医科大学

2024年度
入試分析

英語

※英語は著作権処理の都合上、問題が公開されていないため、大問ごとの分析表および分析コメントは掲載していません。



数学

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準 前年との難易度比較 ↑ やや難化 時間に対する分量 多い

大問	分野		内容	出題形式	難易度
1	数と式	I	単位計算	記述	★★☆☆
2	数学と人間の活動	A	不定方程式	記述	★★★☆☆
	数学と人間の活動	A	累乗数の下2桁	記述	★★☆☆
	積分法の応用	III	区分求積法	記述	★★☆☆
	対数関数	II	対数方程式	記述	★★☆☆
	式と証明	II	二項係数の最大値	記述	★★☆☆
	複素数平面	C	共役複素数、方程式	記述	★★☆☆
	積分法の応用	III	回転体の体積	記述	★★☆☆
	積分法の応用	III	道のり	記述	★★☆☆
	空間ベクトル	C	垂直条件	記述	★★☆☆
3	確率	A	あいこの確率	記述	★★☆☆
	図形の性質	A	方べきの定理	記述	★★☆☆
4	図形と方程式	II	垂直二等分線の通過領域	記述	★★☆☆
5	数列	B	群数列	記述	★★☆☆

大問が5題に増加。大問1は4年連続で医学を基にして問題が作られており、理科のような単位変換をするのみ。過去問で経験しておくとい。大問2の小問集合が20年度以前に戻り、難度の高い問題が含まれるようになった。大問3～5は21年度に易化して以降、難度に大きな差はない。過去には離心率やオイラー線などの知識を

必要とする出題もあったため、解ける問題から確実に解く姿勢も大切だ。数学Ⅲは、誘導なしでは難しい問題や計算が面倒な問題も含まれていることも多い。定積分の計算はこれまでよく出題されている。問題演習に取り組む際に計算を工夫したり別解を考えるなどして、計算力・思考力を養っておくといだろう。

化学

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★☆☆☆ 易 前年との難易度比較 → 変化なし 時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	理論	陽イオン交換樹脂法による水酸化ナトリウムの製法	空所補充・記述	★★☆☆
2	理論・無機	鉄の原子量、鉄の製錬反応、鉄単体の酸化、トタンにおける鉄の保護	空所補充・記述	★★☆☆
3	有機	芳香族の分離、元素分析、酸無水物	記述	★★☆☆

大問3題、2科目で100分。迅速に知識問題と40字以内の論述を解答して、大問1の計算問題に取り組むことが大切だ。例年、計算問題は定番で、化学反応式、有機の構造決定の出題が多いが、時間的な厳しさは他大学よりやや少

なめ。本番では、構造式の記載例や有効数字指定に注意しておこう。工業的製法、日常に関連する物質が多い。そのため、無機・有機化合物の用途、天然・合成高分子化合物の計算問題に注意して対策しておこう。

生物

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ やや難 前年との難易度比較 → 変化なし 時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	生物の環境応答	生物 眼	空所補充・選択・記述・描図	★★☆☆
2	体内環境の維持	生物基礎 酸素の運搬	空所補充・選択・記述	★★☆☆
3	体内環境の維持、生命現象と物質	生物基礎 ABO式血液型、タンパク質	空所補充・選択・記述	★★☆☆

23年度と同様に大問3題構成の記述式。知識問題が増加した。しくみを説明させる記述などしっかりとした知識がないと解答できない問題が多いので、中途半端な知識では正答できない。また、データの読み取り問題は、生物基礎・生物の

知識を基にして考察していくので、知識の使い方をあらかじめ練習しておく必要がある。記述や考察は一人での学習は難しいと思われるので、できれば学習を定期的に見てもらい、書き方や考え方の修正を行っていくことが望ましい。

物理

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準 前年との難易度比較 → 変化なし 時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学	自由に動くことのできる板上での人の運動（重心、運動量保存則）	記述	★★☆☆
2	電磁気	自己誘導、相互誘導	選択・記述	★★☆☆
3	波動	マイケルソンの干渉実験	選択・記述	★★☆☆

例年通り、大問3題構成。21年度以前の入試では、問題の設定が複雑であったり、受験生になじみのないテーマが出題されたりと、非常に難度が高かったが、ここ数年は標準レベルの典型問題が出題されており、難度は落ち着いた印

象だ。そのため、合格点は非常に高得点となることが予想され、ケアレスミスでの失点は致命傷となる。また、試験時間にあまり余裕はないため、解ける問題から確実に点数を稼いでいくこと。

産業医科大学

2025年度 入試への 対策

【英語】

読解問題と自由英作文のみの出題であるため、国公立2次試験に似ている。まずはターゲット1900を利用して語彙力を高め、「やっておきたい700」「1日40分の英長文」で入試基礎力を確立する。さらに記述力を高めるため国公立大2次対策問題集（新こだわって！英語長文読解標準など）を演習するとよい。大問1の空所補充のみの読解問題対策はまず選択式の問題（岩手医科・兵庫医科・浜松医科などの過去問）で慣れ、その後熊本大理系の過去問に取り組むとよい。自由英作文は他大学のテーマでも構わないので、「100語程度の英文を書くことに慣れる」をテーマに学習する。語数はここ数年100語程度に固定されているので、型を作っておくと解答時間を削減できる。最後に本学の過去問を3年から5年分演習する。

【数学】

2021年度から出題されている大問1は本大学の過去問を経験しておくことが大切である。小問集合は幅広い分野から出題されているので、『チャート』などの標準的な参考書で定型解法を素早く確実に解けるようになるまで繰り返し練習しておく。本大学の過去問や藤田医科の小問集合に取り組むのもよい。大問は『チョイス』などの標準的な問題集や、標準的な国公立大学の過去問で誘導形式の問題演習をしておこう。計算を工夫したり、複数の解法を考えるなどして思考力を養っておくとよいだろう。分量が多いので、解ける問題を確実に解くことが重要である。

【化学】

記述形式。2科目100分、高分子を含めて計算問題が多く、『ベストフィット化学基礎・化学』『エクセル化学〔総合版〕』の計算問題などに取り組んで解答力を身につけておこう。論述は、本学過去問だけでなく、久留米大学などの簡潔な理由説明を求める問題を活用するとよい。普段から無機は化学反応式や各種物質の性質をまとめておこう。有機は主要な化合物の分子量や性質を把握しておく、計算時間の短縮と正確さにつながる。

【物理】

問題の難易度としては「名問の森」程度の標準的な問題集を解き込めば十分である。あとは、難易度が落ち着いた2022年度以降の過去問を用いて、問題を解く順番、誘導にうまく乗るなど、実践的な訓練を積んでもらいたい。

【生物】

『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を仕上げた上で、実験問題を中心に『生物標準問題精講』など発展的な問題集にも取り組むと良い。発展的な知識とプロセス重視の実験問題が頻出するので、普段から、様々な実験の結果の意味だけでなく、手続きについてなぜそうするのかや、実験の背景なども一緒にまとめておこう。普段から資料集の実験などを自らの手でまとめるなど、書く練習をしておきたい。教科書レベル以上の問題が多く出題されるので、教科書はもちろん、教科書に詳しい説明がないことについても貪欲に調べる姿勢が必要である。

福岡大学

2024年度
入試分析

英語

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★☆☆☆ 易

前年との難易度比較 ↑ やや難化

時間に対する分量 少ない

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	社会系 約100語	「パラドクスの多い脳」についての長文問題(英文和訳)	記述	★☆☆☆
2	読解	社会系 約650語	「トスカーナ地方のwine window」についての長文問題 (内容一致)	選択	★☆☆☆
3	文法	—	空所補充	選択	★☆☆☆
4	発音	—	発音アクセント	選択	★☆☆☆
5	英作文	—	語句整序	選択	★☆☆☆

例年通りの出題形式。23年度よりやや難化したが、それでも標準レベル。読解の比重が低いため、文法の学習は欠かせない。特に大問3は不適切な選択肢を選ぶ問題で、文法だけでなく文構造も理解しておく必要がある。読解問題は500語

程度の標準レベルの読解問題集を丁寧に学習すれば対応できる。大問1では和訳問題も出題されるので、記述の練習もしておく。解答時間70分にしては分量が少ないので、速読ではなく精読に重点を置いた方がよい。

生物

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	生命現象と物質 生物	遺伝情報	空所補充・選択・記述	★☆☆☆
2	生命現象と物質 生物	同化	空所補充・選択・記述	★☆☆☆
3	体内環境の維持 生物基礎	移植	空所補充・選択・記述	★☆☆☆
4	生殖と発生 生物	ショウジョウバエの発生	選択・記述	★☆☆☆
5	多様性と生態系 生物基礎	森林の遷移	選択・記述	★☆☆☆

23年度と同様に大問5題構成の記述式。23年度に久しぶりに出題された論述問題の出題はなかった。計算問題は23年度と同じく4問。考察問題も出題されるが、生物用語を問う知識問題が中心となるので、どの分野も偏りなく用語

の知識をつけておくことが望ましい。出題形式が似ているので、過去問演習の一環として他学部の問題を解いてみることも有効だ。

数学

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	微分法的应用	Ⅲ 三角関数の対称式の置き換えによる最大	空所補充	★☆☆☆
	平面ベクトル	C 点の位置ベクトル	空所補充	★☆☆☆
	確率	A 確率の最大	空所補充	★☆☆☆
2	平面上の曲線	C 媒介変数表示	空所補充	★☆☆☆
	データの分析、数学と人間の活動	I、A 平均値、中央値	空所補充	★☆☆☆
3	微分法的应用、積分法的应用	Ⅲ 接線、面積	記述	★☆☆☆

大問1が3題、大問2が2題で、空所が各2カ所ある小問集合。幅広い分野から出題され、整数やデータの分析、複素数平面は頻出だ。例年、難問というほどのものはないが、典型解法にはめるだけというものでもない。しっかりと学習していないと得点しづらい問題が多い。24年度は大問2の計算

量が多く解きづらかっただろう。大問3の記述問題は例年、数学Ⅲの微分法・積分法の問題で基本的な内容が多いが、取り組みにくい関数の出題が増えている。これを丁寧に計算して完答できるかどうかが合否を左右する。標準的な問題を確実に素早く解く練習をするとよいだろう。

物理

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↓ やや易化

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	波動	気柱の共鳴	空所補充・選択	★☆☆☆
2	電磁気	点電荷による電場と電位、エネルギー保存則	空所補充・選択	★☆☆☆
3	力学	摩擦のある台上での物体の運動	記述	★☆☆☆

大問3題構成で、2題はマーク式、もう1題は記述式。例年、力学と電磁気学は必ず出題され、残りの1題を波動、もしくは熱力学が占める。記述式の問題は、力学と電磁気のいずれか。基本～標準レベルの典型問題で構成され、試験時間に対する問題数もそれほど多くはないため、合格者の平均

点は非常に高くなっている。つまり、1つのミスが合否に大きく左右する。過去問演習を通じて、まずは問題の難度を把握し、その上で選択肢の中から正答を探すことに慣れておきたい。また、見直しをしっかりと行い、ケアレスミスを防ぐ方策を練っておきたい。

化学

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問3問 (理論、有機)	酸化還元、水蒸気圧、セロピオースの構造	選択	★☆☆☆
2	無機	1族・2族元素の性質、アルカリ金属塩の溶解度、シュウ酸カルシウム水和物の加熱変化	選択・記述	★☆☆☆
3	理論	酢酸の電離平衡、緩衝作用、加水分解	空所補充・選択・記述	★☆☆☆
4	有機	合成高分子の重合様式、ナイロン66、フェノール樹脂	空所補充・選択・記述	★☆☆☆

大問4題。他学部共通の標準問題で構成され、選択問題が多い。大問1は例年と同じ3問。大問2～4は典型問題だが、24年度のシュウ酸カルシウムの質量変化グラフ、中和点以降のpH計算、フェノール樹脂の中間体など「や

や細かいところ」を見逃さない視点が医学部合格には必要だ。例年、どの分野も計算問題が多い。特に高分子化合物では、知識をもとにその計算問題に対応できるようにしておこう。過去問で出題傾向に慣れておくとうい。

福岡大学

2025年度 入試への 対策

【英語】

大問1の英文和訳対策としては、「英文熟考上」「英文解釈技術70」などの解釈本を1冊仕上げれば対応できる。大問2の長文対策は「1日30分の英長文」「英語長文出題パターン1・2」を精読し、選択肢は消去法を駆使して正解することに集中する。大問3の文法問題と5の語句整序対策はまず「エバーグリーン」を学習し「文法の基礎力を身につけるトレーニング」で確認後、「ネクストステージ」「英文法・語法良問500・空所補充編・整序作文編」「英語整序問題精選600」で徹底演習する。大問3と5は全体の問題数の半分以上を占めているので、読解以上に時間をかけて学習することが望ましい。最後に発音問題は「短期で攻める最頻出発音・アクセント300」を演習する。本学の問題は難易度が標準的で、分量も少ないため取り組みやすいが、近年減少傾向にある発音や文法も出題されるため、読解中心の勉強だけでは対応できないことを留意しておきたい。

【数学】

幅広い分野から出題されるので『チャート』や『チョイス』などの標準的な参考書や問題集で苦手分野を作らないような演習をしておくことが必要である。例年、[3]は数Ⅲの微積分からの出題であり確実に得点したい所ではあるが、計算力が必要となる傾向にあるので微積分の計算はしっかり練習しておきたい。また、解答スペースが狭いため、必要なことを清書する特訓も重ねておきたい。ケアレスミスがないように、解答を見直習慣をつけておくとよだろう。[1], [2]はそれぞれ1問ずつ難しめの問題が出題されるので、それ以外は確実に得点する。

【化学】

記述形式。第1問は小問3問が定番。それ以降の大問はリード文の空所補充への選択問題が頻出である。参考書や化学資料集、『ベストフィット化学基礎・化学』などで実験操作のイメージ構築しておこう。選択問題が多いため、迅速に解答しよう。入試では、やや難度の高い問題が合否を左右するので、各年度の過去問をチェックして、勝負問題を見極めておこう。メディカルラボ『私立医学部大学別 実力判定テスト 福岡大学』にも取り組むとよい。

【物理】

非医学部の入試問題も、医学部入試に用いられる問題と、レベル、出題形式、難易度がほぼ同じである。つまり、医学部以外の学部の入試問題も練習に用いることができる。余裕があれば、医学部以外の入試問題も活用して、過去問演習を行ってほしい。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりとした基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に解く力をつけること。過去問については、医学部の問題はもちろんだが、本学の他学部の問題も医学部と似たような出題形式なので、併せて演習することをお勧めする。

問題集・参考書一覧（英語）

※「学校採用専用」「購入不可」についての入手は、中古等になります。

テキスト名	出版社名	難易度	備考
大学受験スーパーゼミ 徹底攻略 入門英文解釈の技術70	桐原書店	易	
1日20分の英語長文15	河合出版	易	
英語長文出題パターン演習 1	河合出版	易	
やっておきたい英語長文300	河合出版	易	
英単語ターゲット1900 6訂版	旺文社	標準	
Next Stage 英文法・語法問題 4th Edition	桐原書店	標準	
英文法・語法 良問500+4技能 空所補充編	河合出版	標準	
英文法・語法 良問500+4技能 誤文訂正編	河合出版	標準	
英文法・語法 良問500+4技能 整序英作文編	河合出版	標準	
英文法・語法問題 GRAMMAR MASTER グラマスター 改訂第2版	Z会	標準	
総合英語Evergreen	いいずな書店	標準	
総合英語Evergreen 完全準拠文法問題集 文法の基礎力を身につけるトレーニング	いいずな書店	標準	
大学受験スーパーゼミ 全解説 実力判定 英文法ファイナル問題集 標準編	桐原書店	標準	
大学入試 関正生の英語の発音・アクセント プラチナルール	KADOKAWA	標準	
短期で攻める最頻出問題 発音・アクセント300	桐原書店	標準	購入不可
大学受験のための英文熟考 上 改訂版	旺文社	標準	
1日30分の英語長文15	河合出版	標準	
英語長文出題パターン演習 2	河合出版	標準	
やっておきたい英語長文500	河合出版	標準	
大学入試 レベル別 英語長文問題ソリューション 最新テーマ編1 スタンダードレベル	かんき出版	標準	
必修編 英作文のトレーニング	Z会	標準	

問題集・参考書一覧（英語）

※「学校採用専用」「購入不可」についての入手は、中古等になります。

テキスト名	出版社名	難易度	備考
英検準1級 でる順パス単 5訂版	旺文社	難	
英検分野別ターゲット 英検準1級 単語・熟語問題	旺文社	難	
改訂版 鉄緑会 東大英単語熟語 鉄壁	KADOKAWA	難	
英語整序問題精選600 改訂版	河合出版	難	
大学受験スーパーゼミ 全解説 実力判定 英文法ファイナル問題集 難関大学編	桐原書店	難	
大学受験のための英文熟考 下 改訂版	旺文社	難	
1日40分の英語長文10	河合出版	難	
赤本メディカルシリーズ 私立医大の英語 長文読解編	教学社	難	
医学部の英語	旺文社	難	
英語長文出題パターン演習 3	河合出版	難	
やっておきたい英語長文1000	河合出版	難	
やっておきたい英語長文700	河合出版	難	
大学入試 レベル別 英語長文問題ソリューション 最新テーマ編2 ハイレベル	かんき出版	難	
大学入試 レベル別 英語長文問題ソリューション 最新テーマ編3 トップレベル	かんき出版	難	
実践編 英作文のトレーニング 改訂版	Z会	難	
自由英作文編 英作文のトレーニング 改訂版	Z会	難	

問題集・参考書一覧（数学）

※「学校採用専用」「購入不可」についての入手は、中古等になります。

テキスト名	出版社名	難易度	備考
Z会数学基礎問題集 チェック&リピート	Z会	易	
新課程 教科書傍用 4STEP	数研出版	標準	学校採用専用
新課程 チャート式 解法と演習 数学Ⅰ+A／Ⅱ+B／Ⅲ+C（黄チャート）	数研出版	標準	
新課程 チャート式 基礎からの数学Ⅰ+A／Ⅱ+B／Ⅲ+C（青チャート）	数研出版	標準	
大学への数学 1対1対応の演習 新訂版 数学Ⅰ／A／Ⅱ／B／Ⅲ／C	東京出版	標準	
チョイス新標準問題集 数学Ⅰ・A／Ⅱ／B／Ⅲ・C	河合出版	標準	
医学部攻略の数学Ⅰ・A・Ⅱ・B 改訂版	河合出版	難	
医学部攻略の数学Ⅲ 改訂版	河合出版	難	
新課程 2024 スタンダード数学演習	数研出版	難	学校採用専用
入試精選問題集 理系数学の良問プラチカ	河合出版	難	
やさしい理系数学 三訂版	河合出版	難	
理系数学 入試の核心 難関大編 改訂版	河合出版	難	

問題集・参考書一覧（化学）

※「学校採用専用」「購入不可」についての入手は、中古等になります。

テキスト名	出版社名	難易度	備考
高校これでわかる化学基礎	文英堂	易	
高校これでわかる化学基礎	文英堂	易	
ベストフィット 化学	実教出版	易	
ベストフィット 化学基礎	実教出版	易	
マーク式基礎問題集 化学 有機	河合出版	易	
マーク式基礎問題集 化学 理論・無機	河合出版	易	
マーク式基礎問題集 化学基礎 三訂版	河合出版	易	
エクセル化学総合版 化学基礎+化学	実教出版	標準	
新課程 視覚でとらえるフォトサイエンス 化学図録	数研出版	標準	
大学受験Doシリーズ 鎌田の有機化学の講義	旺文社	標準	
大学受験Doシリーズ 鎌田の理論化学の講義 改訂版	旺文社	標準	
大学受験Doシリーズ 福間の無機化学の講義 四訂版	旺文社	標準	購入不可
2024 実戦 化学重要問題集 化学基礎・化学	数研出版	難	
化学の新体系	啓林館	難	
理系大学受験 化学の新演習 改訂版	三省堂	難	
理系大学受験 化学の新研究 第3版	三省堂	難	

問題集・参考書一覧（物理）

※「学校採用専用」「購入不可」についての入手は、中古等になります。

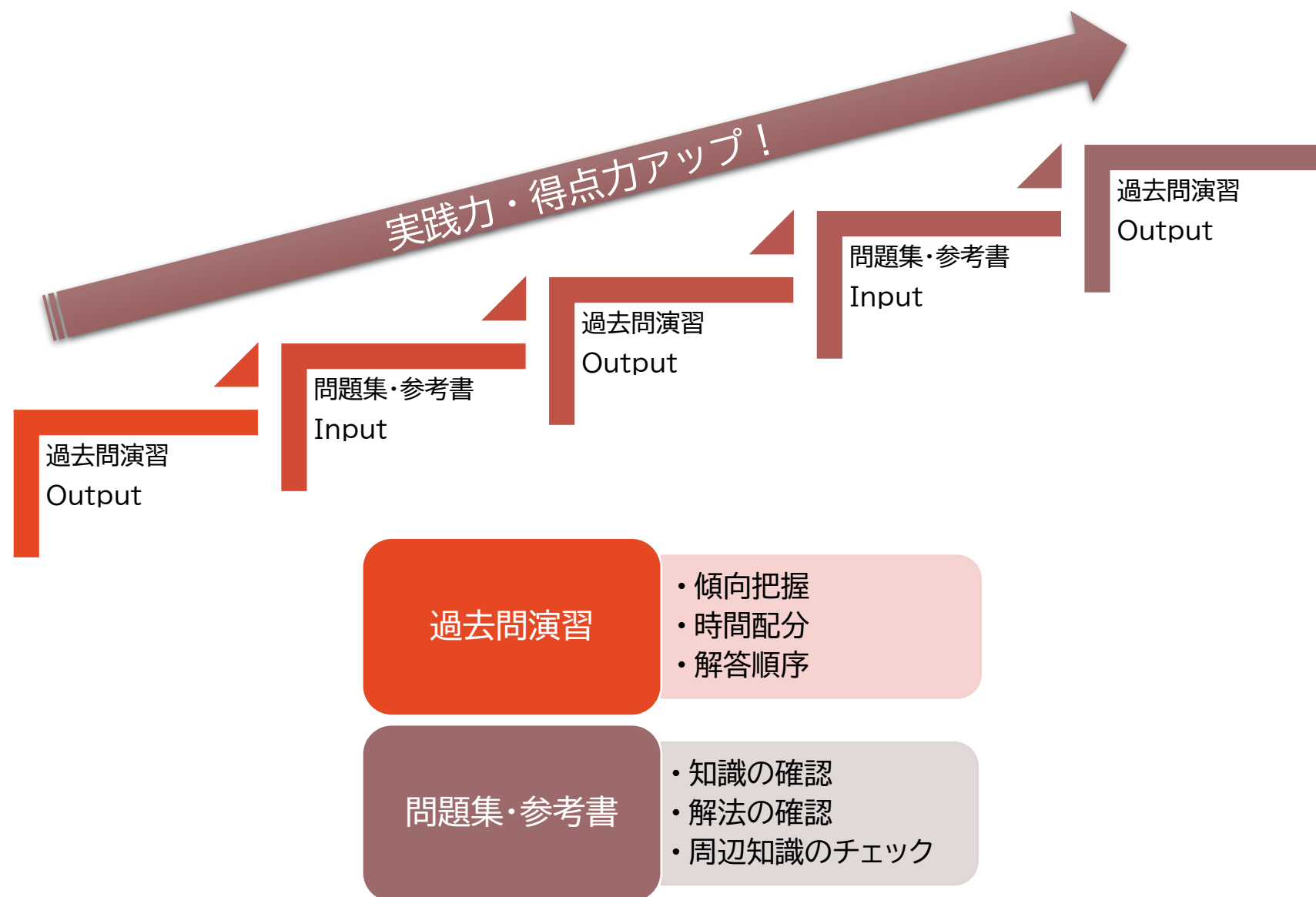
テキスト名	出版社名	難易度	備考
体系物理 第7版	教学社	標準	
物理 基礎問題精講 物理基礎・物理 五訂版	旺文社	標準	
良問の風 物理 頻出・標準入試問題集 三訂版	河合出版	標準	
2024 実戦 物理重要問題集 物理基礎・物理	数研出版	難	
新・物理入門 増補改訂版	駿台文庫	難	
物理 難問題の系統とその解き方 新装第3版	ニュートンプレス	難	
物理 標準問題精講 物理基礎・物理 六訂版	旺文社	難	
名問の森 物理 三訂版	河合出版	難	
理論物理への道標 上／下 三訂版	河合出版	難	

問題集・参考書一覧（生物）

※「学校採用専用」「購入不可」についての入手は、中古等になります。

テキスト名	出版社名	難易度	備考
エクセル生物総合版 生物基礎+生物	実教出版	標準	
新課程 リードα 生物基礎+生物	数研出版	標準	学校採用専用
新課程版 セミナー生物基礎+生物	第一学習者	標準	学校採用専用
生物の良問問題集 生物基礎・生物 新装版	旺文社	標準	
大学受験Doシリーズ 大森徹の生物 計算・グラフ問題の解法 三訂版	旺文社	標準	
大学入試 ゼロからはじめる生物計算問題の解き方	KADOKAWA	標準	
理系標準問題集 生物 四訂版	駿台文庫	標準	
医学部の生物 生物基礎・生物	旺文社	難	
思考力・判断力・表現力を養う 実戦生物 実験・考察問題集	数研出版	難	
生物 記述・論述問題の完全対策 改訂版	駿台文庫	難	
生物 思考力問題精講 生物基礎・生物	旺文社	難	
生物 実験考察問題入門	駿台文庫	難	購入不可
生物 新・考える問題100選	駿台文庫	難	購入不可
生物 標準問題精講 生物基礎・生物 六訂版	旺文社	難	
大学入試 世界一わかりやすい 生物実験・考察問題の特別講座	KADOKAWA	難	

有効な過去問演習



有効な過去問演習

過去問演習を通して全範囲の知識・技能を総復習！

- ・「過去」問は自分が受験する入試では出題されない
- ・過去問演習を通して、受験校の問題傾向・難易度を把握
- ・時間配分、解答順序、捨て問の見極めなどの実践力を養成
- ・解いた以上の時間をかけて解答解説を確認
- ・使い慣れた問題集に戻って知識・技能のメンテナンス
- ・周辺知識や別解も積極的に習得

医学部合格者からのメッセージ

医学部に合格するために大切なこと

- ① 理想の将来を考えること
- ② 基礎を徹底的に固めること
- ③ 絶対にあきらめないこと
- ④ 自分に合った学習環境の選択

医系専門予備校メディカルラボからのメッセージ

生徒一人の
合格のために組まれた
たったひとつの
オーダーメイドチーム。

メディカルラボの「個別指導」は、
生徒一人ひとりをあらゆる角度から捉えたプロ講師陣が、
専門スキルを持った合格マネージャーを中心に
ワンチームで、オーダーメイドの合格プランを構築します。
だから、合格までのあらゆる課題をまるごとサポートできる。
生徒の強み、弱みと向き合いながら、応えていける。
必要なカリキュラムを確実にやり遂げられる。
メディカルラボの個別指導は「一人」に対する「チーム」の総力で、
医学部合格を実現します。



新規生募集！ 入校キャンペーン

冬期
限定

医学部合格メソッドを体験できる

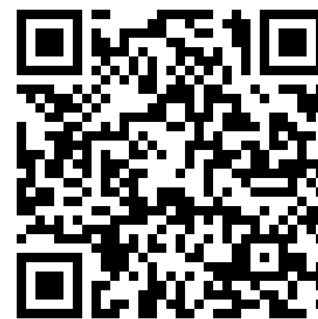
無料体験入学

11/1(金)~1/19(日)

※期間内のご都合の良い日時で実施できます。 ※校舎によって実施期間が異なります。

先着順・定員制

申込受付中！ 詳細はこちら▶



1対1完全個別

冬期講習 直前対策講習

高校生・高卒生・中学生対象

申込受付中

受講期間

11月18日(月)～





株式会社グループ 医系専門予備校
メディカルラボ®

私立医学部大学別

実力判定 テスト

自宅
受験

医系専門予備校
合格者数 **No.1**^{※1} の分析力で、
入試問題を徹底的に再現。

※1. 「株式会社東京商工リサーチ」調べ ※2. 医学部・歯学部最終合格者数(2024年4月27日現在)

対象
14
大学

- 岩手医科大学
- 埼玉医科大学
- 杏林大学
- 順天堂大学
- 東京医科大学
- 東京慈恵会医科大学
- 東京女子医科大学
- 北里大学
- 金沢医科大学
- 藤田医科大学
- 近畿大学
- 兵庫医科大学
- 川崎医科大学
- 福岡大学

受験期間

2024年 9/1^日 ~ 2025年 1/31^金

申込受付中・詳細はこちら



大学パンフレットや入試要項をまとめてチェック

参加大学
50校
以上

2024年 全国医学部 バーチャル・オープンキャンパス

好評開催中！ ～1/31(金)まで 参加無料

キミも今すぐ参加しよう！

詳細はこちら ▶



医師を目指す君たちへ

医学部進学講演会

「チーム・バチスタの栄光」著者

海堂尊先生 特別講演

●対象：医師を目指す小中高生、受験生とその保護者

参加無料

予約制

2部制

医師を目指す君たちへ

「ブラックペアン1988」著者

海堂尊先生

特別講演

視聴無料

「オンデマンド視聴」申込受付中！





河合塾グループ 医系専門予備校

メディカル ラボ®

私立医学部31大学 入試分析会 (一般選抜)

(本資料について)

本資料の著作権は、出典が明記されているものを除き、原則として医系専門予備校メディカルラボに帰属します。
本資料の一部または全部を無断で複写、複製、引用、転載等を行うことを禁止します。